歴史教育における高等学校・大学間接続の抜本的改革

― アンケート結果と改革の提案 ―

2014 年 9 月

高等学校歴史教育研究会

高等学校歴史教育研究会

代表　油井大三郎（東京女子大学特任教授）

小川　幸司（長野県高等学校教員）

木村　茂光（帝京大学文学部教授・日本学術会議会員（史学委員会））

君島　和彦（東京学芸大学名誉教授）

戸川　　点（町田高校定時制教員）

故鳥越泰彦（麻布学園教員）

中村　　薫（大阪大学招聘教員）

桃木　至朗（大阪大学文学研究科教授・大阪大学歴史教育研究会代表）

安井　　崇（東京学芸大学附属高等学校教諭）

吉嶺　茂樹（北海道有朋高等学校（通信課程）教諭）

目次

Ⅰ．はじめに ･･･ 1

Ⅱ．高等学校の歴史教育改革アンケート結果の要旨 ･････････････････････････ 3

Ⅲ．アンケートの経緯と結果の分析 ･････････････････････････････････････ 6

Ⅳ．自由記述の特徴 ･･･ 24

Ⅴ．高等学校歴史教育研究会の改革提言 ････････････････････････････････ 47

Ⅵ．資料

資料１世界史重要用語案 ･･･････････････････････････････････････ 48

資料２日本史重要用語案 ･･･････････････････････････････････････ 60

資料３高等学校の歴史教育改革アンケートへのご協力のお願い ･･････････ 69

Ⅰ．はじめに

私たち、高等学校歴史教育研究会は、2012 年 10 月より２年間、三菱財団の人文科学研究助成を得て、高等学校における歴史教育と大学入試の改革案の検討を進めてきました。メンバーは大学教員５名と高等学校教員５名、合計 10 名からなる小規模な研究会ですが、２年の間に１回の合宿を含む 11 回の研究会を開催し、精力的に検討を進め、2014 年７月には『歴史教育における高等学校・大学間接続の抜本的改革を求めて（第一次案）―世界史Ｂ・日本史Ｂの用語限定と思考力育成型教育法の強化―』を発表しました。この報告書をまとめる直前の 2014 年３月末に麻布中学・高校の教員であった鳥越泰彦先生が生徒を引率中の韓国で急逝され、研究会メンバーに衝撃を与えました。鳥越先生はこの研究会で歴史系の大学入試の国際比較や高校世界史の用語限定案の検討を担当されました。Ⅴの改革提言の巻末に掲載した世界史用語の 2000 語限定案は鳥越先生の最後の仕事となったもので、それを参考に小川幸司先生が修正を加えて完成したものです。

改めて鳥越先生のご貢献に感謝するとともに、心からご冥福をお祈り申しあげます。

同時に、高等学校の歴史教育と大学入試が密接な関係にあることを考え、大学と高等学校教員、教科書編集者、予備校講師など関係者の声を幅広く調査し、より現実的な改革提言を取りまとめるべきであると考え、日本学術会議高校歴史教育分科会と日本歴史学協会歴史教育特別委員会にアンケート調査のご協力をお願いしました。両委員会は、調査の趣旨を評価くださり、文面に修正を加えたうえで、３者でアンケート調査を実施することになりました（アンケートの原文は Ⅵ 資料に掲載）。

アンケートは、2014 年６月末から８月末の２ケ月間に実施しました。全国の大学の歴史系学科、学会、高等学校教員による歴史系の研究会に送付するとともに、世界史研究所（代表・南塚信吾）のホームページに掲載していただきました。また、歴史学研究会、日本西洋史学会、現代史研究会、同時代史学会などのメーリング・リストにも掲載していただきました。

その結果、調査期間が２ケ月という短期間であったにも拘わらず、当初の予想を大幅に上回る 681 通もの回答が寄せられました。締め切りを過ぎてからも 20 数通の回答が寄せられましたので、実質的には 700 通を超える回答があったことになります。ただし、９月初めには集計を始めましたので、９月に入ってからの回答は残念ながら、集計結果に含めることはできませんでした。また、回答には長文の自由記述を記入されたものも多く、合計すると、Ａ４用紙で 86 ページにも及ぶものとなり、回答者の熱意に感激したものでした。ただし、予算の関係でページ数に制約があったため、この報告書に全文を掲載することはできませんでしたので、「Ⅳ 自由記述の特徴」としてその傾向を紹介するにとどめました。この報告書全体は、第一次報告書と同様、世界史研究所のホームページに掲載させていただきますので、そこには自由記述の全文もアップさせていただきます。自由記述部分の詳しい内容を知りたい方はそちらを参照していただければ幸いです。アン

ケートの集計結果については、2014 年９月６日に開催された高等学校歴史教育研究会、９月 17 日に開催された日本歴史学協会歴史教育特別委員会、９月 19 日に開催された日本学術会議高校歴史教育分科会で検討を加え、とりあえずアンケート結果の要旨と結果の分析を３者連名で公表することになりました。また、このアンケート結果を踏まえた改革案については、今後、各組織で検討を継続することになりましたが、高等学校歴史教育研究会としては、Ⅴの「高等学校歴史教育研究会の改革提言」をとりまとめ、関連団体での検討材料としていただきたいと考えました。現在、政府や文部科学省では高等学校地歴科の新科目の検討とともに、思考力の育成を重視する大学入試方式の検討を開始していると聞きますし、民間レベルでも今後様々な検討が進むと考えられますので、この改革提言が少しで参考になれば、幸いに思います。

なお、本報告書の印刷にあたっては、当研究会のメンバーである桃木至朗先生が代表をされている科学研究費（基盤Ａ）「研究者・教員・市民のための新しい歴史学入門」に一部を助成していただきました。記して感謝する次第です。

2014 年９月 30 日

高等学校歴史教育研究会代
表油井大三郎

Ⅱ．高等学校の歴史教育改革アンケート結果の要旨

高等学校歴史教育研究会代表油井大三郎日本学術会議高校歴史教育分科会委員長久保亨日本歴史学協会歴史教育特別委員会委員長近藤一成

１）　高校の歴史教育と歴史系の大学入試に関する実態と改革方向についてのアンケートを高校と大学の教員が同一のフォームで行なった。全国の大学の歴史系学科、歴史系学会、高校教員の歴史系研究会、歴史系教科書出版社、予備校などにアンケート用紙を配布した。このように同一のアンケート用紙で大学と高校教員が回答するのは日本では初めての試みであった。本年６月末から８月末までのわずか２ケ月間で 681 人という当初の予想をはるかに超える回答を得たことは、高校の歴史教育と歴史系の大学入試改革に高校のみならず、大学教員も強い期待を持っている証左であり、この貴重な成果を実際の改革に結びつけることが重要になっている。

２）　回答者の所属別内訳は、高校教員が 391 人（58％）、大学教員が 170 人（25％）、高校を経て大学教員となったものが 61 人（9％）、予備校講師・教科書編集者などからなるその他が 52 名（7.7％）であった。また、記名回答が 510 通（約 75％）、無記名回答が 171 通（25％）であっ

た。回答者の所属機関の地方別分布では、関東が 284 通（41.7%）、中部が 96 通（14.1%）、関西が 83 通（12.2%）、北海道が 64 通（9.4%）、中国が 33 通（4.8%）、九州が 24 通（3.5%）、四国が 2 通（0.3%）、不明が 79 通（11.6%）だった。さらに、高校教員の中で世界史担当が 329 人、日本史担当が 213 人、地理担当が 15 人だったが、兼担者も含まれているので、合計数は高校教員の回答者数を上回る結果となった。高校歴史教科書の執筆者は世界史 38 名、日本史 11 名であった。

3）　回答の結果について、まず、高校の歴史教育の現状（問５）に関して、アンケートでは、大学入試への対応に追われていること（肯定が 74.4%）、大学入試の影響で用語の暗記中心の授業になっていること（肯定が 74.6%）、その結果、生徒の歴史的思考力を育成する授業が十分展開されていないこと（肯定が 80.5%）など、大学入試が高校の歴史教育を大きく制約している点については７−８割の肯定的意見が表明された。他方、生徒の歴史系科目への関心が低いかどうか、については肯定が 51.7%で、ようやく過半数を超える程度であった。このことは教え方によっては生徒の関心を引き出せることを意味していると評価できるだろう。

4）　このような問題点を解決する方法（問６）として、アンケートでは、生徒の関心や興味を引き出せる教授法に転換すべきこと（肯定が 77.5%）、大学に進学しない生徒のことも考えて市民的教養としての歴史教育を重視すべきこと（肯定が 65%）、大学側が細かい用語の暗記力でなく、歴史的思考力を試す出題に転換すべきこと（肯定が 75.7%）、歴史系科目を担当する高校教員の思考力育成型の教授力を強化すべきこと（肯定が 81.8%）、などの改革方向に極めて高い肯定が示された。

5）　2006 年秋に表面化した世界史未履修問題の解決策（問７）に関しては、世界史必履修を徹底させて再発防止すべきという意見を肯定するものが 38.5%、世界史と日本史の統合科目を新設すべきという意見を肯定するものが 43.7%、世界史・日本史・地理の統合科目を新設すべきとの意見を肯定するものが 24.5%、日本史のみの必履修に代えるべきとの意見を肯定するものが 6.5%であった。つまり、今回のアンケート結果では、世界史と日本史の統合科目の新設を支持する意見が相対的に多数であった。また、日本史のみの必修化については否定的意見が極めて強かったし、世界史必修の継続については３分の１程度の支持にとどまった。同時に、世界史と日本史の統合科目の新設に関して、どちらともいえないとの意見が 25.4%もあった点を考えると、今後、統合科目の具体的なイメージや実施方法のより一層の明確化が必要になるだろう。

6）　改訂の度に用語が増加している高校の歴史教科書の問題（問８）に関しては、歴史研究の進展の結果として当然とする意見を肯定したものは 26.9%にすぎず、39.5%もが否定的意見を選択した。むしろ、高校での時間数の制約を考えて、用語の限定が必要とする意見を肯定するも

のは 66.8%にも達し、用語の限定が切実な課題になっていることが明らかになった。その上で、世界史Ｂと日本史Ｂの教科書において適当な用語数に関して尋ねたところ（問９）、特定の語数に肯定が集中する傾向はなかったが、用語限定が必要としたものの中では 2000-2500 語を適当とする意見が、高校で 73.1%、大学で 78.8%と圧倒的多数の賛同を得た。同時に、アンケート実施の時点で、用語限定の必要性に否定的な意見が 15.5%、どちらともいえないとしたものが 19.7%いた点も無視できない。今後、用語を限定した場合にどのような歴史教育が可能になるか、高校現場での検証とともに、教科書作成の関係者の検討が必要になっている。

７）　高校の歴史教科書の用語が改訂の度に増加する原因の一つは、大学入試で細かい用語の暗記力を問う出題が続き、それが次の教科書改訂の度に教科書に収録されるためといわれるので、大学入試で出題する用語数を限定して、高校時代に全時代の教育を修了し、思考力育成型の授業を強化すべきかどうか（問 10）について尋ねたところ、肯定が 52%に達した。ただし、どちらともいえないという意見が 26.7%もあったことが示すように、用語を限定した大学入試の具体的なイメージの検討が必要であろう。また、大学入試での出題用語の限定が必要と回答したものに、適当な用語数を尋ねた（問 11）ところ、特定の語数に集中することはなかったが、 2000-2500 語くらいを選択したものが、用語限定が必要としたもののなかでは 77.5%にも達した。同時に、用語限定の否定論が 19.8%、どちらともいえないが 26.7%あったことを考えると、今後、大学の歴史系教員や学会などの場で、ひろく実態についての議論を進め、2000-2500 語程度の用語で大学入試を実施する方法や論述式など歴史的思考力を試す出題法の検証などが望まれる。８）最後に、歴史教育における高校と大学の接続に関する問題点（問 12）に関して尋ねたところ、高校までの授業で受けた歴史知識が大学入学までに定着していないとの意見を肯定した者は 60.3%に達した。また、高校までに受けた授業が思考力育成に結び付いていないため、大学教育との接続がうまくいっていないとの意見については 68%が肯定していた。さらに、高校時代に歴史系科目を履修せずに大学に進学する学生が増えているため、大学で補習をする必要に迫られているのが問題とする意見に対しては肯定がやや低く、50.4%であった。しかも、この点の肯定は高校で 54%、広義の大学で 45.5%と、むしろ高校側の方が強く肯定した結果となった。これは、大学側で実際に歴史系科目の補習を実施している大学がまだ少ないことも影響していると思われる。

なお、アンケート結果の詳細は、世界史研究所（南塚信吾代表）のホームページに以下のアドレスで掲載していますので、参照ください。

http://www.history.l.chiba-u.jp/~riwh/japanese/index.php?itemid=214

Ⅲ．アンケートの経緯と結果の分析

１．アンケート実施までの経緯

平成 18（2006）年秋に高等学校で必履修になっていた世界史が他の科目で代替されていたという「世界史未履修問題」が発覚し、マスコミ各社で大きく取り上げられた。これを受け、日本学術会議では翌年４月から史学、地理学、心理学・教育学分野の研究者からなる高校地理歴史科教育に関する分科会を設置し、約４年間の検討を経て「世界史未履修問題」の解決策を、2011 年８月に「新しい高校地理・歴史教育の創造―グローバル化に対応した時空間認識の育成―」として取りまとめた。この提言では、世界史Ａと日本史Ａを統合して「歴史基礎」を新設するとともに、地理Ａを改編して「地理基礎」を新設し、ともに必履修とするように提案した。同時に、大学受験の中心科目になっている世界史Ｂや日本史Ｂに関しては、歴史教科書の改訂の度に収録用語が増大し、用語暗記の負担増加から生徒たちの「歴史嫌い」を助長している現実を指摘した。その上で、克服策として、「関係学会などで重要用語を厳選するガイドラインの作成し、大学入試の出題をそのガイドライン内で行うとともに、歴史的思考力を問う問題の出題を増やす」ように提案した。
この提言を受け、この提言の作成に関わった大学の研究者に加えて、高等学校の教員有志により 2012 年 10 月から高等学校歴史教育研究会が三菱財団の助成をえて発足し、主としてＢ科目の用語を厳選するガイドライン案の検討を進めてきた。この研究会では 2014 年７月に「歴史教育における高等学校・大学間接続の抜本的改革を求めて（第１次案）―世界史Ｂ・日本史Ｂの用語限定と思考力育成型教育法の強化―」を発表した。同時に、高等学校の歴史教育と大学入試の改革のためのアンケート調査の実施を提案した。

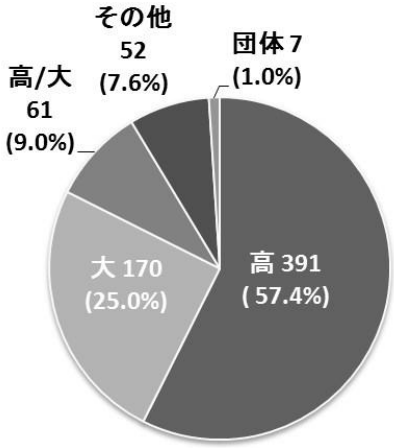
このアンケート調査に関しては、高等学校歴史教育研究会が原案を作成し、日本学術会議の高校歴史教育に関する分科会と日本歴史学協会歴史教育特別委員会で案文の修正がくわえられ、３者の共同による調査として 2014 年６月末から８月末まで約２ケ月間実施された。アンケートの実施にあたっては、全国の大学の歴史系学科や歴史系学会、全国各地にある高等学校の歴史系研究会にアンケート用紙を送付するとともに、関連学会や研究所のホームページ上でも公開した。丁度、夏休み中には全国各地で高等学校の歴史教員による年次大会などが実施され、その場でも多くのアンケートが回収された。

その結果、２ケ月間という短期間であったにも拘わらず、681 通という当初の予想を大幅に超える回答が寄せられたのであり、この問題に関する関係者の強い関心を物語るものとなった。アンケートにご協力くださった関係各位に心から感謝する次第である。また、このように高校の歴史教育に関するアンケートにこれだけ多くの高校と大学の教員がともに回答した例は今までなかったと思われるので、このアンケート結果が今後の高校歴史教育と大学入試の改革に活かされることを切に願っている。

２．アンケート結果の分析

問１回答の立場（総数 681）

	高	大	高/大	その他	計
個人	391	170	61	52	674
団体	—	—	—	—	7



問１では、回答者の立場を、個人か、学会・研究会・出版社などの団体かを尋ねたが、回答総数 681 通の中で、個人の立場で回答したものが 674 通、団体が７通で、圧倒的回答が個人的立場のものとなった。個人の所属に関しては、高校、大学、高校と大学の両方を経験、その他（出版社・予備校・院生・所属無記入など）の４種で分類したが、高校が 391（58%）、大学 170（25%）、高校・大学両方経験が 61（9%）、その他が 52（7.7%）となった。なお、退職者に関しては元の所属先で分類した。

問２回答者

	高	大	高/大	その他	団体	計
記名	271	146	58	28	7	510
無記名	120	24	3	24	0	171

問２では、回答者の歴史教育への関わりと回答内容との関連を知る手がかりを得たいと考え、記名による回答をお願いしたが、その結果、記名回答が 510 通（約 75%）を占め、無記名回答が 171 通（25%）となった。

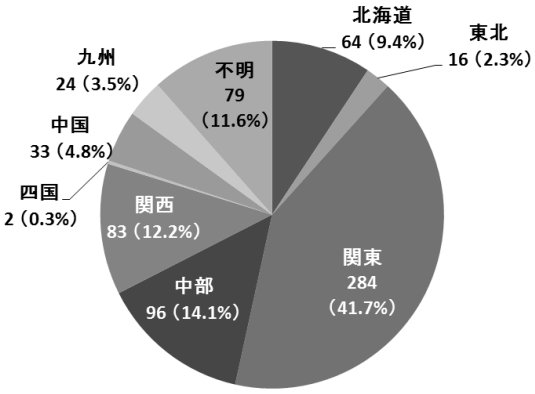
問３所属

高	大	その他	団体	計
269	167	238	7	681

問３では、回答者の所属を高校、大学、その他で尋ねたが、所属を明記したものは、高校で 269 名、大学で 167 名であり、その他の 238 名の中には高校・大学両方の体験者、退職者、無記名者などが含まれているので、問１での数値と異なる結果になっている。問１での所属分類が問３より多くなっているのは、問４で高校歴史教育との関わりを尋ねている関係で、所属が無記名でも高校・大学などとの関わりが判明したものを追加したためである。

回答者の所属地方別分布

	高	大	高/大	その他	団体	計
北海道	54	7	1	1	1	64
東北	6	6	4	0	0	16
関東	140	77	31	33	3	284
中部	54	29	9	2	2	96
関西	45	27	8	2	1	83
四国	1	1	0	0	0	2
中国	23	8	1	1	0	33
九州	12	8	4	0	0	24
不明	56	7	3	13	0	79
計	391	170	61	52	7	681



回答者の地方別の分布を所属する機関の所在地から推定したところ、不明が 79 通あったが、それ以外の 602 通について所在を分類した結果、最多が関東で 284 通（41.7%）、次いで中部 96 通（14.1%）、関西 83 通（12.2%）、北海道 64 通（9.4%）、中国 33（4.8%）、九州 24 通（3.5%）、東北 16 通（2.3%）、四国２通（0.3%）となった。四国からの回答が少なかったが、ほぼ全国から回答が得られたし、高校だけでなく、大学についても全国から回答が得られ、関心の広がりが見られた。

問４高校歴史教育との関わり（世=世界史、日=日本史、地=地理、無=不明）ｉ）高校で担当（総数 452［高+高/大］）

	1-9 年	10-19 年	20-29 年	30 年～	その他	計
世	106	68	93	50	12	329
日	74	33	66	29	11	213
地	7	2	4	1	1	15
無	5	2	2	2	6	17

問４は、高校の歴史教育との関わりを尋ねたものである。

問４－ｉでは、高校での担当科目や担当年数を尋ねたが、世界史担当者が 329、日本史担当者が 213、地理担当者が 15、無記入が 17 であった。この数値の合計は 574 となり、所属を高校と回答したもの 391 を大幅に上回るが、それは両方を担当したケースをそれぞれに分けて計算したためで

ある。担当年数については、1-9 年の合計が 192（33.4%）、10-19 年が 105（18.3%）、20-29 年が 165（28.7%）、30 年以上が 82（14.3%）、その他が 30（5.2%）となった。その他には無回答や誤回答（担当年数と担当学年を誤解など）が含まれている。
担当年数で見る限り、比較的 10 年未満のものが多いものの、20 年以上のベテランも 43%を占めたので、長年の経験に基づく回答という性格があると考えられる。 ⅱ）高校歴史教科書執筆（総数 674）

	1-9 年	10-19 年	20-29 年	30 年～	その他	計
世	23	7	4	1	3	38
日	4	1	3	1	2	11
無	0	0	0	0	3	3

問４－ⅱでは、高校の歴史教科書の執筆体験を聞いたものであるが、世界史で 38 名、日本史で 11 名、合計 49 名が執筆に関わった経験者であった。回答者総数の 7%程度になるが、教科書執筆者からも回答が得られたのは貴重であった。執筆の年数では、1-9 年が 27、10-19 年が８、20-29 年が７、30 年以上が２名となり、10 年未満の執筆者が多いものの、10 年以上のベテランも 17 名にものぼった。

ⅲ）高校歴史教科書出版（総数 681）

	1-9 年	10-19 年	20-29 年	30 年～	その他	計
世	2	2	1	0	0	5
日	0	0	1	0	0	1
無	1	0	2	0	3	6
団体	0	0	0	0	1	1

問４－ⅲでは、高校の歴史教科書の出版との関わりを尋ねたが、世界史が５、日本史が１名、無は科目名の記載のないもので６名であった。この回答の場合、編集者だけでなく、執筆者も出版に関わったと解釈して、ここで回答しているケースも含まれるので、編集者だけの回答ではないが、編集者の回答が含まれるので、少ないとはいえ、貴重なものであった。

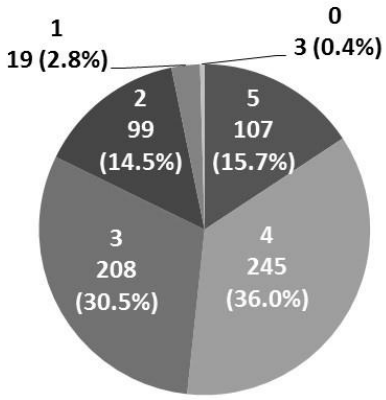
ⅳ）大学で歴史教育に関係（総数 231［大+高/大］）

1-9 年	10-19 年	20-29 年	30 年～	その他	計
70	61	39	31	30	231

問４－ⅳでは、大学での歴史教育との関わりを尋ねたが、総数 231（高校を経て大学で教えたものも含む）中、1-9 年が 70（30%）、10-19 年が 61（26%）、20-29 年が 39（16.9%）、30 年以上が 31（13.4%）、その他（年数無記入を含む）が 30（13%）であった。ここでも 10 年未満のものの回答が相対的に多かったが、20 年以上のベテランも 30%程度を占める結果となった。

問５現在の高校歴史教育が抱える問題点をどうお考えですかｉ）歴史系科目に対する生徒の関心・興味が低いこと

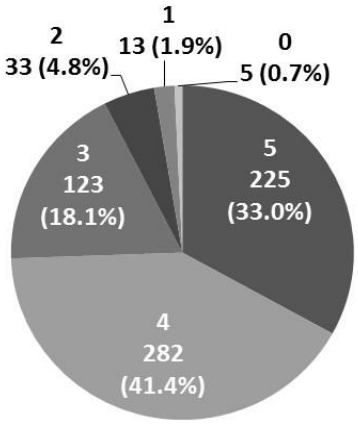
	高	大	高/大	その他	団体	計
5	52	40	7	7	1	107
4	147	56	25	13	4	245
3	116	55	16	19	2	208
2	65	17	6	11	0	99
1	11	1	6	1	0	19
0	0	1	1	1	0	3
計	391	170	61	52	7	681



問５では、現在の高校歴史教育が抱える問題点について尋ねた。
これ以降の回答では５段階評価での回答を求め、５が「強くそう思う」、４が「そう思う」、３が「どちらとも言えない」、２が「そう思わない」、１が「全くそう思わない」に分類し、無回答の場合は０として集計した。つまり、５と４が問に対する肯定的評価、２と１が否定的評価となる。問５－ｉでは、「歴史系科目に対する生徒の関心・興味が低いこと」を問題点と考えるか、を尋ねた。総数 681 の中、５が 107（15.7%）、４が 245（36%）、３が 208（30.5%）、２が 99（14.5%）、１が 19（2.8）であった。つまり、肯定（５と４の合計）が 352（51.7%）、どちらともいえない（以下３と略記）が 208（30.5%）、否定（１と２の合計）が 118（17.8%）となった。肯定の中では４が５の倍以上となった。これを、所属別に高校と広義の大学（高大両属も含む）で対比すると、高校で肯定は 199（50.9%）、３が 116（29.3%）、否定が 76（19.4%）となる。広義の大学の場合は、肯定が 126（54.5%）、３が 71（30.7%）、否定が 30（13%）となり、ともに、過半数が肯定しているが、広義の大学の方が若干肯定が多く、高校の方が否定が多い結果となった。つまり、高校現場で歴史を担当している教員の方が生徒の歴史への関心が必ずしも低いとは言えないとみているものが若干多いことが分かる。また、主として出版社や予備校関係者からなる「その他」と出版社や研究会などからなる「団体」は回答数が少ないので、参考資料に留まるが、高校や大学以外の意見として貴重である。それを合計した場合、肯定は 25（42.4%）、３は 21（35.6%）、否定は 12（20.3%）となり、肯定が高校や広義の大学より少ない結果がでた。

ii ）　　大学入試への対応に追われていること

	高	大	高/大	その他	団体	計
5	124	62	21	15	3	225
4	155	76	25	23	3	282
3	79	28	9	6	1	123
2	27	3	1	2	0	33
1	5	0	4	4	0	13
0	1	1	1	2	0	5
計	391	170	61	52	7	681

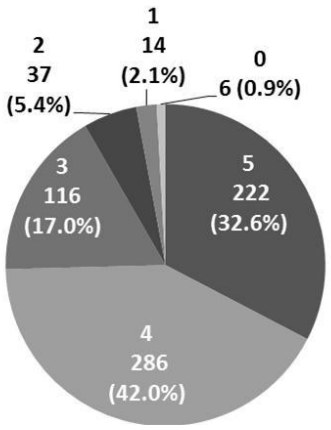


問５－ii では、「大学入試への対応に追われていること」が問題点か、尋ねた。総数 681 中、５が 225（33%）、４が 282（41.4%）、３が 123（18%）、２が 33（4.8%）、１が 13（1.9%）であった。つまり、肯定（５と４）が 74.4%、３が 18%、否定（１と２）が 6.7%で、圧倒的多数が肯定した。しかも、５が 33%、４が 41.4%となり、５が全体の３分の１をしめた。これを所属別にみると、高校での肯定が 279（71.4%）、３が 79（20.2%）、否定が 32（8.2%）となるのに対して広義の大学では、肯定が 184（79.7%）、３が 37（16%）、否定が８（3.5%）となる。ここでも、広義の大学で肯定がより強く、高校で否定が若干多いことが分かる。その他と団体の合計では、肯定が 44（74.6%）、３が７（11.9%）、否定が６（10.2%）となり、肯定が高校と広義の大学との中間的で、否定は一番比重が高いことが分かる。

	高	大	高/大	その他	団体	計
5	118	67	19	16	2	222
4	166	72	23	21	4	286
3	79	21	8	7	1	116
2	21	5	6	5	0	37
1	5	4	4	1	0	14

0	2	1	1	2	0	6
計	391	170	61	52	7	681

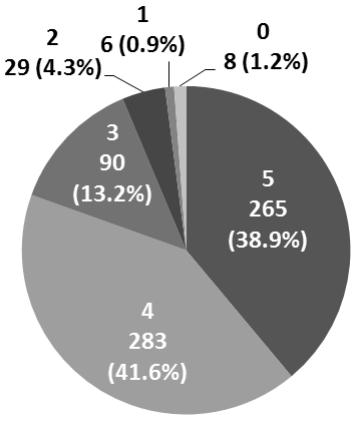
iii）大学入試の影響で用語の暗記中心の授業形態になっていること



問５－iiiでは、「大学入試の影響で用語の暗記中心の授業形態になっている」ことが問題点か、尋ねた。総数681中、５が222（32.6%）、４が286（42%）、３が116（17%）、２が37（2.1%）、１が14（0.8%）となった。ここでも肯定（５と４）が74.6%に達し、３が17%、否定（１と２）が2.9%で、圧倒的多数が肯定している。しかも、５が32.6%、４が42%と、５が３分の１近くを示した。これを、所属別にみると、高校では肯定が284（72.6%）、３が79（20.2%）、否定が26（6.6%）となるのに対して、広義の大学では、肯定が181（78.4%）、３が29（12.6%）、否定が 19（8.2%）となる。ここでも、広義の大学の方が肯定が多いが、高校ではどちらとも言えないが若干多くなっている。その他と団体の合計では、肯定43（72.9%）、３が８（13.6%）、否定が６（10.2%）となり、肯定は高校とほぼ同じ傾向をしめした。

iv）生徒の思考力を育成する授業が十分実施できないこと

	高	大	高/大	その他	団体	計
5	148	72	23	20	2	265
4	173	65	22	18	5	283
3	54	21	8	7	0	90
2	13	6	5	5	0	29
1	2	3	1	0	0	6
0	1	3	2	2	0	8
計	391	170	61	52	7	681



問５－ivでは、「生徒の思考力を育成する授業が十分実施できないこと」が問題点か、尋ねた。総数681中、５が265（38.9%）、４が283（41.6%）、３が90（13.2%）、２が29（4.3%）、１が６（0.8%）であった。つまり、肯定（５と４）が80.5%もの高率をしめし、３が13.2%、否定（１と２）が 5.1%となり、５と４が接近する値を示し、この問が高校の歴史教育の問題点とし

て最も高い肯定をしめした。これを、所属別にみると、高校では肯定が 321（82%）、３が 54（13.8%）、
否定が 15（3.8%）となるのに対して、広義の大学では肯定が 182（78.8%）、３が 29（12.6%）、否定が 15（6.5%）となり、むしろ高校で広義の大学より肯定が高くでた。その他と団体の合計では、肯定が 45（76.2%）、３が 7（11.9%）、否定が５（8.5%）を示し、ほぼ同じ傾向をしめした。

ｖ）その他（意見記入者数）（個々の意見は世界史研究所のホームページ参照）

高	大	高/大	その他	団体	計
65	30	24	9	0	128

問６上記の問題点を解決する方法は何だとお考えですか

ｉ）歴史系科目に対する生徒の関心・興味を引き出せる教授法に転換すべき

	高	大	高/大	その他	団体	計
5	120	68	30	14	3	235
4	181	65	22	21	4	293
3	74	28	7	11	0	120
2	13	7	0	3	0	23
1	2	2	1	2	0	7
0	1	0	1	1	0	3
計	391	170	61	52	7	681

問６－ｉでは、総数 681 中、生徒の関心・興味を引き出せる教授法に転換すべきという意見に対して、５が 235（34.5%）、４が 293（43%）、３が 120（17.6%）、２が 23（3.4%）、１が７（１%）であった。つまり、肯定（５と４）が 77.5%にも上り、３が 17.6%、否定（１と２）が 4.4%で、圧倒的多数が肯定的意見であった。これを、所属別にみると、高校では肯定が 301（77%）、３が 74（18.9%）、否定が 15（3.8%）となり、広義の大学では、肯定が 185（80%）、３が 35（15%）、否定が 10（４%）であり、ほぼ同じ比率であった。その他と団体の合計では、肯定が 42（71%）、３が 11（18.6%）、否定が５（8.5%）であり、肯定がやや低くでた。 ⅱ）大学に進学しない生徒のことも考えて市民的教養としての歴史教育を重視すべき

	高	大	高/大	その他	団体	計
5	96	46	25	8	3	178
4	155	70	21	17	2	265

3	108	35	8	17	2	170
2	20	13	4	6	0	43
1	9	3	2	3	0	17
0	3	3	1	1	0	8
計	391	170	61	52	7	681

問６－ⅱでは、「大学に進学しない生徒のことを考えて市民的教養として歴史教育を重視すべき」か否か、を尋ねたところ、総数 681 中、５が 178（26.1%）、４が 265（38.9%）、３が 170（25%）、２が 43（6.3%）、１が 17（2.5%）となった。つまり、肯定（５と４）が 65%、３が 25%、否定（１と２）が 8.8%となり、多くが肯定的意見であったが、問６－ⅰに比べると、肯定の比率が若干下がった。これを所属別にみると、高校では、肯定が 251（64.2%）、３が 108（27.6%）、否定が 29（7.4%）となり、広義の大学では、肯定が 162（70%）、３が 35（15%）、否定が 10（４%）となり、広義の大学で肯定が高いのに対して、高校では３と否定が若干多い結果となった。その他と団体の合計では、肯定が 40（67.8%）で、３が 19（32.2%）、否定が９（15.2%）となり、肯定が広義の大学よりは少ないが、高校よりは多い結果となった。

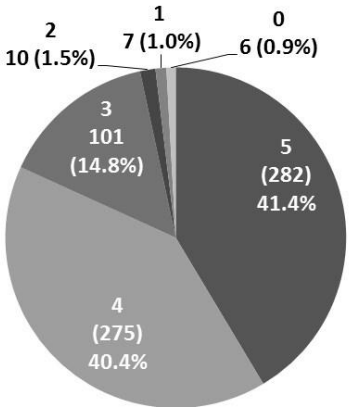
ⅲ）大学側が細かい用語の暗記力ではなく、歴史的思考力を試す出題に代えるべき

	高	大	高/大	その他	団体	計
5	153	68	27	19	5	272
4	141	63	20	19	1	244
3	75	27	6	10	1	119
2	16	5	2	1	0	24
1	4	6	3	1	0	14
0	2	1	3	2	0	8
計	391	170	61	52	7	681

問６－ⅲでは、「大学側が細かい用語の暗記力ではなく、歴史的思考力を試す出題に代えるべき」かどうか、を尋ねたところ、５が 272（39.9%）、４が 244（35.8%）、３が 119（17.5%）、２が 24（3.5%）、１が 14（2.1%）となった。つまり、肯定（５と４）が 516（75.7%）、３が 119（17.5%）、否定（１と２）が 38（5.6%）と、５が４を上回る程、圧倒的多数が肯定した。これを所属別にみると、高校では肯定が 294（75.2%）、３が 75（19.2%）、否定が 20（5.1%）となるのに対して、広義の大学では、肯定が 178（77%）、３が 33（14.3%）、否定が

16（6.9%）と、むしろ広義の大学の方が肯定的意見が若干多かったのが注目される。その他と団体の合計では、肯定が 44
（74.6%）、３が 11（18.6%）、否定が２（3.4%）となった。 ⅳ）歴史系科目を担当する高校教員の思考力育成型の教授力をもっと強化すべき

	高	大	高/大	その他	団体	計
5	169	58	32	19	4	282
4	167	65	22	19	2	275
3	48	40	3	9	1	101
2	4	4	1	1	0	10
1	2	2	1	2	0	7
0	1	1	2	2	0	6
計	391	170	61	52	7	681



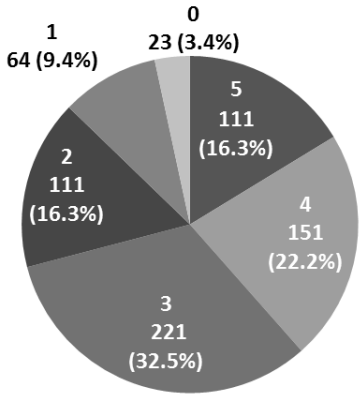
問６－ⅳでは、「歴史系科目を担当する高校教員の思考力育成型の教授力をもっと育成すべきか」どうかを尋ねたところ、総数 681 中、５が 282（41.4%）、４が 275（40.4%）、３が 101（14.8%）、２が 10（1.5%）、１が７（1%）という結果となった。つまり、肯定（５と４）が 557（81.8%）、３が 101（14.8%）、否定（１と２）が 17（2.5%）となった。５が４を上回るとともに、80%を超える肯定が示された。これを所属別にみると、高校では、肯定が 336（85.9%）、３が 43（７%）、否定が６（1.5%）となるのに対して、広義の大学では、肯定が 177（76.6%）、３が 43（7%）、否定が８（3.4%）となり、高校で肯定が大幅に上回った。これは高校教員の間で思考力育成型の教授力向上のための研修を求める声が強いことを意味しているのであろう。また、その他と団体の合計では、肯定が 44（74.6%）、３が 10（16.9%）、否定が３（5%）となった。

ⅴ）その他（意見記入者数）（個々の意見は世界史研究所のホームページ参照）

高	大	高/大	その他	団体	計
57	35	22	8	0	122

問７ 2006 年秋に表面化した世界史未履修問題の解決策としてどれが適当とお考えですか ⅰ）世界史必履修を徹底させて再発を防ぐべき

	高	大	高/大	その他	団体	計
5	55	31	17	7	1	111
4	77	48	13	11	2	151
3	133	54	16	15	3	221
2	70	24	8	9	0	111
1	42	9	6	6	1	64
0	14	4	1	4	0	23
計	391	170	61	52	7	681



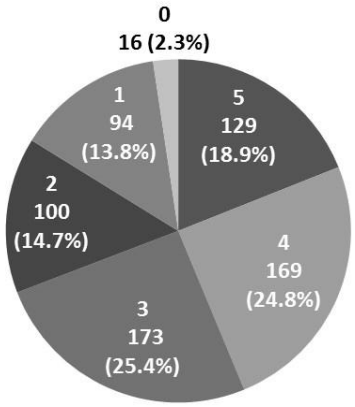
問７は世界史未履修問題の再発防止策を尋ねたものである。

問７－ｉでは、「世界史必履修を徹底させて再発を防ぐべき」との意見について聞いたものであるが、５が 111（16.3%）、４が 151（22.2%）、３が 221（32.5%）、２が 111（16.3%）、１が 64（9.4%）となった。つまり、肯定（５と４）が 262（38.5%）、３が 221（32.5%）、否定（１と２）が 175（25.7%）とほぼ意見が三分される結果となった。これを所属別にみると、高校では肯定が 132（33.8%）、３が 133（34%）、否定が 112（28.6%）、であったのに対して、広義の大学では、肯定が 109（47.2%）、３が 70（30.3%）、否定が 47（20.3%）となり、高校より広義の大学の方が世界史必履修の継続論が強い結果となった。その他と団体の合計では、肯定が 21（35.6%）、３が 18（30.5%）、否定が 16（27.1%）となり、やはり意見がほぼ３分される傾向がでた。このように世界史必履修の継続に関してはどの所属でも肯定が過半数に満たない結果となった。

また、高校や高/大での世界史担当者を抽出してみると、高校では担当者総数が 281 のところ、５が 51（18.1%）、４が 61（21.7%）、３が 91（32.4%）、２が 45（16%）、１が 24（8.5%）となった。つまり、肯定が 39.8%と、肯定が高校一般の 33.8%より高くなったが、広義の大学の 47.2%よりは低くでた。また、高/大タイプの教員で高校で世界史を担当した者を抽出すると、総数 48 のところ、５が 14（29.2%）、４が 12（25%）、３が 12（25%）、２が５（10.4%）、１が４（2.1%）となった。つまり、肯定が 54.2%、３が 25%、否定が 18.7%となり、肯定が高校一般や広義の大学よりかなり高くでた。

ⅱ）世界史のみの必履修には無理があるので、世界史・日本史の統合科目を新設すべき

	高	大	高/大	その他	団体	計
5	51	53	17	6	2	129
4	94	48	16	8	3	169
3	120	30	12	11	0	173
2	63	19	3	13	2	100
1	54	18	12	10	0	94
0	9	2	1	4	0	16
計	391	170	61	52	7	681



問７－ⅱでは、「世界史のみの必履修では無理があるので、世界史・日本史の統合科目を新設すべき」かどうかを問うたものであるが、総数 681 中、５が 129（18.9%）、４が 169（24.8%）、３が 173（25.4%）、２が 100（14.7%）、１が 94（13.8%）となった。つまり、肯定（５と４）が 298（43.7%）、３が 173（25.4%）、否定（１と２）が 194（28.5%）となり、肯定が相対的に多数となったが、３や否定もかなりの数となった。これを所属別でみると、高校では肯定が 145（37%）、３が 120（30.7%）、否定が 117（29.9%）と、意見が３分されたが、広義の大学では、肯定が 134 （58%）、３が 42（18.1%）、否定が 52（22.5%）となり、世界史と日本史の統合科目の新設について広義の大学では肯定が過半数を超えたのが注目される。その他と団体の合計では、肯定が 19

（32.2%）、３が 11（18.6%）、否定が 25（42.5%）となり、否定が相対的に多い結果となった。

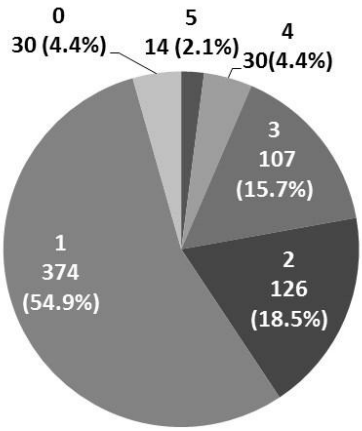
ⅲ）世界史・日本史・地理を統合した新科目を設置すべき

	高	大	高/大	その他	団体	計
5	41	27	9	4	0	81
4	46	29	6	3	2	86
3	113	47	17	9	4	190
2	81	39	8	15	1	144
1	95	26	19	16	0	156
0	15	2	2	5	0	24
計	391	170	61	52	7	681

問７－ⅲでは、「世界史・日本史・地理を統合した科目をすべき」かどうかについて尋ねたが、総数 681 中、５が 81（11.9%）、４が 86（12.6%）、３が 190（27.9%）、２が 144（21.1%）、１が 156（22.9%）となった。つまり、肯

定（５と４）が 167（24.5%）、３が 190（27.9%）、否定（１と２）が 300（44%）となり、相対的に否定が多い結果となった。これを所属別にみると、高校では、肯定が 87（22.3%）、３が 113（28.9%）、否定が 176（45%）となったのに対して、広義の大学では、肯定が 71（30.7%）、３が 54（23.4%）、否定が 92（39.8%）となり、高校よりは広義の大学で肯定が多い結果となったが、否定が肯定を上回る傾向は同じだった。その他と団体の合計では、肯定が９（15.2%）、３が 13（22%）、否定が 32（54.2%）と否定が過半数を上回わる結果となった。

ⅳ）日本史のみの必履修に代えるべき



	高	大	高/大	その他	団体	計
5	10	1	1	2	0	14
4	23	3	2	2	0	30
3	74	17	7	6	3	107
2	69	33	7	16	1	126
1	196	113	42	21	2	374
0	19	3	2	5	1	30
計	391	170	61	52	7	681

問７－ⅳでは、「日本史のみの必履修化に代えるべき」かどうかついて聞いたが、総数 681 中、５が 14（2.1%）、４が 30（4.4%）、３が 107（15.7%）、２が 126（18.5%）、１が 374（54.9%）となった。つまり、肯定（５と４）が 44（6.5%）、３が 107（15.7%）、否定（１と２）が 500（73.4%）となり、強い否定である１が過半数を超えた上、１と２の合計が 73.4%と否定が圧倒的多数を占めていた。これを所属別にみると、高校では、肯定が 33（8.4%）、３が 74（18.9%）、否定が 265 （67.8%）となるのに対して、広義の大学では、肯定が７（3%）、３が 24（10.4%）、否定が 195
（84.4%）となり、高校より広義の大学で否定論が強いことが分かる。その他と団体の合計では、肯定が４（6.8%）、３が９（15.3%）、否定が 40（67.8%）で、高校とほぼ類似の結果となった。

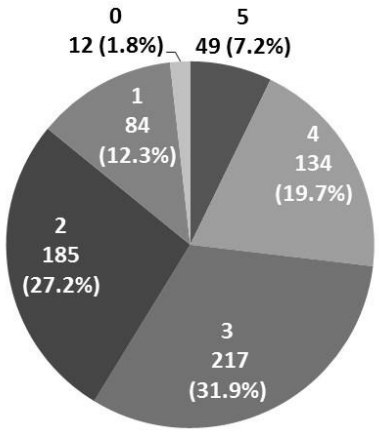
また、高校や高/大での日本史担当者の意見を抽出してみると、高校では総数 188 のところ、５が８（4.3%）、４が 17（９%）、３が 55（29.3%）、２が 30（16%）、１が 68（36.2%）となった。つまり、肯定が 13.3%に過ぎず、３が 29.3%、否定が 52.2%になった。高/大タイプで高校で日本史を担当したもの、総数 25 のところ、５が０、４が１（４%）、３が７（28%）、２が２（８%）、１が 14（56%）となり、肯定がわずか４%で、否定が 64%にも達した。つまり、高校で日本史を担当する教員の間でも日本史のみの必修化には強い反対が表明された。

ⅴ）その他（意見記入者数）（個々の意見は世界史研究所のホームページ参照）

高	大	高/大	その他	団体	計
72	31	25	8	1	137

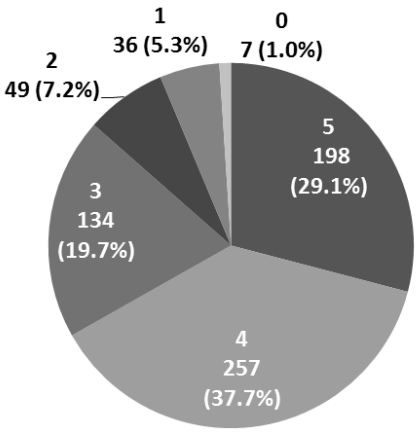
問８改訂の度に高校の歴史教科書の用語数が増加している傾向についてどうお考えですかⅰ）歴史研究の進展の結果として当然

	高	大	高/大	その他	団体	計
5	24	15	3	7	0	49
4	84	27	8	15	0	134
3	121	54	26	14	2	217
2	104	57	12	10	2	185
1	53	14	11	4	2	84
0	5	3	1	2	1	12
計	391	170	61	52	7	681



問８では改訂の度に高校の歴史教科書の用語数が増加している傾向に対する評価を聞いたものである。問８－ⅰでは、用語の増加を「歴史研究の進展の結果として当然」とみるかどうかを尋ねたものだが、総数 681 中、５が 49（7.2%）、４が 134（19.7%）、３が 217（31.9%）、２が 185（27.2%）、１が 84（12.3%）となった。つまり、肯定（５と４）が 183（26.9%）、３が 217（31.9%）、否定（１と２）が 269（39.5%）であり、用語の増加を研究の発展の当然の結果とする考えには否定的意見が相対的に多数を占めたが、どちらとも言えずが 31.9%もあり、意見保留の傾向も見られた。これを所属別にみると、高校では、肯定が 108（27.6%）、３が 121（30.9%）、否定が 157（40.2%）となったのに対して、広義の大学では、肯定が 53（22.7%）、３が 80（34.6%）、否定が 94（40.7%）となった。否定論は高校と広義の大学とでほぼ同じ比率であった、肯定論が
高校の歴史教科書の執筆者をより多く出している広義の大学の方で高校を下回ったのが興味深い。その他と団体の合計では、肯定が 22（37.3%）、３が 16（27.1%）、否定が 18（30.5%）となり、むしろ肯定が若干多くでたが、意見がほぼ３つに分かれる傾向を示した。 ⅱ）高校での授業時間の制約を考え用語の限定が必要

	高	大	高/大	その他	団体	計
5	124	46	16	8	4	198
4	150	74	20	12	1	257
3	75	28	12	18	1	134
2	26	10	8	5	0	49
1	14	10	5	7	0	36
0	2	2	0	2	1	7
計	391	170	61	52	7	681



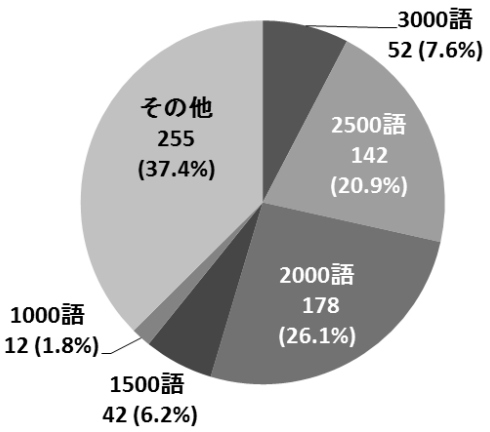
問８－ⅱでは、「高校での授業時間の制約を考え用語の限定が必要」かどうかを尋ねたところ、総数 681 中、５が 198（29.1%）、４が 257（37.7%）、３が 134（19.7%）、２が 49（7.2%）、１が 36（5.3%）であった。つまり、肯定（５と４）が 455（66.8%）、３が 134（19.7%）、否定（１と２）が 85（12.5%）で約３分の２が用語の限定は必要と回答した。これを所属別にみると、高校では、肯定が 274（70%）、３が 75（19.2%）、否定が 40（10.2%）であったのに対して、広義の大学では、肯定が 156（67.5%）、３が 40（17.3%）、否定が 33（14.3%）となり、高校の方が広義の大学より肯定が若干多い結果となった。その他と団体の合計では、肯定が 25（42.4%）、３が 19（32.2%）、否定が 12（20.3%）となり、肯定の数値が下がり、どちらとも言えないと否定の数値が増加する傾向をしめした。

ⅲ）その他（意見記入者数）（個々の意見は世界史研究所のホームページ参照）

高	大	高/大	その他	団体	計
47	31	14	6	1	99

問９問８－ⅱで用語の限定が必要とされた場合、高校の世界史Ｂと日本史Ｂにおける適当な用語数は次のどれとお考えですか

	高	大	高/大	その他	団体	計
3000 語	35	12	3	2	0	52
2500 語	86	40	9	5	2	142
2000 語	101	47	19	9	2	178
1500 語	27	10	2	2	1	42
1000 語	7	3	1	1	0	12
その他	135	58	27	33	2	255
計	391	170	61	52	7	681



問９では、高校の歴史教科書で用語限定が必要とした回答者 455 名に限定すべき用語の数を尋ねたものである。総数 681 中、その他になっている 255 名（37.4%）は無記名となっているが、それを含めた総数全体の中で、各用語の選択者の比重をみると、3000 語が 52（7.6%）、2500 語が 142（20.9%）、2000 語が 178（26.1%）、1500 語が 42（6.2%）、1000 語が 12（1.8%）となり、2000-2500 語（合計 47%）くらいに山がくることが分かった。これを所属ごとに、しかも、用語限定が必要としたものだけで比重をみると、高校では、3000 語が 35（13.7%）、2500 語 86（33.6%）、2000 語（39.5%）、1500 語 27（10.4%）、1000 語７（2.7%）となり、2000-2500 語の合計は 73.1%にもなる。また、広義の大学の場合は、3000 語が 15（10.3%）、2500 語が 49（33.6%）、2000 語が 66（45.2%）、1500 語が 12（8.2%）、1000 語が４（2.7%）となり、2000-2500 語を適当とするものは高校よりも一層高く、78.8%にもなった。その他と団体の合計では、3000 語が２（7.7%）、
2500 語が７（26.9%）、2000 語が 11（42.3%）、1500 語が３（11.5%）、1000 語が１（3.8%）となり、2000-2500 語が適当とするものは 69.2%となり、高校や広義の大学より若干低いものの、３分の２以上の支持がこの語数に集中した点は共通していた。つまり、用語限定を必要とする人々の間では 2000-2500 語がかなり多くの支持をえた形となったが、無記入者が 37.4%にものぼった点にも配慮が必要であろう。

ⅳ）その他（意見記入者数）（個々の意見は世界史研究所のホームページ参照）

高	大	高/大	その他	団体	計
42	22	15	4	0	83

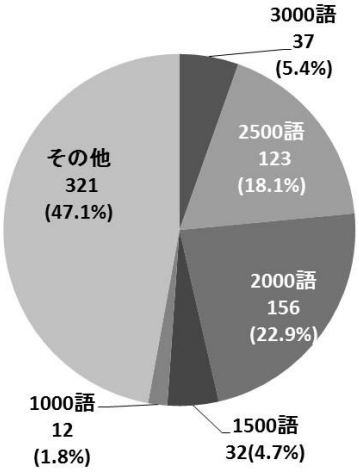
問 10 大学入試で出題する用語数を限定しないと、高校で全時代の教育を修了したり、思考力育成型の授業を増やしたりはできないとの意見をどうお考えですか

	高	大	高/大	その他	団体	計
5	89	37	14	4	3	147
4	127	51	16	11	2	207
3	116	40	7	18	1	182
2	38	27	13	5	1	84
1	20	12	10	9	0	51
0	1	3	1	5	0	10
計	391	170	61	52	7	681

問 10 では大学入試の出題用語の限定の是非を尋ねたものであるが、総数 681 の中で、５が 147 （21.6%）、４が 207（30.4%）、３が 182（26.7%）、２が（12.3%）、１が 51（7.5%）であった。つまり、肯定（５と４）が 354（52%）、３が 182（26.7%）、否定（１と２）が 135（19.8%）となり、用語限定の必要論が過半数を超えたが、どちらとも言えないが 26.7%もあった。これを所属別にみると、高校では、肯定が 216（55.2%）、３が 116（29.7%）、否定が 58（14.8）となったのに対して、広義の大学では、肯定が 118（51%）、３が 47（20.3%）、否定が 62（26%）となり、肯定がやはり過半数を超えているが、高校よりは若干低く、否定が高校より高くでていた。その他と団体の合計では、肯定が 20（33.9%）、３が 19（32.3%）、否定が 15（25.4%）と意見が３分される結果となった。問 6-ⅲの大学入試で思考力を試す出題をすべきとの質問では 75.7%もの肯定がでたことに比べると、大学入試での用語限定論の支持は若干過半数を超えた水準にとどまった。

問 11 問 10 で限定が必要とされた（５段階評価で５、４を選択された）場合、大学入試で限定す

	高	大	高/大	その他	団体	計
3000 語	30	6	0	1	0	37
2500 語	78	31	6	7	1	123
2000 語	85	46	17	6	2	156
1500 語	20	6	2	2	2	32
1000 語	7	2	2	1	0	12
その他	171	79	34	35	2	321
計	391	170	61	52	7	681



べき用語数は次のどれとお考えですか

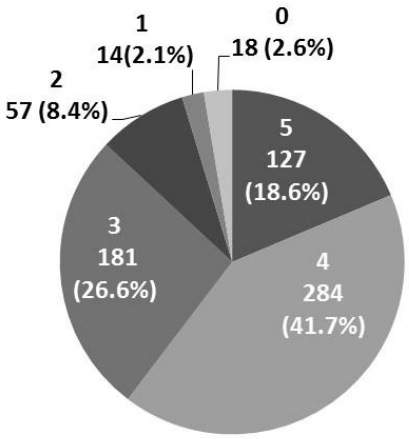
問 11 では、問 10 で大学入試の出題用語の限定が必要と回答した 354 名を対象とした質問で、適当な限定用語数を尋ねたものであるが、総数 681 の中でみると、3000 語が 37（5.4%）、2500 語が 123（18.1%）、2000 語が 156（22.9%）、1500 語が 32（4.7%）、1000 語が 12（1.8%）となり、高校の歴史教科書の場合と同様、2000-2500 語（合計で 41%）のところに山がみられた。次に、大学入試用語限定の支持者の意見を所属別にみると、高校では 3000 語が 30（13.6%）、2500 語が 78（35.5%）、2000 語が 85（38.6%）、1500 語が 20（9.1%）、1000 語が 7（3.2%）となり、 2000-2500 語の支持が 74.1%であった。広義の大学では、3000 語が６（5%）、2500 語が 37（33%）、2000 語が 63（53.4%）、1500 語が８（6.8%）、1000 語が４（3.4%）となり、200-2500 語の支持が 86.4%にものぼった。その他と団体の合計では、3000 語が１（4.5%）、2500 語が８（36.4%）、2000 語が８（36.4%）、1500 語が４（18.2%）、1000 語が１（4.5%）でやはり、2000-2500 語の支持が 72.8%にも達した。つまり、用語限定論のなかでは 2000-2500 語が圧倒的多数を占めたが、未記入が全体の 47.1%にも達した点にも留意する必要があろう。

ｖ）その他（意見記入者数）（個々の意見は世界史研究所のホームページ参照）

高	大	高/大	その他	団体	計
12	12	13	5	1	43

問 12 歴史教育における高校と大学の接続に関しての問題点をどうお考えでしょうか ｉ）高校までの授業で受けた歴史知識が大学に入る時点までに定着していないこと

	高	大	高/大	その他	団体	計
5	59	43	17	7	1	127
4	175	68	21	16	4	284
3	106	43	14	16	2	181
2	30	12	7	8	0	57
1	9	2	1	2	0	14
0	12	2	1	3	0	18
計	391	170	61	52	7	681



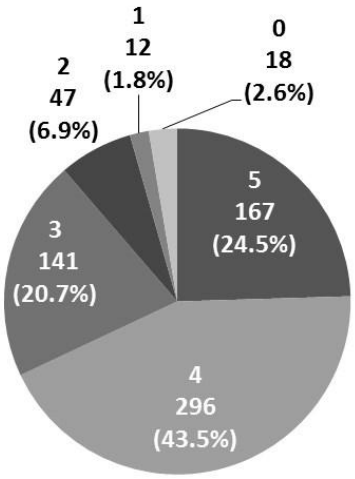
問 12 は歴史教育における高校と大学の接続に関する問題点を尋ねたものである。

問 12－ｉでは、「高校までの授業で受けた歴史知識が大学に入る時点までに定着していないこと」が問題点か、と尋ねたものである。総数 681 中、５が 127（18.6%）、４が 284（41.7%）、３が 181（26.6%）、２が 57（8.4%）、１が 14（2.1%）となり、肯定（５と４）が 411（60.3%）、３が 181（26.6%）、否定（１と２）が 71（10.5%）となった。これを所属別にみると、高校では、肯定が 234（59.8%）、３が 106（27.1%）、否定が 39（10%）となったのに対して、広義の大学では、肯定が 149（64.5%）、３が 57（24.7%）、否定が 22（9.5%）となり、広義の大学側の方が肯定的意見が高校より若干多くでた。その他と団体の合計では、肯定が 28（47.5%）、３が 18（30.5%）、否定が 10（16.9%）となり、肯定が高校や広義の大学より少ない結果となった。つまり、高校と広義の大学では、高校時代の歴史知識が定着しないまま、大学に学生が入学してくるとの受け止めが強いのであるが、これは高校の歴史教育だけでなく、大学入試にも問題があることを示唆するものであろう。

	高	大	高/大	その他	団体	計
5	84	53	19	10	1	167
4	177	71	20	23	5	296
3	91	25	13	11	1	141
2	24	15	5	3	0	47
1	3	5	3	1	0	12

0	12	1	1	4	0	18
計	391	170	61	52	7	681

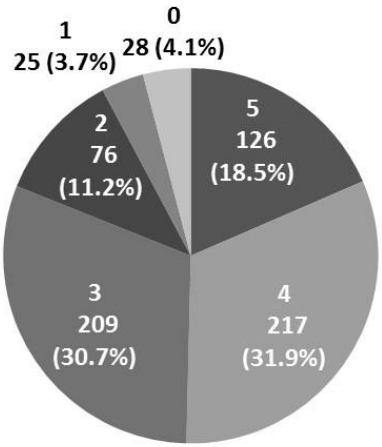
ⅱ）高校までに受けた歴史系授業が思考力育成に結び付いていないため、大学教育との接続がうまくいかないこと



問 12－ⅱでは、「高校までに受けた歴史系授業が歴史的思考力育成に結び付いていないため、大学教育との接続がうまくいっていない」かどうか、を尋ねたものである。総数 681 中、５が 167（24.5%）、４が 296（43.5%）、３が 141（20.7%）、２が 47（6.9%）、１が 12（1.8%）となった。つまり、肯定（５と４）が 463（68%）、３が 141（20.7%）、否定（１と２）が 59（8.7%）となったのであり、多くのひとが高校の歴史教育で思考力が十分育成されていない印象をもっていることが分かる。これを所属別にみると、高校では、肯定が 261（66.8%）、３が 91（23.3%）、否定が 31（7.9%）であったのに対して、広義の大学では、肯定が 163（70.6%）、３が 38（16.5%）、否定が 28（12.1%）となり、広義の大学の方が高校より肯定が若干多いのが分かる。その他と団体の合計では、肯定が 39（66.1%）、３が 12（20.3%）、否定が４（6.8%）でほぼ高校と類似の結果となった。

ⅲ）高校時代に歴史系の科目を履修しないで大学に進学する学生が増えているため、歴史系の補習

	高	大	高/大	その他	団体	計
5	77	30	11	7	1	126
4	134	49	15	16	3	217
3	123	55	17	12	2	209
2	30	24	12	9	1	76
1	9	8	4	4	0	25
0	18	4	2	4	0	28
計	391	170	61	52	7	681



授業を大学でする必要に迫られていること

問 12－iii では、「高校時代に歴史系の科目を履修しないで大学に進学する学生が増えているため、歴史系の補習授業を大学でする必要に迫られていること」を高校・大学間の問題点と考えるか、を尋ねた。総数 681 中、５が 126（18.5%）、４が 217（31.9%）、３が 209（30.7%）、２が 76（11.2%）、１が 25（4.1%）となった。つまり、肯定が（５と４）343（50.4%）、３が 209（30.7%）、否定（１と２）が 101（14.9%）となり、過半数を若干こえるものが肯定している。これを所属別にみると、高校では、肯定が 211（54%）、３が 123（31.5%）、否定が 39（10%）となるのに対して、広義の大学では、肯定が 105（45.5%）、３が 72（31.2%）、２否定が 48（20.8%）となり、高校の方が肯定が若干多い結果となった。その他と団体の合計では、肯定が 27（45.8%）、
３が 14（23.7%）、否定が 14（23.7%）となり、肯定が広義の大学とほぼ同じになった。

iv）その他（意見記入者数）（個々の意見は世界史研究所のホームページ参照）

高	大	高/大	その他	団体	計
39	30	19	8	1	97

問 13 その他、高校の歴史教育改革に関連してご意見があれば、ご自由に記入してください

意見記入者数（個々の意見は世界史研究所のホームページ参照）

高	大	高/大	その他	団体	計
167	99	53	26	3	348

Ⅳ．自由記述の特徴

注）アンケートの自由記述の特徴を分析するにあたり、設問に肯定的な場合は、Ｙタイプ、否定的な場合は、Ｎタイプ、設問とは異なる問題を指摘している場合は、Ａタイプとして分類した。

問５．現在の高校歴史教育が抱える問題点をどうお考えですか

【高校】

ⅰ）Ｙタイプが３通。第一は、生徒の意欲低下の原因を大学入試で歴史科目が軽視されているためとするもの、中学までの歴史授業がすでに暗記中心であることを挙げている。

ⅱ）Ｙタイプ６通。地歴科目の選択が大学入試との関連で決められ、大学での学びと無関係であること、私学では大学入試の「成果」が決定的である等。Ｎタイプ２通、定時制では大学入試関係なし。

ⅲ）Ｙタイプ４通。生徒自身が歴史は暗記と思っている壁がある、定期考査も暗記力を問う傾向。Ｎタイプ１通。暗記は歴史学習の出発点として重要。

ⅳ）Ｙタイプ 10 通。中学から暗記中心の授業、思考力育成型の授業法が普及していず（２通)、生徒が歴史＝暗記科目と思い込み、暗記中心の授業の方が教員にとって楽、教員養成課程で暗記中心の授業しか受けていない、他の科目でも知識注入型の一斉授業が主、Ｎタイプ５通。思考力育成型の授業やっている（３通)、暗記と思考力対立するものではない。

ⅴ）Ａタイプが 28 通全部。教科書が用語過多で難解すぎる（４通)、世界史と日本史の分離が問題、部活や事務に追われ、教材準備の時間ない（８通)、生徒過多で思考力育成型授業は無理（３通)、前近代部分が多く、生徒が関心をもつ現代まで教えられず（３通)、社会科や歴史の選択者少ない（２通)、教育現場への規制が強すぎる（４通)、教員の自己研修の自由なし、教員養成課程に問題あり。

【大学】

ⅰ）Ｙタイプ２通。Ｎタイプ１通。興味がないのではなく、興味を引き出せない状況が問題。

ⅱ）Ｙタイプ２通。地歴の授業時間数が少ない。Ｎタイプ１通。歴史への関心があれば入試は障害にならない。

ⅲ）Ｙタイプ３通。そもそも教員自身が暗記科目と認識している、等。Ｎタイプ３通。暗記型学習がダメという前提に同意できない、ある程度の基礎的な知識は必要、等。

ⅳ）Ｙタイプ６通。Ｎタイプ１通。むしろ色々な工夫がされていると感じる。Ａタイプ１通。そもそも教員に歴史的思考力がない。

ⅴ）Ｙタイプ５通。基礎学力が低下している、他の科目との連携がとれていない、等。

【高校／大学】

ⅰ）Ｙタイプ２通。

ⅱ）Ｙタイプ７通。入試への対応の必要性の有無によって授業形態は変わる、入試が変われば授業内容も変わる、等。Ａタイプ１通。現場では担当者の力量・熱意によるところが大きい。 ⅲ）Ｙタイプ

４通。教員自身が暗記中心・講義式・プリント学習で良いという意識がある、等。Ａタイプ１通。教科書の叙述量が少なく、基本的・基礎的知識が足りない。

ⅳ）Ｙタイプ３通。教員自身が教科書を教えることで精一杯のことも多い、通史教育に偏っている、等。

ⅴ）Ｙタイプ１通。高校歴史教師の養成に歴史学が無関心。Ａタイプ３通。高校だけでなく小中高の流れの中で考えるべき問題、高校によって違うので一般的に答えられない、等。

【その他】

ⅰ）Ｙタイプ１通。興味・関心には個人差があり。授業や学習を通しての強化には限界がある。Ｎタイプ１通。Ａタイプ１通。生徒の興味・関心の低さは歴史に限ったことではない。

ⅱ）Ｙタイプ２通。歴史科目の授業時数が少ない、等。Ｎタイプ１通。公立高校の大半では入試に対応した教育はそもそも意識すらされていない。

ⅲ）Ｙタイプ２通。物理的に文章が多すぎる、自ら調べ発表するという授業形態がない。Ｎタイプ１通。ある程度の暗記は基本。

ⅴ）Ａタイプ１通。間違った現代史がまかり通っている。

問６．上記の問題点を解決する方法は何だとお考えですか

【高校】

ⅰ）Ｙタイプ６通。現場教員としては賛成だが「教科書が無味乾燥」だから「(国家にとって賞賛すべき）人物中心の」歴史教育をすべきとの意見に「論拠」が与えられないかが不安、等。

ⅱ）Ｙタイプ５通。A 科目の扱いを工夫する、等。Ｎタイプ３通。

ⅲ）Ｙタイプ 10 通。入試問題だけでなくセンター試験や定期考査も変わるべき、小中高の一貫した社会科のカリキュラムが必要、等。Ｎタイプ７通。入試問題が変わっても「その出題形式に適した解答の作り方」が教授されるようになるだけ、具体的な出題内容が想像できない、歴史的思考力を問う問題では採点基準が不透明、現在の入試日程では採点をする余裕がない、等。

ⅳ）Ｙタイプ８通。大学で「世界史」という科目を学習できないのが問題、地歴の教員なのに史学専攻以外出身の社会科教員が増加しているために単語偏重の授業になっている、教員の授業力は強化すべきだが上からの研修の強制や学校・教員間での競争は避けるべき、等。Ｎタイプ６通。大学のようなレベルは高校教師にはない、等。

ⅴ）Ｙタイプ７通。歴史の時間数を増やす、等。Ｎタイプ３通。暗記を軽視するのは問題、等。Ａタイプ２通。多種多様な高校があるため回答の特定は難しい、等。

【大学】

ⅰ）Ｙタイプ５通。Ｎタイプ２通。興味の有無に関係なく強制的にでもやらせるべき、等。

ⅱ）Ａタイプ１通。「市民的教養」の概念がはっきりしないので答えられない。

ⅲ）Ｙタイプ５通。センター試験の出題形式を再検討すべき、等。Ｎタイプ５通。現場の教員は高校・大学ともにぎりぎりの環境、「思考力」のような抽象的なものの育成・評価は難しい、等。

ⅳ）Ｙタイプ５通。大学院での専修免許取得を充実させる、歴史系科目の教員にも地理的教養（とくにフィールドワーク）への理解が求められる、等。 ｖ）Ｙタイプ９通。歴史系の科目を入試の必須科目とする、等。Ｎタイプ２通。Ａタイプ１通。

【高校／大学】

ⅰ）Ｙタイプ１通。Ａタイプ１通。そもそも反対するという選択肢は常識的に考えてありえない。

ⅱ）Ｙタイプ２通。

ⅲ）Ｙタイプ４通。Ｎタイプ３通。受験生は自分の実力に合わせて戦略を立てるのだから問題ない、等。Ａタイプ２通。「歴史的思考力」の内容の共通理解がない。

ⅳ）Ｙタイプ９通。大学の教職課程で歴史教師の技量を高めるプログラムを歴史学の立場から真剣に考察すべき、等。Ｎタイプ１通。

ｖ）Ｙタイプ３通。Ｎタイプ１通。Ａタイプ１通。「さあ考えてみよう」式の問題の場合、教師の資質によっては独りよがりな考えを押し付ける危険もある、等。

【その他】

ⅰ）Ｙタイプ１通。教師だけでなく生徒の姿勢も改めるべき、生徒がお客さんになっている。

ⅱ）Ｎタイプ１通。大学に進学しない生徒こそ基本的な用語が長期定着すべき。

ⅲ）Ｙタイプ２通。Ｎタイプ２通。難解な用語を問う問題も判断力で解ける場合も多い、等。

ⅳ）Ｙタイプ１通。

ｖ）Ｙタイプ１通。他科目との関連・連動をさせたカリキュラムにする。

問７．2006 年秋に表面化した世界史未履修問題の解決策としてどれが適当とお考えですか

【高校】

ⅰ）Ｙタイプ６通。現制度ではそうせざるを得ない、大学入試で世界史を必受験科目にする、等。Ｎタイプ 21 通。世界史にこだわらず生徒の関心に応じて選択できる方法であるべき、世界史・日本史の両方を必修にする、必修はすべてやめるべき、等。

ⅱ）Ｙタイプ５通。Ｎタイプ５通。日本史・東洋史・西洋史に分化されている現状の歴史学では統合科目は不可能、現状では世界史・日本史で担当者が分かれている場合も多いのが課題。

ⅲ）Ｙタイプ７通。地歴・公民を社会科に戻す。Ｎタイプ５通。問題意識には共鳴するが現実的には難しい、統合した科目は中学社会と近いので内容の重複になってしまう。

ⅳ）Ｙタイプ６通。世界史・地理的要素をこれまで以上に取り入れるなら同意、統合科目が無理なら日本史のみの必履修にすべき、等。Ｎタイプ２通。

ｖ）Ｙタイプ 10 通。中学での世界史的・世界地理的分野の内容を増やす、等。Ｎタイプ４通。大学入試に活かしにくい科目だと経営者は必ず抜け道を考える、等。Ａタイプ１通。

【大学】

ⅰ）Ｙタイプ２通。Ｎタイプ３通。強制的に学ばせても身につかない、十分にチェックできるわけではない、等。

ⅱ）Ｙタイプ４通。中等教育で身につけるべき教養は近現代史、等。Ｎタイプ３通。統合科目は必要だが現状では単なる自国中心の歴史になるのではと懸念している。

ⅲ）Ｙタイプ５通。Ｎタイプ１通。

ⅳ）Ｎタイプ１通。　ⅴ）Ｙタイプ８通。まず大学の教職課程で新科目に対応したカリキュラムを用意して何年か試行した上で指導要領の変更をすべき、情報活用を主とする「歴史」という新科目を設ける、等。Ｎタイプ１通。地歴ではなく公民分野において現代と歴史の関係を学んでもらうようにする。Ａタイプ１通。

そもそもなぜ３科目を必修にできないのか。

【高校／大学】　ⅰ）Ｙタイプ２通。Ｎタイプ４通。現在の大学受験制度が変わらなければ意味がない、必修枠はなくてよい、等。

ⅱ）Ｙタイプ８通。中学までの歴史が日本史中心なので世界史の比重を大きくしたものにする、「東アジア史」を作る、等。Ａタイプ１通。具体的な見本がないと分からない。

ⅲ）Ｙタイプ２通。

ⅳ）Ｙタイプ１通。Ｎタイプ１通。

ⅴ）Ｙタイプ３通。世界史と日本史の統合はせずに両立させる、等。

【その他】

ⅰ）Ｙタイプ１通。Ｎタイプ２通。日本史・世界史ともに必修とするか自由選択にする。

ⅱ）Ｙタイプ２通。

ⅴ）Ｎタイプ１通。入試で使われない科目は結局勉強されない。

【団体】

ⅰ）Ｎタイプ１通。世界史Ｂ・日本史Ｂを必修とする。

問８．改定の度に高校の歴史教科書の用語数が増加している傾向についてどうお考えですか

【高校】

ⅰ）Ｙタイプ５通。かつては扱わなかった地域の記述が増えた点については悪いこととは思わない、等。Ｎタイプ１通。用語数の増加が問題なのは理解できるが、用語数の抑制は「わかりやすい（最新の研究成果を反映させずに済む国民国家の観点からの)」歴史用語のみを残す結果とならないかが心配。

ⅱ）Ｙタイプ 14 通。研究進展で用語が増加するのは当然だが増えた分だけ削る必要がある教科書の用語数は膨らんでもいいが大学入試には制限が必要、等。Ｎタイプ 13 通。高校にも色々なタイプがあるので教員・学校ごとに取捨選択できるようすべき、用語の限定ではなく分かりやすい解説が必要、等。Ａタイプ１通。数の問題だけではない。

ⅲ）Ｙタイプ３通。Ｎタイプ６通。まずは大学入試が変わることが先決、等。

【大学】

ⅰ）Ｙタイプ１通。Ｎタイプ１通。むしろ重要な用語が削られることもある。

ⅱ）Ｙタイプ 13 通。世界史Ａの教科書を使ってＢをやるくらいがちょうど良い。Ｎタイプ６通。教科書の個性を大切にすべき、語数を制限することで大国中心の歴史になるのでは、等。Ａタイプ６通。問題の本質は用語の多少ではなく暗記に傾く教育、歴史科目は「教科書持ち込み可」の試験にすれば問題は解決する、等。

ⅲ）Ｙタイプ２通。特殊な歴史用語ではなく日常的な言葉で歴史を叙述する、等。　【高校／大学】

ⅱ）Ｙタイプ 10 通。用語を限定した分だけ個々の事象や因果関係について具体的に記述すべき。Ｎタイプ１通。時間が限られているから内容を絞るのではなく、授業時間自体を増やすべき。Ａタイプ２通。実際は用語を全て教えてきたわけではない、等。

ⅲ）Ｙタイプ１通。日本史・地理の内容も盛り込んで学際的な内容にすべき。

【その他】

ⅱ）Ｙタイプ３通。Ｎタイプ３通。授業で扱えないとしても一定量の情報を生徒の目の触れ得るところに提示することに意味がある、等。

【団体】

ⅱ）Ｎタイプ１通。用語数を減らしたこともある。

問９．問８－ⅱで用語の限定が必要とされた場合、高校の世界史Ｂと日本史Ｂにおける適当な用語数は次のどれとお考えですか

（「用語の限定が必要」という提案に対して肯定的なら Y、否定的なら N）

【高校】

- Ｙタイプ４通。2500-3000 語程度にする。人名・地名は最小限にしてほしい。覚えるべき用語と説明に必要な用語を分けるべきでは。等
- Ｎタイプ４通。単純な語数が問題なのではない。もっと多くても良い、等。
- Ａタイプ４通。一概には言えない。大学に進学する生徒と進学しない生徒で区別して考えるべき。大学進学する生徒には基本的知識を身につけさせ、進学しない生徒には教養型の科目として受けさせる。等

【大学】

- Ｙタイプ 23 通。1500-2000 語程度にした上で、近現代史を中心とし、調べ学習を大幅に増やす。限定が必要だとは思うが、あまりに少なくしてしまうのは問題。山川教科書の欄外から出題することはやめてほしい。小学校・中学校で学んできた日本史と、高校で初めて学ぶ世界史とでは、適当な用語数は異なる。最低限必要な記述のわきに発展学習のための incentive としていくつかの用語を記して、関心があれば自分で調べられるようにする。等
- Ｎタイプ 13 通。入試の内容が歴史的思考力を問うものになれば用語数の制限は必要ない。無制限な増加は問題だが、出題用語数の限定はむしろ暗記重視に傾く、多様な情報の中から重要性・問題意識に応じて各自が記憶すべき用語を選び出すのも歴史の学習。用語数の問題にすると、数字が独

り歩きする。中学での既習がどの程度かによって数字が異なるので一律には決められない。用語の数よりも教えるべき内容を吟味すべき。等

- Ａタイプ７通。歴史用語の必要性・重要度・種類に応じて区別して表記する。具体的に分からないので答えられない。歴史教育を専門としないので答えられない。等

【高校／大学】

- Ｙタイプ９通。高校での学習ではなく入試で限定すべき。世界史Ａ程度で十分。1500 語程度は必要。具体的に理解する上で必要な語句もあるため、教科書の重要語句を全て暗記しなければならないかどうかによっても数は変わる。等
- Ｎタイプ５通。用語数よりも暗記力が問われる入試が問題。世界史Ａの教科書はＢよりも分かりづらいので用語数の削減には反対。等
- Ａタイプ１通。教授法をどうするかによって教授法も変わるので一概に言えない。

【その他】

- Ｙタイプ２通。本提案の「2000 語程度」を支持する。教科書・センター試験の水準なら 2500 語程度、用語集の 7000 語基準で言うなら 4000 語程度。
- Ｎタイプ２通。数ではなく内容が問題。用語数の制限は無意味。

問 11. 問 10 で限定が必要とされた場合、大学入試で限定すべき用語数は次のどれとお考えですか（「用語の限定が必要」という提案に対して肯定的なら Y、否定的なら N）

【高校】

- Ｙタイプ 10 通。論述力を問うべき。世界史・日本史選択者が地理よりも負担感を持っており、学校もそれを考慮して歴史選択者を減らそうとしているため、用語数を地理よりも少なくする。用語を覚えるのではなく現在と過去との関係をじっくり考えさせるべき。等
- Ｎタイプ３通。5000 語は必要。現状を限度とすべき。実際に減らすのは難しい。
- Ａタイプ３通。減らした場合、どのような入試問題になるのか例示してほしい。（大学入試を前提とした指導経験がないので）分からない。等

【大学】

- Ｙタイプ８通。人名・地名などの固有名詞よりも概念的用語を充実させるべき。解答させる用語の限定は必要だが、出題に関しては国語能力で対応できるものであれば制限は必要ない。記述式ではなく選択式の入試問題にして用語数は 3000 語にする。1200 語程度が適当。2000 語程度が適当だと思うが、例えば東南アジア史で近年増えた記述が削減対象になるという副作用も懸念される。センター試験は限定的語数のマークシート方式にして、個別の大学入試は記述式にする。等
- Ａタイプ３通。用語数を減らそうとすることが「歴史は暗記もの」という認識の現れ。等

【高校／大学】

- Ｙタイプ４通。高校歴史教育研究会のスタンスをさしあたり支持するが、2000 語という数は少ないわけではないため、出題の仕方が変わらなければ用語数が減っても意味はない、また歴史的思考力とは何かも正面から議論されなければいけない。センター試験は 1500 語程度でよい。等
- Ｎタイプ５通。用語数の問題ではなく授業者の歴史教育観や入試の問題形式が問題。等
- Ａタイプ２通。高校・大学ともに学力格差があるため、対象によって変わる。「歴史基礎」と「日本史」「世界史」とでは用語数は変わるのでは。

【団体】

- Ｙタイプ１通。用語数を限定すべきとの考えには同意するが、大学受験は資格試験ではなく競争試験なのでどうしても受験生に「差」を着ける必要があるので、用語数に縛りをかけつつ受験者の点数に差が出るような出題ができるかどうか、問題作成に当たられる先生方の手腕に期待したい。
- Ｎタイプ２通。用語数の限定は問題の解決にならない。等
- Ａタイプ１通。学部によって差があるべき。

問 12. 歴史教育においける高校と大学の接続に関しての問題点をどうお考えでしょうか

【高校】

ⅰ）Ｙタイプが 2 通。小中で基礎学力の定着のため落第や再教育システムが必要。教養としての知識が定着していない。Ｎタイプが 1 通。知らない単語への対処を育成するべき。

ⅱ）Ｙタイプが 4 通。歴史的思考力の具体性が示される事に期待。知識の量で入試の優劣が決まり思考力に特化した授業が困難。高校で論理的思考力を鍛えることは困難、等。Ｎタイプが 3 通。社会科学全般の思考力の低下。歴史知識により思考し文章にする指導ができるのは文系難関校に進む少数。基礎的な歴史を学ばず専攻に入るのは偏った思考になる。

ⅲ）Ｙタイプが 1 通。理系の歴史未履修が問題。Ｎタイプが 4 通。受験科目にすべき。高校に協力を求めるべき。日本史の未履修が問題。高大教育は合致せず補習授業の必要はない。

ⅳ）Ａタイプが 22 通。生徒も教師も受験で有利かで決める。大学の現状は不明（2 通）。高大の授業は方法も内容も違う（3 通）ため接続は意識しない（2 通）。高校は知識定着、大学は思考力育成。受験が変わるべき（3 通）。大学教員が自身の教育を基に作問？歴史非専攻の学生向けの入門書、ガイドライン等があると接続しやすい。教師のスキルアップ。高校の忙しさも理解。高校に求めるものとは。大学で「歴史的思考力」の講義をしているか。大学に行かない前提の授業をすべき。世界から優秀な生徒を集めレベルを上げる。高大が互いにどういう授業をしているのか理解。歴史系授業だけではない。本人の問題。生徒の性格も考慮。理系も歴史知識は必要。地歴科 3 科目の存続を希望。高校教師の意識改革が必要、等。

【大学】

ⅰ）Ｙタイプが 5 通。最低限の知識がないと思考力は展開できない。基礎力の育成が急務、等。Ｎタイプが 1 通。底辺校では社会や歴史に対する関心すら育んでいない。

ⅱ）Ｙタイプが 5 通。論述試験にうまく答えられない。細部にとらわれる（2 通）。史料、文献の読解、批判的解釈、相互関係の推論に移行できない。ストーリーをなしていない。Ｎタイプが 2 通。高大の歴史教育の違いとは。責任を自覚しない大学が問題。

ⅲ）Ｎタイプが 2 通。Ｙタイプが 1 通。

ⅳ）Ａタイプが 14 通。大学教員の質の改善。世界史履修の学生も不理解。「歴史」感覚がない。大学の授業で何とかできる。大学の教員が学生の声に耳を傾けるべき。高校は知識の定着、大学は思考力育成。理系学生も歴史知識は必要。歴史嫌い、苦手の生徒が多い（2 通）。入試の改善が必要。授業とは別の読書量が少ない、等。

【高校/大学】

ⅰ）Ｎタイプが 2 通。知識のばらつきは仕方がない、等。Ｙタイプが 1 通。

ⅲ）Ｙタイプが 4 通。Ｎタイプが 2 通。補習の必要はない。Ａタイプが 1 通。

ⅳ）Ａタイプが 10 通。「読む」「書く」「考える」能力が低下。政策改善なくして問題は解決しない。大学で共通知識前提の授業は無理。大学教員の概説を講義できる教育力が必要。高校教育に必要な知識の質と量を示すべき。協働して考えるべき。高大接続は教員養成・研修の在り方として考えるべき。歴史的知識は教職以外の学生には必ずしも必要ではない。大学で歴史学の科目が設置されているのは少数。小中での教育を対象外としている、等。

【その他】

ⅱ）Ｎタイプが 1 通。思考力は大学の役割。

ⅲ）Ｙタイプが 3 通。Ｎタイプが 1 通。高大では学び方が異なり補習は意味がない。

ⅳ）Ａタイプが 3 通。教師の質が劣っている。自国史が大切。高大は別であり接続は無理。

【団体】

ⅱ）Ｙタイプが 1 通。

問 13. その他、高校の歴史教育改革に関してご意見があれば、ご自由に記入してください。

【高校】

ⅰ）改革を支持 41 通

＜内容について＞

- 日本とのつながりを重視した内容の歴史科目を設ってほしい。
- テーマ学習（4）、現代史に特化してもよい（12）のでは。
- 教科書は総ルビにしてほしい。具体的かつビジュアルな生徒たちにとって身近な素材を使用する工夫が求められるが、教科書がその援助をしてくれることを期待する。
- 教科書の記述・構成の大掛かりな変身が必要。(2)
- レポートや調べ学習を必修で課すような教科書にしてほしい。
- 「タテ」「ヨコ」あるいは両方、どのように見ていくのか。
- 資料の読み取りから歴史的思考力を育成する必要性がある。

• 欧米の歴史教科書の記述を参考にすべき。
• わかりやすい文章を心がけるべき（3)。
• 因果関係の理解を重視した記述が必要。
• アジアの事項を増やし、ヨーロッパの記述を簡素にすべき。
• 用語の統一が必要（4)。

＜改革をする時の注意点＞

• 用語数の限定も競争と過度な勉強量に規制を入れるという点で悪くはないが、根本的な解決策ではない。
• 新科目が世界史・日本史どちらかのために利用され、意味をなさなくなる。
• 入試問題としてよくねられないと進学校ではちゃんと扱われない可能性がある。
• 統合新科目の狙いとするとおりに授業がなされない可能性がある（3)。
• スキルを身につけるうえで必要となる共通の知識は何かという議論は今後必要。
• どのような語が残るのかが重要。
• 国家主義的な歴史教育に引きずられないように警戒が必要。

用語の精選では「時間軸のつながりや、空間の横の広がりを説明するためにはなくてはならない語」を明らかにすべき。

＜単位について＞

• 科目の単位時間の配分を考慮すべき（4)。
• 内容を減らすか、単位数を増やすかすべき。

歴史基礎を設定するか地歴 3 科目を全て 2 単位以上必修にすべき。

＜その他＞

• 用語を絞り、かつ入試問題の改革も必要。
• いろいろなタイプの高校をまたいで歴史的思考力を養えるような新しい歴史科目が創設されると歴史教育の流れが変わり、生徒の意識も変化するのでは。
• 用語を減らして市民的教養の歴史教育にすべき。
• 時代の全体像を生徒がとらえられる改革が必要。
• 教科書のモデルをつくって、たたき台にし議論したらどうか。
• 改革の具体的な話を職場内で議論ができればと思う。

ⅱ）改革を支持しない 24 通

＜用語そのものについて＞

• 用語の中で、何が重要かは誰にも決められないため、自由競争的にすべき。

＜改革そのものについて＞

• 改革を上から実施しても本当の意味の改革にはならない。
• 教師自らの努力や実践がなければ現状は変わらないと思う。

• 歴史を大まかに学ぶ際に重視される「歴史の流れや「概念的知識」は「応用」「発展」では。
• カリキュラムや指導要領、教材が変化しても消化する時間がなければ授業は変わらない。

＜改革をした時の危険性について＞

• 用語を減らしたり、思考力育成の下「はいまわる歴史教育」に陥ったるすことは決して実りある教育になるとは思えない。
• 現代に必要なスキル、歴史観から逆転して歴史を見ることで教材を選びすぎると時代の流れや政権の方向性が変わったときに教科書改訂とともに内容も変化するだろう。それは教養としてどうか。
• 「基礎」が単純に個別知識の量が少ないだけだと結局授業は暗記量の少ないだけの暗記社会科になるだけでは。
• 用語数を減らすことでかえって歴史認識は浅くなり（2)、興味（面白味）がなくなる（2)。
• 具体的な話こそ生徒は興味を持ち、理念や流れだけでは寝てしまう。
• 政策決定プロセスに反映したとき、予期しない結果をもたらすのではないか。
• 大学受験科目にしない、また高校教育を窮屈にさせることで生徒も教員も疲弊する。
• 用語数を減らすことが歴史教育の改善につながるのか確信がもてない。
• 用語数を絞ることでかえってその限定された用語の暗記に走る生徒が増えるのではないか。
• 用語の限定は教科書の検定につながりかねない。

＜その他＞

• 高校では基礎知識を習得し、大学で教員の専門性を活かして「歴史的思考」を伸ばす授業を展開すればよい。
• 一般教養で学ぶ場合と教養として学ぶ場合を同一視して接続を考えるのは無理では。
• 思考力向上の授業とは具体的にどのようなものか。
• これまでの「日本史ＡＢ」「世界史ＡＢ」でも十分。
• 科目の統合よりも入試での世界史・日本史選択者の負担の軽減が必要。

用語が増えても、増加の背景や意味がわかれば、教員に大きな負担がなくよい授業ができるのでは。

ⅲ）自分の意見 103 通

＜教科書・授業の内容について＞

• 理科基礎のように 2 科目 2 単位の組み合わせにできると理系にも勉強させられるのでは。
• 中学歴史教科書の歴史分野増やしてみてはどうか。
• 日本人としてのアイデンティティを取り戻すような教育をしないと愛国心が育たず、自らの未来に希望が持てず、国際社会でも活躍できない。
• これからの歴史教育は自然科学分野との連携が不可欠なため、教員も「科学基礎」的な知識は最低限必要。
• 歴史の授業に習熟度・少人数制度を取り入れることができたらよい。

- 平和教育について考えるべき（2)。
- 暗記＝悪ではなく、暗記自体ではなく量の問題。
- 現代との関わりや日本とのつながり、基本的な地理的情報を盛り込んだ世界史の教科書、科目の創設が必要。
- 詰め込み授業から解放されるべき。
- 日本史・世界史の近現代の分野は必修とし（4)、他の分野は選択させる（4）方法はどうか。
- 歴史を学ぶ意義を考え直すべき（2)。
- 知識として教えるべきラインはどこなのかを考える必要がある。
- 歴史科と地公科とに分けたほうがよいのでは。
- 大学入試や教養としての知識と、高校、入学時に求められることを整理してから高校の「教育内容」を検討する必要があるのでは。
- カリキュラム的に日本史Ｂ・世界史Ｂ・地理Ｂを選択にし受験特化科目とし、必修として地理Ａ・日本史Ａ・世界史Ａを学ぶ。
- 世界史の理解は日本の歴史を重視するうえでも重要。
- グローバル化よりも地方再生への対応が問題。
- 市民教育の基礎教養として世界史と哲学が重要。
- 日本史（国史）の必修を考えるべき（2)。
- 問題は、歴史を考えていく方法論・史料批判の初歩を教えない点。
- 受験に追われないで授業を展開できる保障が必要。
- 西洋中心の視点を変える取り組みが必要。
- 高校における社会科の位置づけは主要 3 教科や理科よりも位置づけが低いのでは。社会の各々の科目が自己主張を続けると結果的に教科全体の沈下を招くのではないか。
- 通史を学ぶことは高校が最後のチャンスであるため、割愛できない。
- 用語のみならず、命題や理論といったものについても精選のフィルターを通す必要がある。
- 地理を歴史ではなく公民と組み合わせるのはどうか。
- 「歴史学習への関心」の実態を把握すべき。
- 東アジア（場合によっては露・東南アジア）の歴史と風土が学べる必修教科ができるとよい。
- 高校の歴史のテストはすべて論述にすべき。
- 教科書検定制度そのものの存在を問うことが必要。
- 地域学習を中心とする。
- 歴史的思考力を養い、それを適切に表現するには、高い言語能力を養う必要がある。
- 方法論を教えれば、現在の大学入試には対応できる。

年代の割愛・間引きをしないで日本と世界各地域のつながりに重点を置いて歴史の大きな流れを学習できるのであれば、世界史Ａ・日本史Ａの近代史の部分は内容が共通であってもよい。

＜教師の状況について＞

- 生徒の興味関心を引き出すために、教員が授業を工夫し、楽しく感動を共有すべき。
- 大学入試に出ないという理由で現代史を教えない教員が問題。
- 「歴史基礎」を導入したときに世界史を得意とする教員が日本史分野を教えたがらないという例がありうる。
- 教師の自由裁量がある状況が必要（8）
- 人文・社会科学系の大学教員は、高校歴史を通して自分たちの研究について高校生に語ろうとする姿勢が低い。
- 地方は歴史研究にふれたり、授業改善のための研修に参加できる機会が少ない。
- 優れた考査問題の実例を互いに交換する試みがなされるとよい。
- 世界史Ａの優れた指導法を検証しあうことがあってもよいのでは。
- 高校教員に求められている資質の第一が本当に学問的素養なのか疑問。
- 教員の意識改革が必要。
- 統合科目のための教育（または教師のスキルアップ）が必要（5）である。高校の教員は大学院で専門的に学ぶべき。
- 教員の授業以外の負担の軽減が必要。
- 考えさせる授業の評価が難しい（3)。
- 研鑽のための時間がない。
- 世界史・日本史教育に問題意識を持つ教員以外の教員が「歴史（を教えること)」にどれだけ関心を持っているかその状況が把握できなければいくら「歴史的思考力」を養う教材を作っても一部の教員だけの取り組みになる。
- 官製研修ではない、自己研修や教育・歴史関連学会・団体での研修の機会を保証する。
- 高校教員が勉強しないとつとまらないような仕掛けが必要。

＜カリキュラムについて＞
- 教育課程の編成が実態と合わないように変革されようとしている。
- 地歴科は必修にしたほうがよい。
- 試験実施時期の前倒しは高校教育を空洞化させかねない。高校卒業後にすべての大学入試試験が実施され、9 月入学になってほしい。

＜入試について＞
- 市民教養としての歴史教育と大学入試における歴史の位置づけの改善の両立が必要。
- 入試体制の変化、（33）とくにセンター入試の変化が必要（6)。
- 大学入試の語数を限定すべき。
- 日本史必修となった方が世界史Ｂが復権し、まともな「世界史」の授業が展開するのでは。高校のカリキュラムや大学入試での各教科の配点を見直す必要がある。
- 教科書毎の統一性と入試問題が教書をもっと重視することが大切ではないか。

• 教科書の記述と大学入試とで用語数のガイドラインを分けるべき。

＜大学について＞

• 大学で思考力を育成しているのかを問いたい。
• 大学の求めているレベルが不明。
• 大学の教養科目の在り方について検討すべき。
• 「学歴」を超えて大学の人材育成機関としての役割は多面的に重要性を増している。

＜連携について＞

• 小中高の歴史教育の位置づけのたてなおしが必要。
• （小）中学歴史の改革も必要（4）。
• 小中高（3）、小中高大（1）、高大（3）の連携（あるいは議論）が必要。

＜その他＞

• 役に立つか立たないかを世の中が追い求めすぎている。
• 子どもを「社会で育てる」という意識をもつようにしたい。
• 「未履修問題」「用語数の問題」「歴史的思考力育成の問題」「世界史・日本史・地理の必修の問題」は別々の問題。

【大学】

ｉ）改革を支持 25 通

＜内容について＞

• 思考力育成部分に力を入れる。
• 知識の習得と思考力の養成をバランスよく両立させる（2）ため、用語数の肥大化に歯止めをかけ（3）、歴史に即した考察の機会を教科書や授業に盛り込むことで「自らが身を置く現代社会とも関連付けた歴史の構造的な把握」に繋がるような歴史教育の実現ができる（2）。
• 歴史を学ぶ面白さを知り、歴史的思考力を身に付ける（3）ために、用語や年号の暗記中心の授業・入試スタイルを見直すべき
• 広義の「世界史」構築が無理そうであれば、段階的でよいので世界史だけでも改革すべき。
• 覚えるべきは用語ではなく流れ、ストーリー。
• 暗記から歴史的思考力へとは「答える力」から「問う力」への転換である。また、「国民」ではなく「市民」概念をもって、次世代の人間像を表現する点に意を強くする。
• 人の移動、移民の歴史、移住してきた人々が果たした現在の日本社会に対する貢献を積極的に取り上げる必要がある。

歴史に興味関心を持たせるために、日本史、アジアの歴史、世界の歴史を身近な地域の歴史と結びつけて教え、教科書は海外の歴史教科書を参考にして、大胆に叙述を変更する。

＜改革をする時の注意点＞

- 上位進学校、中堅校、教職科、困難校それぞれに固有の問題があり、ミニマムの市民的教養といっても統一した内容を決めるのは難しい。
- 科目の再編が、高校の現場でどのように生かされるのかという点に懸念が残る。教科書は、用語を精選し、漸進的に変えるのでなければ現場の教師の多数にとって使えない。

＜その他＞

- 用語集の類いは高校も大学も用いるべきではない。
- 用語を 2000 語程度に限定した大学入試のモデル問題を提示することが望まれる。
- 「歴史は暗記」でなくなるような授業のために用語の制限が必要なら大学入試も協力する。
- 世界史受験生の減少は、大学の史学科に入学する学生の激減を招く。ここで世界史の用語の厳選と授業法の改革をしないと、大学の世界史系学科の将来に禍根を残す。
- 「世界史・日本史・地理を統合した新科目」を作り、高校１年に必修科目とする。
- 歴史教育だけでどうにかしようとせず、各教科・科目とも連携すべき（2)。そのためには大学入試も、もっと科目数を増やして広く学ぶことを促すような発進も必要。

ⅱ）改革を支持しない 7 通

＜改革そのものについて＞

- 地歴３教科を必修とすることが希望なので、「何を必修にするか」「統合科目を設置するか」「用語をいくつに限定するか」という「後ろ向きの提案」に賛否を問うのはおかしい。
- 大学入試における用語数の限定という議論に強い違和感／反対。(2)

＜改革をした時の危険性について＞

- 基礎的な知識がないまま思考力を伸ばす授業を行って成果が得られるか疑問（2)。従来からの教科書や教育を「暗記型」と名付けてそれを否定するのはかえって状況を悪くする。
- 思考力を養うという美名のもとに、多くの変数の存在を意識できず、世界史は「勉強してないからわからない」という人間をつくり出すための改革と思われる。
- 少しの用語なら身に付くから少なくするのは幻想。色々な説明を読み知ることで少しの用語も定着できるのであり、その言葉の背景にあるものに触れる機会があることが重要。
- 欧米や東アジアとの密接な関係性の中で科目としての「世界史」「日本史」が設定されてきたので、新たに科目を新設して高等学校の教育に混乱を生じさせることは得策ではない。

中学校の歴史、高等学校の日・世、大学の歴史科目の内容の明確な差別化が課題。「歴史基礎」をめぐる議論は中学校の歴史教育においてより検討されるべき内容である。

- 用語制限のような外形標準によって、教科書の多様性に介入することはさけるべき。
- 多くの暴論や根拠薄弱な歴史理解を許しているのは、高校生が不勉強だからではなく、そうした暴論をコントロールできない歴史学界に責任がある。歴史学界が高等学校において提供できる成熟した史実とそれをめぐる解釈を提供できるかといえば、甚だ心もとない。
- 日本の詳しく体系的な「世界史」は、ある種のソフト・パワーでもあり、隣国や世界の諸国との相互理解の重要なチャネルになる可能性を秘めている。それを十分に活用しないまま異なった文脈の科目を新設することは、高校生の「歴史離れ」を加速させる。

＜その他＞

- ユニヴァーサル段階の高等教育を前提にすれば、「入試」を問題にするのは的外れ。
- グローバル化といいながら、社会系・歴史系の教科が提供する知識を不十分な形でしか伝えられていないことを深く反省すべき。
- 地歴は公民の台頭によって、限定・抑制された。
- 小中段階での社会科の空洞化が激しく、特に地理・世界史の関連知識の欠如は深刻。「暗記型」と馬鹿にするのはやめてしっかり教育すべき。
- 高校生・大学生の読書量の少なさも問題。(2)
- 用語を絞ることで、「学ぶ必要はない」と思われる分野が出てしまう。しかし、時間軸にある様々な事象を対象とする歴史学だからこそいったん重要とはされていないことでも見直しができるのであり、それまでの説明では説明できないことがあってこそ面白さがある。
- 大学入試では出題して良い用語数が厳しく限られており、ことに予備校からの指摘を意識するあまりかえって思考力・知識を問うべき出題内容が著しく制約される。用語を増やす（特に東洋史（東アジア史分野））ことは思考力を養い、これを評価する上での基礎となる。
- 歴史基礎と地理基礎で「基礎」の捉え方が異なっている。
- もっと日本史教育の意見も取り入れるべき。

＜新たな提案＞

- 「一定の基礎知識を有する市民の育成」には、地・日・世を全て教える方が望ましい。
- 色々なことが書かれている分厚い教科書を用いて、しっかり読む能力を養い、その内容を自分でまとめる作業をし、さらに多くの本を手に取る指導をしてほしい。
- 授業時間に限りがあるので、高校までの歴史教育では用語数を限定するのではなく必要な用語を網羅して歴史知識を身に付け、大学で歴史的な思考力育成という形で役割分担。

ⅲ）自分の意見 66 通

□

□

＜教科書・授業の内容について＞

- 主権者としての判断力の基盤となる歴史的思考力と意識を育成する教育がめざすべき歴史教育の方向性。
- 全ての市民に求められる歴史学力の育成と、大学での学習の基礎として要求される学力の育成とを分けて考え、両者ともに思考・表現力を学力として重視する。
- 特に近現代史の分野において少なくとも近隣諸国との関係をもう少し教えるべき。
- 経済史の比重をもう少し増やしていいように思う。
- 義務教育では事実的知識とそれを概括する概念的な知識を与え、高校では史資料などをもとに事実や概念を使って探求する力を身に付ける。
- グローバルな視点から日本史も世界史も垣根を取り払って「歴史」としてみる見方を育てる。
- 単に用語数を減らすのではなく、時代や地域の比重も見直すべき。
- 文化系に進む学生には高校で世界史・日本史ともに選択必修科目とする。大学入試でも世界史と日本史の受験時間を別にして両方とれるようにする。
- 自分の国に誇りを持てない自国卑下の授業が多い。教員の研修、研究会への参加を促進し、研究授業や研究発表など活発に進め「開かれた授業」を広める必要がある。
- 歴史の授業で一定のテーマについて生徒がグループで調べたり討論（2）したりする場を設ける。
- 事件史中心の記述を改め、今日の世界史的課題である環境・人口・家族・民族と国家の観点から教科書を作成する。
- 日・世を暗記中心のテスト教科とすべきではないとの考えに立つと、用語数の問題はそれほど重要ではない。
- 高校では古代から現代まで過不足なく全体的な歴史の流れを把握させる授業を目指すべき。
- 解されにくい特種な用語は必要か。用語の量よりも質の問題が問われるべき。
- 高等学校ではまずは「オーソドックス」な知識を吸収し、歴史的事象そのものに興味をかき立てることが重要で、学習項目を減らして興味をかき立てさせようというのは靴に合わせて足を切るような方法である。ただ、資史料に立脚した討論は興味関心や問題意識を養成する上で意味があるので、討論の材料となるような良質な教材開発（2）が必要である。
- 19 世紀あたりから先に教える。アジア史（≒東洋史；Asian History≠Oriental History）という概念で日本史を徹底的に相対化。
- 従来の通史教育を前提とした「解説型」の授業から、歴史学の基本的方法論を組み込んだ、生徒の思考力・判断力を育てることができるような「解釈型」（資料の解釈、その根拠の説明）の授業に転換する必要。
- 「重要用語の選別の際の具体的基準」は、入念かつ慎重な議論が必要。
- 今の世界史Ａはなかなかいい。
- 諸外国の教科書を参考に、議論の材料となる史資料や設問を載せた教科書にする。

＜教師の状況について＞

- 教員が日常雑務に追われて（休暇が少なすぎて）歴史教育について考える余裕、教材研究する時間がない。根本的な変化を含めて考えないと改革にならない。
- 教員の評価の仕方（進学率ではなく）を変えるべき。
- 統合科目のための教育（または教師のスキルアップ）が必要（2）である。

＜カリキュラムについて＞

短期間に詰め込むのではなく、3 年間（中高一貫校では 4〜5 年）でじっくり教えるべき。高一で「歴史基礎［世・日・地］」を 4 単位履修し、市民としての基礎教養を学ぶ。高二で世・日・地のうち 1 科目を 4 単位履修し、興味を持った社会化科目を探究。高三では地歴科の中に「世界遺産論」（「世界遺産」は世界平和実現のためのツールであることを確実に学び、世界市民として生きていくための普遍な価値であることを認識する）を創設し、2 あるいは 4 単位を履修し、世界市民としての基礎教養や歴史基礎の応用問題などのユネスコ憲章に基づく平和教育を行う。

- 歴史を必修化するなら日・世を統合した「近現代史」を一年分で設定する。
- 日・世・地はすべて必修にするか、すべて同等の扱いにした上で選択にする。

＜入試について＞

- 入試の形態という実務的な部分で歴史の面白さや豊かさに水を差さざるを得ない所もある。
- 入試で細かな知識を問う問題を減らし、大きな歴史の流れや時代・事件の意味を問うような論述問題への切り替えが望ましい（4）。しかし、大規模の私立大学では膨大な量の入試採点を考えると現実的にハードルが高い（2）ので、国公立大学が率先して論述形式の問題を必ず取り入れるようにし、高校の現場での知識習得に偏りがちな歴史教育に変化を求めるべき。
- 単なる暗記ではなく、思考力のある入学者を選抜したいと出題に工夫する努力を行っても、今度はその問題が選別機能を果たす結果とはならず、否応なしに選別機能が果たせる出題内容を選ばざるを得ないというジレンマを解消するのは一筋縄ではいかない（3）。
- 入試が受験者をふるい落とすためのものである限り、またそのふるい落としの方法と結果に客観性が求められる限り、現在の受験世界史を変えることは難しい。歴史関係学科が主体的に選抜を（推薦入試等で）行うことができれば多少事態は変わるかもしれない。
- 大学入試での用語数限定だけを強調することには、ある危うさも感じる。
- 全国的な共通試験を何通りか用意すれば、重箱の隅を突くような問題の追放・入試と教科書の用語数を切り離して考えられる点でメリットがある。

＜大学について＞

- 大学の歴史教育も、市民的教養を広く学生に伝えられるよう改革が求められている。

□

□

- 世界史担当教員養成のため、日本史・東洋史・西洋史ではなく「世界史」を学ぶ体制を大学が作るべき。(2)

＜連携について＞

- （小）中学歴史の改革も必要。中学で体系的な世界史教育を受けていない生徒が高校の細かな世界史教科書を強いられるのは気の毒。
- 高大（2）の連携（あるいは議論）が必要。
- 資格をもった教員養成も必要。
- 「歴史教育法」の開発を進めると同時にその専門性を高めるべき。
- 高校は用語数を限定し、暗記科目であることも前提にした上で、大学との連携で初めて歴史的思考力を獲得できるような前提的な見取り図をつくることを提案する。
- 中学までに日本史の基礎力を身に付けることが世界に視野を広げる前提となり、高校における世界史必修の意義を高めている。高校では「東洋史」（東アジア史）に重点を置いた授業と西洋史を軸とした近代社会の形成過程を理解するための世界史が重要。
- 研究者による新たな研究成果・資料収集を、高校での歴史教育や高校教科書の内容に連携させていく工夫（2）が「高校での歴史教育の活性化や歴史的思考力の育成」につながる。

＜その他＞

- 「研究の深化による用語数増大」と「思考力を育てる学習」を対立的に捉えることは違う問題。
- 大学生の学力が年々低下している。
- 大学・学部により入試の形態も問題傾向も様々で高校の歴史の授業も教員により相当違う。
- 高校の歴史教育の目的は、指導要領レベル・教科書執筆者のレベル・現場のレベルでそれぞれズレがある。どのレベルでどのようなことが目的になっているのかそれとの関係で具体的な提言が求められる。ズレをどのように調整するのかが、改革に期待するところ。
- 歴史的な知識や思考がグローバル化する今日の生活に密接になっているとき、高校の世界史授業の重要な意義を再確認してほしい。(2)
- 細部におもしろさを感ずる学生も多くいるはずなので、単に用語数の多少では解決できない問題があると思う。
- 基本的事項や用語の彼方にある歴史的思考や歴史的想像力の重要性を示してやる必要性。
- 時々の政治の介入を排して、研究成果を教育に反映できる環境作りが必要。
- 歴史に関心を示さない（と考えられる）人たちに、どのように歴史学的発想を訴求できるかを考えない限り、歴史教育はたこつぼ化する。
- 日・世の知識は市民に必要であり、どちらかの知識を犠牲にして達成されるのは逆効果。
- 「あくまでも高校で教えるのは『簡略版』の歴史で、大学でより専門的に勉強をすれば、新たな視野が広がる」ということを、授業の狭間に学生に示唆する教員が貴重。

- 若い世代の世界観・歴史観が狭いナショナリズムの方向に進む傾向に対する抵抗力をつけることを第一に考えるべき。
- 教師や書物の教えるところではなくネットの情報を安易に用いる。(3)
- 高校の教育で求められるのは歴史学ではなく歴史なので、思考力という曖昧なものに振り回される必要はない。
- 「歴史イコール暗記科目」という先入観を打破すべき。
- 現在の問題は、センター試験では相対的に用語数が少ない日本史を選択する生徒が多く、世界史の学習時間が少ない生徒が多い点にある。
- 用語数の多寡に関する判断は容易ではない。「用語」が何を意味するのか明確にすべき。
- 政治、経済、国際理解等のプログラムには歴史への理解が必須であると自覚すべき。
- 教員の資質や学校を巡る状況の悪化は、全科目に共通の問題。生徒に歴史への内的関心を持ってもらうことが最も大事だが、単に学校現場だけでなく、社会や家庭を含めて教育そのもの、学習そのものを検討しなければ困難な課題。
- 公平性を保障するはずの入試が目的化した結果、本来の歴史教育の目的が忘れ去られた。
- 「歴史的思考力」という言葉に関して、大学教員も含め全体として統一的な理解がない。
  文化史が多すぎる。

□

□
何をもって学問とするかという根本の思想を見直す必要。正答式が評価される状況で、世界史のみ「おもしろさ」に特化した教育プログラムを構成するのは困難。点数によって評価される文化において、歴史教育改革が果たす役割は大きい。

- 日頃、歴教協などに行かない現場の先生方の率直な意見や所感を聞く機会を設けるべき。
- 学生の読書量が少ないため、論理的な説明文を書くことが苦手。

【高校/大学】

ⅰ）改革を支持高大 14 通

＜内容について＞

- 思考力育成部分に力を入れる。
- 用語限定、歴史的思考力の育成に重点を置いた歴史教育は「歴史基礎」から始める。
- 根本的な中高歴史教育改革が必要。世界史を教えられる教員が不足していく可能性。
- 日本史も世界史も全時代を必履修化（3 単位）するため、取り扱うべき時代や地域、内容等を精選すべき。
- 日本史と世界史は合一して単なる歴史とすべき。
- 読むだけで興味のわく教科書を自由に作成させる。

＜改革をする時の注意点＞

- 日・世の統合科目を新設する場合、日本と関わる範囲のみで良いか慎重に検討すべき。
- 日・世を統合した歴史基礎的科目を設定する場合、中学のようなものではなく、執筆者も自己の専門にとらわれない視点・発想が必要。
- 日・世の統合科目を実施する際の課題→教員養成体制、現場の教師が対応できるか、中学校社会科との整合性、大学入試制度・公務員や企業の採用試験の変更や調整、歴史教育研究者と歴史研究者が協働しつつ統合科目の内容を打ち出せるか。統合科目の企画・実施には高校・大学・社会が変容を受け止める「覚悟」が必要。
- 教科書の内容は全て教え込むべきものではなく、その用い方は様々な方法があって当然なので、教科書の用語ではなく、大学入試問題に使用する用語を削減すべき。
- 歴史的思考力を重視した授業・大学入試にするために、歴史学・教育学の研究者と高校教師が協力して推進する全国の高校の歴史教師が参加できる研修システムを作り上げる。
- 歴史と現代の比較には必ずしも用語の広い知識は必要ではない。高校歴史教育は、いくつかの主題を重点に整理する必要がある。
- 改革案を受け止めて、歴史教師が思考力育成型の授業の内実を発展させていく必要がある。
- 教科書記述は用語を減らしても叙述の仕方が従来通りではあまり意味がない。

□

□

＜単位について＞

- 世界史と地理の合科による 4 単位の必履修科目（例えば「国際理解」）を設置し国際的視野の育成をはかる。

＜その他＞

日本近現代史を必修化するか、日本史と世界史を合わせた「現代史」を設置して必修化。歴史教育だけでどうにかしようとせず、各教科・科目とも連携すべき。(2)

ⅱ）改革を支持しない４通

＜改革そのものについて＞

- 「世界史・日本史の統合」というにわかづくりの折衷的な科目は現場の教員のやる気を失わせ、生徒からみても魅力のない授業になる。
- 高校段階では幅広い通史の習得が必要であり、それを抜きにして個別の主題学習を試みてもほとんど効果は上がらない。
- 教科書にはある程度の「分厚さ」が必要。用語数を限定するのなら大学入試に関してすべき。
- 歴史嫌いの高校生がパーセンテージで多いのは当たり前で、それは数学でも物理でも同じ。そういうデータをもとに議論を一定の方向に導くやり方は危険。

＜改革をした時の危険性について＞

- 用語を軽視ししてイメージだけ作らせると、歴史教育の「物語教育」化を招く。
- 基礎的な知識がないまま思考力を伸ばす授業を行って成果が得られるか疑問（2）
- 従来からの教科書や教育を「暗記型」と名付けてそれを否定するのはかえって状況を悪くする。

ⅲ）自分の意見 33 通

＜教科書・授業の内容について＞

- 小２～中２が格闘すべき用語の焦点は「知識」（具体物への想像が可能）で、高校段階で格闘すべきそれは「概念」（抽象度が高く社会科学的認識に必要不可欠)。知識と概念は暗記の対象としてはならず、興味関心や歴史の技法、歴史的思考力等を総動員して理解すべき。
- 従来の通史教育を前提とした「解説型」の授業から、歴史学の基本的方法論を組み込んだ、生徒の思考力・判断力を育てることができるような「解釈型」（資料の解釈、その根拠の説明）の授業に転換する必要。(2)
- 生徒が「ミニ歴史学者」のように学ぶことができるようにする。
- 討論の材料となるような良質な教材開発。
- 授業を一方通行の講義形式からワークショップ型のバズ学習形式に改めるべき。

□

□

- 「世界史」を「グローバルヒストリー」に改変し、「地球市民」としての視点やアイデンティティが養成される歴史教育に切り替えるべき。
- 一定の主題に関して議論・発表することを授業の中心とするための史資料や多様な解釈のデータバンクとして教科書を位置づける。語数の限定では問題の本質は解決しない。
- 教科書および大学入試で出題する用語数は限定し、教科書の用語を太字にしない方が、生徒の、文章を読み、歴史的思考を行う力を伸ばせる。
- 諸外国の教科書を参考に、議論の材料となる史資料や設問を載せた教科書にする。
- 教科書のスリム化の名のもとに、そうでなくとも乏しい朝鮮史の叙述量が削られることを憂慮（2)。日本が世界史の中で進むべき道を見据えて、慎重に議論を進めるべき。

  受験科目に歴史を選択しない生徒に対しても受験対応の影響を受けた授業をすることが問題。高校生の持つ感覚に沿った歴史の授業をすべき。
- 色々な教科書を検討し、面白い授業を構築すべき。学校が全てに責任を持つ風潮を危惧する。

＜教師の状況について＞

- 統合科目のための教育（または教師のスキルアップ）が必要（2）である。
- 教員が日常雑務に追われて（休暇が少なすぎて）歴史教育について考える余裕、教材研究する時間がない（2)。根本的な変化を含めて考えないと改革にならない。(2)

＜カリキュラムについて＞

- 「歴史基礎」「地理基礎」の 2 科目の必修化は現場の負担が大きすぎるので、基礎的科目を導入するのであれば地理・歴史融合の「地歴基礎」の枠組みが適当。

＜入試について＞

- 入試で細かな知識を問う問題を減らし、大きな歴史の流れや時代・事件の意味を問うような論述問題への切り替えが望ましい（2)。
- 高校での学習成果は高校を出る段階で純粋に評価すべき。大学入試は大学での学習に適するか否かだけを問う本来の目的のものに回帰すべき。
- 入試での用語限定は、逆に超難関になる恐れ、採点基準が不明確になる恐れがある。入試問題の改善は大学側の問題。
- 入試が受験者をふるい落とすためのものである限り、またそのふるい落としの方法と結果に客観性が求められる限り、現在の受験世界史を変えることは難しい。

＜大学について＞

- 世界史担当教員養成のため、日本史・東洋史・西洋史ではなく「世界史」を学ぶ体制を大学が作るべき。(2)

＜連携について＞

- 小中高、小中高大の連携（あるいは議論）が必要。

□

＜その他＞

- 独善的な歴史認識に陥らないよう世界史を幅広い視野から学ぶべきで、日本史必修化がなされた場合の弊害を危惧せざるをえない。
- 若い世代の世界観・歴史観が狭いナショナリズムの方向に進む傾向。
- 大多数の生徒であり、進学校や大学進学者の層ではない。様々な高等学校の教育現場に出かけて生徒の様子を見ながら、歴史教育改革を考えてほしい。
- 世界史をきちんと学んでおらず、きちんとした歴史意識を持てないまま教員になる学生がいることに対する懸念。
- 「歴史基礎」は対外関係を重視した「日本史」となってしまう可能性が高い。
- 暗記科目を脱却するため、センター試験を「資格試験」化→国公大・私大入試の論述問題
- 知識量・学術的見識のなさを克服すべき。
- １クラス 40 人を 20 人に減らせば自然と考えることを中心とした授業になる。
- 「市民的教養としての歴史教育」には、中学校社会科＋世界史Ａ程度の知識が身に付けば十分。「歴史基礎」と「地理基礎」の必修化に期待。

□

【その他】

ⅰ）改革を支持１通

＜内容について＞

- 歴史的思考力を通して目指す「生きる力」「自立した市民」のイメージが掴みにくいので、より具体的な検討が必要。
- 多様な国籍や地域の出身や教育経験をもつ生徒が増えているという社会的現実を考慮した歴史教育が必要であり、この点と世界史教育の必要性との関連を明示することも重要。

ⅱ）改革を支持しない 1 通

＜その他＞

- グローバル化時代だからこそ日本史を説明できる力をつけるべき。日本史選択が多いのは日本史の漢字の方が日本人として取り組みやすいから。もっと自由選択させるべき。

ⅲ）自分の意見 25 通

＜教科書・授業の内容について＞

- 現在の政治史・社会経済史中心の教育に加え、各国・各民族の文化形成に大きな影響を与えると思われる宗教・思想史の視点からの学習を重視したい。
- 板書中心授業からレジュメ配布型授業にし、大学と同様の解説を中心とした講義スタイルにする。
- 用語数をむしろ増やしつつ、最重要語・重要語・それ以外というランク分けを徹底させることで意欲ある学生にはさらに詳細な内容まで踏み込ませ、そうでない学生にも最低限の重要用語だけは必ずおさえさせるような工夫が必要。
- 受験を意識せず、逸話や現代との比較を織り交ぜながら、歴史の因果関係をしっかり教え理解させる授業を行う。
- 用語は多いに越したことはなく、教える側が取捨選択すべき。教科書の構成・編集方針には不満で、欧米史偏重は変えるべき。日本人の「井の中の蛙」化には反対なので、日本史必修化には反対。
- 教科書の用語数は多角的理解を深めるためには多くてよい。
- 歴史学の個別分野の知識、地理的知識、時代概念を混乱している生徒が多いことを前提として、いかに教えるかが重要。

＜教師の状況について＞

- 統合科目のための教育（または教師のスキルアップ）が必要である。

＜カリキュラムについて＞

- 内容が多いのは致し方ないことなので、時間数を増やすしかない。

• 大学受験希望者が「日本史」受験の場合は世界史Ａ（必修）＋日本史Ｂ、「世界史」受験の場合は世界史Ｂ（必修）＋日本史Ａの履修が近現代史における日本と諸外国との関係に対する理解度が増すと考えられ望ましい。

＜入試について＞

• 入試で細かな知識を問う問題を減らし、大きな歴史の流れや時代・事件の意味を問うような論述問題への切り替えが望ましい（3)。
• 大学は、教科書に載っていない事項を入試で出題すると非難を浴びかねず、記述式試験で十分な回答を期待できない大学もある中で、さらに語彙を絞られると、歴史的思考力を問うことが困難になる。

＜その他＞

• 大学で歴史を学んで、飯が食っていける世の中にしていくことが歴史を学ぶ高校生、大学生のレベルをあげることにつながる。
• 小学校では日本の歴史の基礎知識の定着、中学校では世界の歴史の基礎知識と世界地図を思い浮かべられる程度の地理の知識の定着が必要。センター試験は小中までの基礎知識の確認にとどめ、思考力重視の独自試験で各大学が選抜する（2）という転換が必要。
• 歴史にかかる基礎的な知識を習得しつつ、戦争・民族・宗教・領土問題・歴史認識の問題・国家と歴史との関係といった問題について議論を深めるような歴史教育を続けていくことで「歴史」ははじめて「対立を煽る歴史」から「和解を促す歴史」へと変わっていける。
• 単に用語を減らしたのでは、ただの「事実の羅列」になる恐れがあるので、授業も入試も「近現代史に限定する」べき。
• 基礎的歴史用語を並べて歴史の再構成を考えさせる方法があってもいい。
• 現代史の比重を増やす、東アジアの国際関係重視、論理的な思考力の養成。
• 大学における知識の基礎として世界史が必要な場合は世界史受験を必須とするのも一つの手段。
• 国際人としての日本人を育てたいなら、自国の言語や文化、歴史に対する教養を授けるべき（2)。初等教育のころから歴史教育を充実させるべき。
• 「歴史的思考力の育成を図る」と言った場合、具体的に何を意味し、客観的にどう評価するのか、教育する側に明確な共通認識ができているのかが課題。
• 英語・国語・理系科目が重視され、歴史学習に手が回らない現状を直視すべき。

【団体】

ｉ）改革を支持１通

＜内容について＞

- 日本史・世界史の用語限定と思考力育成型、課題解決・探求学習、仮説–実証の追体験、史料活用、グループ学習、発表型学習、討論学習、調査・研究型学習などの授業形態に移行すべき。
- 大学入試は読解や分析、多角的な視点などを重視して出題、記述・論文型が望ましい。
- 日本史にとっても、地理の基礎（空間把握）、世界史的視点（古代～近世と東アジア史、近現代と世界史）は重要。

＜改革をする時の注意点＞

- 地歴公民の必修・選択の全体像が見えない。「単位爆発の」可能性がある。現在は「世 4＋［日・地］4＋［政・倫］4＝12 単位」で、案では「[歴基 2＋地基 2］計 4＋［日・地・世］8？＋［政・倫］4＝16 単位？」。他教科との関連で、日・地・世で 4 単位しか選択できない場合、地理を選択したものは歴基 2 しか在学中にとれない可能性もあるのか。

ⅱ）改革を支持しない 0 通

ⅲ）自分の意見 1 通

＜教科書・授業の内容について＞

- 教科書自体の用語を減らすという発想ではなく、入試や到達度テストの解答が限定された教科書の用語の中でも答えられるものにするという方向が望ましい。

＜入試について＞

- 入試で細かな知識を問う問題を減らし、大きな歴史の流れや時代・事件の意味を問うような論述問題への切り替えが望ましい。

＜その他＞

歴史的思考を教えることとの関連性の中で用語数を考えるべき。そもそも学習指導要領をそうした点から見直す必要がある。

Ⅴ．高等学校歴史教育研究会の改革提言

高等学校歴史教育研究会平
成 26（2014）年９月

１）　アンケート結果から明らかなとおり、大学入試が高校の歴史教育に大きな否定的影響を与えていることが明らかになった。歴史教育は、過去への興味・関心を喚起し、歴史的分析や解釈力および時系列的思考力を育成して、歴史的思考力を培うのにふさわしい教科であるにも関わらず、大学入試がその特性の発揮を困難にさせている大きな要因の一つである。それ故、大学入試の在り方を変えることが、高校での歴史教育改革に先行すべき課題と考えられるので、大学の歴史研究者に現状を訴え、歴史系の大学入試を抜本的に改革する必要性の認識を広めてゆく必要がある。そのような問題提起を日本学術会議や日本歴史学協会が先導して進めていただくことを切望したい。

２）　具体的には、記述式など歴史的思考力を試すにふさわしい試験形態の拡充とともに、短期間で大勢の受験生の合否判定を迫られている大規模大学の入試でも、出題用語を限定して、細かい用語の暗記力ではなく、思考力も試すことができる出題方式の開発を進めることが必要である。その検討を進める上で、大学として大学入学時の学生にどのような歴史的思考力を期待するか、またどの程度の歴史用語の理解を求めるべきかの検討も必要になると思われる。当研究会では２年間の検討を経て、世界史Ｂと日本史Ｂのそれぞれ 2000 語程度の歴史用語の限定案を作成した（別添資料参照）。この試案は、思考力育成型の授業と用語説明を両立させるにはＢ科目の場合、１時間の授業で用語は 15 語（見開き２ページ内）くらいが限度であり、Ｂ科目の場合は、「標準単位が４単位」であるが、他の学校行事などのため、120 時間くらいが実施可能な授業時間数といわれるので、総数 1800 語くらいが生徒にとって分かりやすい授業を実施する場合の用語の限度と考えられる。それに若干の用語を追加して作成したのがこの 2000 語案である。この 2000 語案は長年、高校で世界史や日本史を担当してきた教員が長時間かけて検討した努力のたまものであり、高校現場での検証で今後の改善が図られることを期待している。また、大学入試における出題用語の限定案としても提案しているので、今後、大学教員にも検討をお願いしたい。とくに、大学教員には大学入試の出題をこの 2000 語程度に限定した場合、どのような問題点がでてくるのか、を検証し、その結果を集約して、今後の改善を進めることを期待している。

３）　勿論、大学入試改革とともに、高校の歴史教育改革も必要であり、歴史系の新科目の動向に注目するとともに、思考力育成型の授業の導入を促進することも重要である。また、大学が責任をもっている教員養成課程で、暗記中心の授業が行われているとの指摘もあるので、その改革の検討も重要である。これらの諸問題を改革してゆくためには、高校と大学の教員間の意見交換

の場を恒常的に確保することが重要であり、既に一部の大学で進んでいる高大連携の試みを一層進めるとともに、それらの経験を全国的に集約する場の設定を提案したい。

Ⅵ. 資料

資料１世界史重要用語案（2147 語）

【先史】先史の世界（22 語）
人類 / 直立二足歩行 / 猿人 / 原人 / 北京原人 / 打製石器 / 旧人 / ネアンデルタール人 / 新人（現生人類，ホモ=サピエンス=サピエンス）/ クロマニョン人 / アルタミラ / ラスコー / 旧石器時代 / 新石器時代 / 磨製石器 / 土器 / 灌漑農業 / 青銅器 / 鉄器 / 文化・文明 / 民族 / 語族

【古代】オリエントと地中海世界（195 語）
オリエント / メソポタミア / ティグリス川・ユーフラテス川 / セム語系（アフロ=アジア語系）/ シュメール人 / ウル / 神権政治［オリエント］/ バビロン第１王朝（古バビロニア王国）/ バビロン / ハンムラビ法典 / 「目には目を，歯には歯を」 / 楔形文字 / 六十進法 / 太陰暦 / インド=ヨーロッパ語系民族 / エジプト / ナイル川 / 「エジプトはナイルのたまもの」 / ファラオ / クフ王 / テーベ / アメンホテプ４世（イクナートン）/ テル=エル=アマルナ / ラー / 「死者の書」 / ミイラ / ピラミッド / 太陽暦 / 神聖文字（ヒエログリフ）/ ロゼッタ=ストーン / パピルス / 測地術 / アラム人 / アラム語 / フェニキア人 / カルタゴ / アルファベット / パレスチナ / ヘブライ人 / ユダヤ人 / モーセ / ダヴィデ / ソロモン / イェルサレム / バビロン捕囚 / ユダヤ教 / ヤハウェ（ヤーヴェ）/ メシア（救世主）/『旧約聖書』/ アッシリア / イラン / アケメネス朝 / ダレイオス（ダリウス）１世 / ペルセポリス / サトラップ（知事）/ 「王の目」「王の耳」 / 「王の道」 / 駅伝制［オリエント］/ ゾロアスター教（拝火教）/ アフラ=マズダ / 最後の審判 / パルティア（アルサケス朝）/ ササン朝 / ホスロー１世 /『アヴェスター』/ マニ教 / エーゲ文明 / シュリーマン / クレタ文明（ミノス文明）/ ミケーネ文明 / ミケーネ / トロイア（トロヤ）/ ギリシア / ポリス / アクロポリス / アゴラ / バルバロイ / オリンピアの祭典 / 植民市〔ギリシア〕 / スパルタ / アテネ / 重装歩兵〔ギリシア〕 / ソロン / 債務奴隷 / 財産政治 / 僭主 / クレイステネス/ オストラシズム（陶片追放）/ ペルシア戦争 / マラトンの戦い / サラミスの海戦 / デロス同盟 / ペリクレス / 民主政治 / 直接民主政 / 民会［ギリシア］/ 民衆裁判所 / 奴隷制〔ギリシア〕 / ペロポネソス同盟 / ペロポネソス戦争 / オリンポス 12 神 / ホメロス /『イリアス』/『オデュッセイア』/ ソフォクレス /『オイディプス』/ 自然哲学 / タレス / ピタゴラス / ソフィスト / ソクラテス / 「無知の知」 / プラトン / イデア / アリストテレス / ヘロドトス /『歴史』［ヘロドトス］/ トゥキディデス /『歴史』［トゥキディデス］/ パルテノン / マケドニア /

アレクサンドロス（アレクサンダー）大王 / 東方（ペルシア）遠征 / プトレマイオス朝 / ヘレニズム / アレクサンドリア〔エジプト〕 / ムセイオン / エウクレイデス（ユークリッド）/ アルキメデス / ストア派 / エピクロス派 / 「ミロのヴィーナス」 / ラテン人 / ローマ / 共和政〔ローマ〕 / 元老院/ コンスル（執政官・統領）/ 平民会 / 護民官 / カルタゴ / ポエニ戦争 / ハンニバル / 属州 / ラティフンディア（ラティフンディウム）/ グラックス兄弟 / スパルタクスの反乱 / ポンペイウス / カエサル（シーザー）/ ガリア遠征 / アントニウス / オクタウ（ヴ）ィアヌス / クレオパトラ / アクティウムの海戦 / アウグストゥス（尊厳者）/ プリンキパトゥス（元首政）/ 帝政ローマ（ローマ帝国）/ パックス=ロマーナ（「ローマの平和」）/ 五賢帝 / トラヤヌス / マルクス=アウレリウス=アントニヌス / 季節風貿易 / ローマ市民権 / 軍人皇帝 / コロヌス / ディオクレティアヌス / ドミナトゥス（専制君主政）/ コンスタンティヌス / キリスト教の公認 / コンスタンティノープル（ビザンティウム）/ キケロ / 『自省録』 / 『ガリア戦記』 / タキトゥス / 『ゲルマニア』 / プルタルコス / 『対比列伝』（『英雄伝』）/ プトレマイオス / 天動説 / ローマ法 / 『ローマ法大全』 / コロッセウム（円形闘技場）/ ラテン語 / ローマ字 / ユリウス暦 / イエス / キリスト / キリスト教 / 使徒 / ペテロ / パウロ / 『新約聖書』 / 三位一体説 / キリスト教の国教化 / アウグスティヌス / 『神の国』（『神国論』）

【古代】アジア・アメリカの古代文明（154 語）
インダス川 / インダス文明 / ハラッパー / モエンジョ=ダーロ / インダス文字 / ドラヴィダ系 / アーリヤ人 / ガンジス川 / ヴェーダ / ヴァルナ / ジャーティ / カースト / バラモン / クシャトリヤ / ヴァイシャ / シュードラ / 不可触民（ダリト・ハリジャン）/ バラモン教 / 輪廻転生/ ガウタマ=シッダールタ / ブッダ（仏陀）/ 仏教 / 『マハーバーラタ』 / 『ラーマーヤナ』 / マウリヤ朝 / アショーカ王 / 磨崖碑・石柱碑 / 仏典結集〔第３回〕 / クシャーナ朝 / カニシカ / ガンダーラ美術 / 上座部仏教 / 大乗仏教 / 菩薩信仰 / グプタ朝 / チャンドラグプタ２世（超日王）/ サンスクリット語 / ナーランダー僧院 / グプタ様式 / アジャンター石窟寺院 / 『マヌ法典』 / ヒンドゥー教 / シヴァ神 / ヴィシュヌ神 / パガン朝 / ビルマ人 / ベトナム / ドンソン文化 / 大越（ダイベト）国 / チャム人 / チャンパー / クメール（カンボジア）人 / 扶南 / 港市国家 / アンコール朝 / アンコール=ワット / マレー人 / シュリーヴィジャヤ / シャイレンドラ朝 / ボロブドゥール / 黄河 / 黄河文明 / 彩文土器（彩陶）/ 黒陶 / 長江（揚子江）/ 邑 / 夏 / 殷 / 殷墟 / 甲骨文字 / 易姓革命 / 禅譲・放伐 / 周 / 封建制度〔中国〕 / 宗法 / 春秋・戦国時代 / 牛耕 / 鉄製農具 / 青銅貨幣 / 秦/ 諸子百家 / 儒家 / 孔子 / 『論語』 / 孟子 / 性善説 / 荀子 / 性悪説 / 墨家 / 墨子 / 道家 / 老子 / 無為自然 / 荘子 / 法家 / 韓非 / 兵家 / 縦横家 / 咸陽 / 皇帝 / 始皇帝（秦王政）/ 郡県制 / 半両銭 / 焚書・坑儒 / 長城（万里の長城）/ 陳勝・呉広の乱 / 項羽 / 劉邦 / 漢 / 前漢 / 高祖 / 長安 / 郡国制 / 武帝 / 匈奴 / 張騫 / 西域 / 大月氏 / 楽浪郡 / 塩・鉄・酒の専売 / 豪族 / 宦官 / 外戚 / 王莽 / 新 / 赤眉の乱 / 後漢 / 劉秀（光武帝）/ 洛陽 / 倭 / 漢委奴国王印 / 金印 / 班超 / 大秦王安敦 / 黄巾の乱 / 太平道 / 儒学

/ 董仲舒 / 司馬遷 / 『史記』 / 紀伝体 / 班固 / 『漢書』 / 木簡・竹簡 / 製紙技術 / マヤ文明（マヤの都市国家）/ 絵文字（マヤ文字・象形文字）/ アステカ帝（王）国（アステカ文明）/ テノチティトラン / アンデス文明 / インカ帝国（インカ文明）/ クスコ / マチュ=ピチュ / キープ（結縄）

【古代】東アジア世界の形成と発展（182 語）
魏晋南北朝 / 三国時代 / 曹操 / 曹丕（文帝）/ 魏［三国］/ 劉備 / 蜀 / 諸葛亮（孔明）/ 孫権 / 呉 / 晋（西晋）/ 鮮卑 / 東晋 / 建康 / 五胡十六国 / 南北朝時代 / 北魏 / 拓跋氏 / 孝文帝 / 漢化政策 / 洛陽 / 九品中正（九品官人法）/ 均田制〔北魏〕 / 門閥貴族 / 江南の開発 / 六朝文化 / 陶潜（陶淵明）/ 昭明太子 / 『文選』 / 王羲之 / 鳩摩羅什（クマーラジーヴァ）/ 法顕 / 『仏国記』/ 敦煌 / 雲崗 / 竜門 / 道教 / 寇謙之 / 高句麗 / 広開土王（好太王）/ 新羅 / 百済 / 『魏志倭人伝』 / 邪馬台国 / 卑弥呼 / ヤマト（大和）政権 / 倭の五王 / 隋 / 楊堅（文帝）/ 科挙（選挙）〔隋〕 / 租庸調制〔隋〕 / 府兵制 / 突厥 / 煬帝 / 大運河 / 唐 / 李淵（高祖）/ 太宗（李世民）/ 「貞観の治」 / 高宗〔唐〕 / 中書省 / 門下省 / 尚書省 / 六部〔唐〕 / 律・令・格・式 / 都護府 / 則天武后 / 周（武周）/ 玄宗 / 「開元の治」 / 募兵制 / 節度使 / 楊貴妃 / 安史の乱 / 安禄山 / 史思明 / ウイグル（回紇）/ 吐蕃 / 両税法 / 荘園［中国］/ 黄巣の乱 / 朱全忠 / 広州
/ アラブ人（ムスリム商人）/ ソグド人 / 唐詩 / 李白 / 杜甫 / 白居易（白楽天）/ 韓愈（韓退之）/ 柳宗元 / 山水画 / 顔真卿 / 唐三彩 / 玄奘（三蔵法師）/ 『大唐西域記』 / 義浄 / 『南海寄帰内法伝』 / 回教 / 冊封体制 / ソンツェン=ガンポ / チベット仏教（ラマ教）/ 渤海国 / 慶州 / 仏国寺 / 骨品制 / 聖徳太子 / 遣隋使 / 遣唐使 / 大化の改新 / 白村江の戦い / 律令国家体制 / 奈良時代 / 平城京 / 天平文化 / 五代十国 / 燕雲十六州 / 宋 / 趙匡胤（太祖）/ 開封（汴京）/ 「清明上河図」 / 太宗（北宋）/ 文治主義 / 殿試 / 士大夫 / 王安石 / 新法 / 司馬光 / 靖康の変 / 南宋 / 臨安（杭州）/ 淮河（淮水）/ 佃戸 / 占城稲 / 「蘇湖（江浙）熟すれば天下足る」 / 銅銭（宋銭）/ 行 / 市舶司 / 明州（寧波）/ 泉州 / 景徳鎮 / 茶 / 宋学 / 朱熹（朱子）/ 朱子学 / 大義名分論 / 華夷の区別 / 『資治通鑑』 / 編年体 / 蘇軾（蘇東坡）/ 詞 / 院体画 / 徽宗 / 文人画 / 青磁 / 白磁 / 禅宗（中国）/ 浄土宗 / 火薬 / 羅針盤（磁針）〔中国〕 / 木版印刷 / 契丹 / 遼 / 澶淵の盟 / 二重統治体制 / 契丹文字 / タングート / 西夏 / 西夏文字 / 女真（女直）/ 金 / 女真文字 / 陳朝 / 字喃（チュノム）/ 高麗 / 両班 / 高麗版大蔵経 / 金属活字 / 平安時代 / 遣唐使の廃止 / 平氏政権 / 日宋貿易

【中世】内陸アジア世界の変遷（36 語）
遊牧国家 / 騎馬遊牧民 / スキタイ / 草原の道 / タリム盆地 / オアシス都市 / 隊商交易 / トルキスタン / モンゴル民族 / モンゴル（蒙古）帝国 / ハン（汗）/ チンギス=ハン（成吉思汗・太祖）/ オゴタイ=ハン（太宗）/ カラコルム（和林）/ バトゥ / ワールシュタット（リーグニッツ）の戦い /

モンケ=ハン（憲宗）/ フビライ=ハン（世祖）/ 大都 / 元 / 蒙古襲来（元寇）/ フラグ / ラシード=ア（ウ）ッディーン / 『集史』 / 紅巾の乱（白蓮教徒の乱）/ マルコ=ポーロ / 『世界の記述』（『東方見聞録』）/ モンテ=コルヴィノ / パスパ文字 / 郭守敬 / 授時暦 / 元曲（雑劇）/ ミニアチュール（細密画）/ スコータイ朝 / マジャパヒ（イ）ト王国 / 鎌倉時代

【中世】イスラーム世界の形成と発展（82 語）

アラビア半島 / メッカ / クライシュ族 / カーバ神殿 / ムハンマド（マホメット）/ 預言者 / イスラーム教 / アッラー / ヒジュラ（聖遷）/ イスラーム暦（ヒジュラ暦）/ メディナ / ウンマ / ム

スリム / 『コーラン』(『クルアーン』) / カリフ / 正統カリフ / ジハード（聖戦）/ アリー / ムアーウィヤ / ウマイヤ朝 / ダマスクス / トゥール・ポワティエ間の戦い / 啓典の民 / ジズヤ / ハラージュ / シーア派 / スンナ派（スンニー派）/ イスラーム帝国 / アッバース家 / アッバース朝 / タラス河畔の戦い / バグダード / ハールーン=アッラシード / 後ウマイヤ朝 / コルドバ / ファーティマ朝 / カイロ / ブワイフ朝 / セルジューク朝 / スルタン / ニザーム=アルムルク / カラ=ハン朝 / サラディン（サラーフ=アッディーン）/ アイユーブ朝 / マムルーク / マムルーク朝 / アルハンブラ宮殿 / グラナダ / イクター制 / アイバク / デリー=スルタン朝 / マラッカ（ムラカ）王国 / アチェ王国 / クシュ王国 / アクスム王国（エチオピア王国）/ ガーナ王国 / マリ王国 / マンサ=ムーサ / ソンガイ王国 / トンブクトゥ / ジンバブエ遺跡 / キルワ / スワヒリ語 / イスラーム文明（文化）/ ウラマー / モスク / キャラヴァンサライ / ワクフ / マドラサ（学院）/ スーフィズム / スーフィー / アラビア語 / シャリーア / イブン=ハルドゥーン /
『世界史序説』/ イブン=ルシュド（アヴェロエス）/ イブン=バットゥータ / 『三大陸周遊記』(『旅行記』) / ゼロの概念 / アラビア数字 / イブン=シーナー（アヴィケンナ）/ 『千夜一夜物語』(『アラビアン=ナイト』)

【中世】ヨーロッパ世界の形成と発展（161 語）
ゲルマン人 / ケルト人 / フランク人 / アングロ=サクソン人 / 西ローマ帝国の滅亡 / イングランド / フランク王国 / メロヴィング朝 / クローヴィス / カール=マルテル / ピピン（３世）/ カロリング朝 / 教皇領 / カール大帝（シャルルマーニュ）/ カールの戴冠 / メルセン条約 / オットー１世 / 神聖ローマ帝国 / マジャール人 / カペー朝 / ノルマン人 / ヴァイキング / キエフ公国 / ノルマンディー公国 / ノルマンディー公ウィリアム / ノルマン征服（ノルマン=コンクェスト）/ ノルマン朝 / 両シチリア王国 / ローマ=カトリック教会 / 教皇（法王）/ 修道院 / ベネディクトゥス / 聖職売買 / クリュニー修道院 / 聖職叙任権 / 叙任権闘争 / 破門 / グレゴリウス７世 / ハインリヒ４世 / カノッサの屈辱 / インノケンティウス３世 / 封建社会 / 封建制度（封建的主従関係）/ 封土（知行）/ 不輸不入権 / 諸侯［ヨーロッパ］/ 騎士 / 領主 / 荘園〔ヨーロッパ〕/ 直営地（領主直営地）/ 保有地（農民保有地）/ 三圃制 / 農奴 / 賦役 / 貢納 / 十分の一税 / 領主裁判権 / ビザンツ帝国 / コンスタンティノープル / レオン（レオ）３世 / 聖像禁止令 / イコン / ギリシア正教会 / 第４回十字軍 / オスマン帝国 / ビザンツ文化 / ハギア（セント）=ソフィア聖堂 / モザイク壁画 / スラヴ人 / ヤゲウォ（ヤゲロー）朝 / チェック人 / セルビア人 / ブルガール人 / ブルガリア王国 / キリル文字 / ロシア人 / ウラディミル１世 / モスクワ大公国 / イヴァン３世 / ツァーリ / 東方植民 / ウルバヌス２世 / クレルモン宗教会議（公会議）/ 十字軍 / イェルサレム王国 / ヴェネツィア商人 / 遠隔地商業 / 東方貿易（レヴァント貿易）/ 北海・バルト海貿易 / 定期市 / ヴェネツィア / ジェノヴァ / フィレンツェ / リューベック / ハンブルク/ フランドル / ブリュージュ / シャンパーニュ地方 / アウク
/

スブルク / ハンザ同盟 / ギルド / 親方 / 職人 / 徒弟 / ユダヤ人迫害 / フィリップ４世 / アナーニ事件 / アヴィニョン / 「教皇のバビロン捕囚」 / 教会大分裂（大シスマ）/ コンスタンツ公（宗教）会議 / フスフス戦争 / 農奴解放 / 黒死病（ペスト）/ ジャックリーの乱 / ワット=タイラーの乱 / 「アダムが耕しイヴが紡いだとき，だれが貴族であったか」 / プランタジネット朝/ ジョン王 / 大憲章（マグナ=カルタ）/ イギリス議会の起源 / 上院（貴族院）/ 下院（庶民院）/ 身分制議会 / フィリップ２世 / 三部会 / ヴァロワ朝 / エドワード３世 / 百年戦争 / オルレアン / シャルル７世 / ジャンヌ=ダルク / バラ戦争 / ヘンリ７世 / テューダー朝 / 領邦 / 大空位時代 / 金印勅書（黄金文書）/ 選帝侯 / ハプスブルク家 / スイスの独立 / 国土回復運動（レコンキスタ）
/ イサベル（イザベラ）/ スペイン王国 / ポルトガル王国 / 大学 / ボローニャ大学 / 神学 / スコラ哲学（スコラ学）/ カロリング=ルネサンス / トマス=アクィナス / 『神学大全』 / ロジャー=ベーコン / 12 世紀ルネサンス / 騎士道物語 / 『ローランの歌』 / 『アーサー王物語』 / ロマネスク様式 / ゴシック様式 / ステンドグラス

【中世】諸地域世界の交流（5 語）
オアシスの道 / 絹の道（シルク=ロード）/ 海の道 / ダウ船 / 香辛料

【中世】アジア諸地域の繁栄（126 語）
明 / 朱元璋（洪武帝・太祖）/ 一世一元の制 / 南京（金陵）/ 中書省廃止 / 衛所制 / 里甲制 / 六諭 / 永楽帝（成祖）/ 北平（北京）/ 鄭和 / 南海諸国遠征 / 海禁 / 朝貢貿易 / 北虜南倭 / 土木の変 / 倭寇 / 李自成 / ヌルハチ（太祖）/ 後金（金）/ 八旗 / 太宗（ホンタイジ）/ 「湖広熟すれば天下足る」 / 一条鞭法 / 新安（徽州）商人 / 山西商人 / 会館・公所 / 郷紳［中国］/ 王陽明（王守仁）/ 陽明学 / 『永楽大典』 / 『水滸伝』 / 『三国志演義』 / 『西遊記』 / 清 / 康熙帝（聖祖）/ 三藩の乱 / 鄭成功 / 鄭氏台湾 / ネルチンスク条約 / 雍正帝（世宗）/ 乾隆帝（高宗）/ 新疆 / 満漢併用制 / 軍機処 / 藩部 / 理藩院 / 辮（弁）髪（辮髪令）/ 文字の獄 / 地銀（地税）
/ 丁銀（丁税）/ 地丁銀 / 華僑（南洋華僑）/ 『康熙字典』 / 『四庫全書』 / 考証学 / 黄宗羲 / 『紅楼夢』 / 紫禁城 / フランシスコ=ザビエル（シャヴィエル）/ マテオ=リッチ（利瑪竇）/ 『坤輿万国全図』 / カスティリオーネ（郎世寧）/ 円明園 / 典礼問題 / トゥングー朝 / コンバウン（アラウンパヤー）朝 / 黎朝 / マタラム王国 / ジャンク船 / 朝鮮王朝（李氏朝鮮・李朝）/ 李成桂（太祖）/ 漢陽（漢城・ソウル）/ 世宗 / 訓民正音（ハングル）/ 壬辰・丁酉の倭乱 / 李舜臣 / ダライ=ラマ / 琉球 / 中山王 / 室町幕府 / 足利義満 / 勘合貿易 / 鉄砲［日本］/ 豊臣秀吉 / 文禄・慶長の役 / 朱印船 / 日本町 / 徳川家康 / 江戸（徳川）幕府 / 島津氏（薩摩藩）/ 鎖国 / 長崎 / 対馬の宗氏 / 朝鮮通信使 / アイヌ / 松前藩 / ティムール / ティムール朝（帝国）/ サマルカンド / アンカラの戦い / オスマン

/

帝国 / メフメト２世 / ビザンツ帝国の滅亡 / イスタンブル / スレイマン１世 / ウィーン包囲〔第１次〕 / カピチュレーション / レパントの海戦 / イェニチェリ / カルロヴィッツ条約 / サファヴィー朝 / シャー / アッバース１世 / イスファハーン / ムガル帝国 / バーブル / アクバル / アグラ / ジズヤの廃止 / アウラングゼーブ / ジズヤの復活 / シク教 / シク王国 / ヒンディー語 / タージ=マハル

【近代】近代ヨーロッパの成立（120 語）
喜望峰ヴァスコ=ダ=ガマ / カリカット/ ゴア / モルッカ（マルク・香料）諸島 / マカオ / 地球球体説 / コロンブス / 西インド諸島 / インディアス / カブラル / ブラジル/ アメリゴ= ヴェスプッチ / 新大陸 / パナマ地峡 / マゼラン（マガリャンイス）/ 太平洋 / フィリピン / インディオ（インディアン）/ コルテス / ピサロ / ポトシ銀山 / 黒人奴隷 / エンコミエンダ制 / ラス=カサス / プランテーション / 大航海時代 / 商業革命 / リスボン / 価格革命 / ルネサンス / メディチ家 / 人文主義（ヒューマニズム）/ ダンテ / 『神曲』 / ペトラルカ / マキァヴェリ / 『君主論』 / サン（聖）=ピエトロ大聖堂 / ボッティチェリ / レオナルド=ダ=ヴィンチ / ミケランジェロ / ラファエロ / エラスムス / 『愚神礼賛』 / ファン=アイク兄弟 / ブリューゲル / デューラー / モンテーニュ / 『随想録』 / セルバンテス / 『ドン=キホーテ』 / トマス=モア / 『ユートピア』 / シェークスピア / 活版印刷 / グーテンベルク / コペルニクス / 地動説 / ガリレイ（ガリレオ=ガリレイ）/ 宗教改革 / 贖宥状（免罪符）/ マルティン=ルター / 九十五カ条の論題 / カール５世 / ドイツ農民戦争 / プロテスタント / アウクスブルクの宗教和議 / カルヴァン / ジュネーヴ / 予定説 / ピューリタン（清教徒）/ ユグノー / ヘンリ８世 / 首長法（国王至上法）/ イギリス国教会 / エリザベス１世 / 統一法 / 対抗（反）宗教改革 /イエズス会（ジェズイット教団）/ イグナティウス=ロヨラ / トリエント（トレント）公会議 / 宗教裁判 / 主権国家 / 絶対王政（絶対主義）/ 王権神授説 / 官僚 / 常備軍 / 問屋制度 / マニュファクチュア（工場制手工業）/ 重商主義 / フェリペ２世 / ポルトガル併合 / 「太陽の沈まぬ国」 / ネーデルラント / オランダ独立戦争 / ホラント州 / ネーデルラント連邦共和国（オランダ）/ オラニエ公ウィレム（オレンジ公ウィリアム）/ 東インド会社〔オランダ〕 / アムステルダム / ジェントリ（郷紳）/ 囲い込み（エンクロージャー）〔第１次〕 / 東インド会社〔イギリス〕 / 無敵艦隊（アルマダ）/ ユグノー戦争 / サンバルテルミの虐殺 / アンリ４世 / ブルボン朝 / ナントの王令（勅令）/ 三部会招集停止 / リシュリュー / ルイ 14 世 / マザラン / フロンドの乱 / 三十年戦争 / ウェストファリア条約 / イヴァン４世 / シベリア / ロマノフ朝

【近代】ヨーロッパ主権国家体制の展開（112 語）
ピューリタン革命 / ステュアート朝 / ジェームズ１世（６世）/ チャールズ１世 / 権利の請願 / 王党派（国王派）/ 議会派 / クロムウェル / 共和政（コモンウェルス）/ アイルランド征服 / 航海法 / イギリス=オランダ（英蘭）戦争 / 王政復古 / 審査法 / 人身保護法 / トーリ（党）/ ホイッグ（党）
/

（ウィッグ〈党〉）/ ジェームズ２世 / 名誉革命 / 権利の宣言 / 権利の章典 / 立憲政治 / 大（グレート=）ブリテン王国 / 責任内閣制 / ウォルポール / 「王は君臨すれども統治せず」 / ルイ 14 世 / 「太陽王」 / コルベール / ヴェルサイユ宮殿 / スペイン継承戦争 / プロイセン（プロシア）/ フリードリヒ２世（大王）/ オーストリア / マリア=テレジア / オーストリア継承戦争 / シュレジエン（シレジア）/ 外交革命 / 七年戦争 / 啓蒙専制（絶対）君主 / 「君主は国家第一の僕（下僕）」 / ユンカー / グーツヘルシャフト / ヨーゼフ２世 / 農奴解放令［オーストリア］/ ピョートル１世（大帝）/ ペテルブルク（サンクト=ペテルブルク）/ バルト海 / 北方戦争 / ラクスマン / エカチェリーナ２世 / クリミア半島 / 選挙王制 / ポーランド分割 / コシューシコ / 平戸 / バタヴィア / アンボイナ事件 / 台湾 / カルカッタ / ケープ植民地 / ルイジアナフレンチ=インディアン戦争 / カナダ / ミシシッピ川以東のルイジアナ / 三角貿易

/

〔大西洋〕 / 科学革命 / ニュートン / 万有引力の法則 / ジェンナー / 種痘法 / 経験論 / 帰納法 / フランシス=ベーコン / 合理論 / 演繹法 / デカルト / 「われ思う，ゆえにわれあり」 / パスカル / カント / 自然法 / グロティウス / 『戦争と平和の法』 / 社会契約説 / ホッブズ / 『リヴァイアサン』 / ロック / 『統治二論』(『市民政府二論』) / 啓蒙思想（啓蒙主義）/ モンテスキュー / 『法の精神』 / 三権分立 / ヴォルテール / ルソー / 『社会契約論』 / 『百科全書』 / アダム=スミス / 『諸国民の富』(『国富論』) / 古典派（古典学派）経済学 / バロック美術 / ルーベンス / レンブラント / ベラスケス / ロココ美術 / サンスーシ宮殿 / バッハ / モーツァルト / ベートーヴェン / スウィフト / 『ガリヴァー旅行記』 / モリエール / コーヒーハウス

【近代】欧米における近代国家の成長（80 語）
産業革命 / 農業革命 / 囲い込み（エンクロージャー）〔第２次〕 / 蒸気機関 / ワット / 機械工業 / スティーヴンソン / 蒸気機関車 / 産業資本家 / 資本主義体制 / 労働者階級（プロレタリアート）/ 労働問題 / 女性・子どもの労働 / 労働組合 / 「世界の工場」 / パックス=ブリタニカ / マンチェスター / リヴァプール / アメリカ独立革命 / 13 植民地 / 植民地議会 / 印紙法 / 「代表なくして課税なし」 / 茶法 / ボストン茶会事件 / 大陸会議 / ワシントン / トマス=ペイン / 『コモン=センス』(『常識』) / 独立宣言〔アメリカ〕 / ジェファソン / パリ条約［1783］/ アメリカ合衆国 / アメリカ合衆国憲法 / アメリカ大統領 / 大西洋革命（環大西洋革命）/ フランス革命 / アンシャン=レジーム（旧制度）/ 第一身分 / 第二身分 / 第三身分 / ルイ 16 世 / マリ=アントワネット / 球戯場（テニスコート）の誓い / バスティーユ牢獄襲撃 / 封建的特権の廃止 / 人権宣言（人間および市民の権利の宣言）/ ラ=ファイエット / ヴァレンヌ逃亡事件 / ジロンド派 / ジャコバン派 / サンキュロット / 第一共和政 / 第１回対仏大同盟 / 徴兵制の実施 / 公安委員会 / 恐怖政治 / ロベスピエール / 革命暦（共和暦）/ メートル法 / 断頭台（ギロチン）/ テルミドール（９日）のクーデタ / 総裁政府 / ナポレオン=ボナパルト / 統領（執政）政府 / ナポレオン法典（フランス民法典）/ ナポレオン１世 / 第一帝政 / トラファルガーの海戦 / ネルソン / 大陸封鎖令（ベルリン勅令）/ プロイセン改革 / シュタイン / フィヒテ / 「ドイツ国民に告ぐ」 / ナショナリズム / 国民国家/ ロシア（モスクワ）遠征 / エルバ島 / セントヘレナ

【近代】欧米における近代国民国家の発展（179 語）
ウィーン体制 / ウィーン会議 / メッテルニヒ / 正統主義 / 勢力均衡 / セイロン島（スリランカ）/ 四国同盟 / 自由主義運動 / ラテンアメリカ諸国の独立 / クリオーリョ / メスティーソ / ハイチ独立 / トゥサン=ルヴェルチュール / シモン=ボリバル / ブラジル独立 / コロンビア独立 / モノカルチャー / モンロー宣言（教書）/ ギリシア独立戦争 / アルジェリア出兵 / 七月革命 / オルレアン家 / ルイ=フィリップ / ベルギー独立 / カトリック教徒解放法 / 第１回選挙法改正 / 奴隷制廃止〔イギリス〕 / 穀物法廃止 / 航海法廃止 / 自由貿易主義 / チャーティスト運動 / 二月革命 / 第二共和政

/ 国立作業場 / 六月暴動（六月蜂起）/ ルイ=ナポレオン / 1848 年革命 / 三月革命 / ハンガリー（マジャール人）民族運動 / ベーメン（ボヘミア・チェック人）民族運動 / フランクフルト国民議会 / 社会主義（思想）/ ロバート=オーウェン / 工場法 / マルクス / エンゲルス / 『共産党宣言』 / 「青年イタリア」 / サルデーニャ（サルディニア）王国 / ヴィットーリオ=エマヌエーレ２世 / カヴール / イタリア統一戦争 / ガリバルディ / シチリア（両シチリア・ナポリ）王国 / イタリア王国 / 教皇領占領 /「未回収のイタリア」 /（ドイツ）関税同盟 / ヴィルヘルム１世 / ビスマルク / 鉄血政策 / プロイセン=オーストリア（普墺）戦争 / オーストリア=ハンガリー（二重）帝国 / プロイセン=フランス（普仏）戦争 / ドイツ帝国 / ドイツ皇帝 / アルザス・ロレーヌ / 連邦参議院 / 帝国議会 / 社会主義者鎮圧法 / ビスマルクの社会政策 / 三国同盟 / 再保障条約 / 第二帝政 / ナポレオン３世 / クリミア戦争 / メキシコ出兵 / パリ= コミューン / 第三共和政 / 保守党 / 自由党 / ヴィクトリア女王 / ロンドン万国博覧会 / ディズレーリ / グラッドストン / アイルランド問題 / 自治領 / スエズ運河の支配 / インド帝国の成立 / アレクサンドル２世 / 農奴解放令［ロシア］/ ミール / ナロードニキ（人民主義者）/「東方問題」 / エジプト=トルコ戦争（エジプト事件）/ ダーダネルス・ボスフォラス両海峡 / 南下政策 / パン=スラヴ主義 / ロシア=トルコ（露土）戦争 / ベルリン条約 / ボスニア・ヘルツェゴヴィナ / ルイジアナ買収 / アメリカ=イギリス（米英）戦争 / ジャクソン / アメリカ=メキシコ戦争 / カリフォルニア / ゴールドラッシュ / 西部開拓（西漸運動）/ フロンティア（辺境）/ インディアン / インディアン強制移住法 / 南部/ 民主党 / 保護関税政策〔アメリカ〕/ ストウ夫人（ハリエット=ストウ）/『アンクル=トムの小屋』/ 共和党 / リンカン / アメリカ連合国（連邦）/ 自由貿易［アメリカ］/ 南北戦争 / ホームステッド（自営農地）法 / 奴隷解放宣言 / ゲティスバーグ /「人民の，人民による，人民のための政治」/ K・K・K（クー=クラックス=クラン）/ 大陸横断鉄道 / 移民〔アメリカ〕/ 第１インターナショナル（国際労働者協会）/ 第２インターナショナル / ゲーテ / ロマン主義 / ユーゴー /『レ=ミゼラブル』/ 写実主義（リアリズム）/ スタンダール /『赤と黒』/ ドストエフスキー /『罪と罰』/ トルストイ /『戦争と平和』/ 自然主義 / ゾラ / イプセン /『人形の家』/ ドラクロワ / 自然主義絵画 / ミレー / 印象派 / ルノワール / セザンヌ / ゴッホ / ロダン / シューベルト / ショパン / ヘーゲル / 弁証法哲学 / 実存哲学 / ニーチェ / マルサス / リスト / 歴史学派経済学 /『資本論』/ ランケ / 近代歴史学 / レントゲン / X 放射線の発見 / キュリー夫妻 / ラジウムの発見 / ダーウィン / 進化論 /『種の起源』/ ノーベル / モールス / 電信機 / ベル / 電話機 / エディソン / 万国平和会議

【近代】アジア諸地域の動揺（89 語）

ワッハーブ派（ワッハーブ運動）/ サウード家 / ムハンマド（メフメト）=アリー / スエズ運河 / レセップス / ウラービー（=パシャ）の反乱 / タンジマート（恩恵改革）/ ミドハト=パシャ / ミドハト憲法 / ロシア=トルコ（露土）戦争/ カージャール朝 / タバコ=ボイコット運動 / アフガン戦争

/ ベンガル / ザミンダーリー制 / シパーヒー（セポイ）の反乱 / 東インド会社解散〔イギリス〕 / インド帝国 / 藩王国 / 強制栽培制度 / コンバウン（アラウンパヤー）朝 / ビルマ（ミャンマー）戦争 / シンガポール / 海峡植民地 / マレー連合州（マライ連邦）/ 阮福暎（映）（嘉隆帝）/ 越南国（ベトナム）/ 阮朝 / 宗主権 / 清仏戦争 / フランス領インドシナ連邦 / ラーマ５世（チュラロンコン）/ 公行 / アヘン / 三角貿易〔アジア〕 / アヘン戦争 / 林則徐 / 南京条約 / 香港割譲 / 不平等条約 / 最恵国待遇 / 領事裁判権 / 関税自主権の喪失/ 租界 / アロー戦争 / 北京条約 / キリスト教布教の自由 / 外国公使の北京駐在 / 総理各国事務衙門（総理衙門）/ 黒竜江（アムール川）/ 北京条約〔露・清〕 / 沿海州（ウスリー川以東）/ ウラジヴォストーク / 日露和親条約 / エトロフ島（択捉島）/ 樺太・千島交換条約 / 太平天国の乱 / 上帝会（拝上帝会）/ 洪秀全 / 「滅満興漢」 / 郷勇 / 曾国藩 / 李鴻章 / 洋務運動 / 「中体西用」 / ペリー / 日米和親条約 / 日米修好通商条約 / 明治維新 / 日清修好条規 / 沖縄県 / 台湾出兵 / 大日本帝国憲法 / 国会の開設 / 江華島事件 / 日朝修好条規（江華島条約）/ 大院君 / 壬午軍乱 / 閔氏 / 開化派（独立党）/ 金玉均（キムオクキュン）/ 甲申政変 / 東学 / 甲午農民戦争（東学党の乱）/ 日清戦争 / 下関条約 / 朝鮮の独立 / 遼東半島 / 三国干渉

【近代】帝国主義とアジアの民族運動（144 語）

帝国主義 / 第２次産業革命 / 独占資本 / 金融資本 / 1870 年代以降の世界的な不況（大不況）/ 福祉国家 / ジョゼフ=チェンバレン / 労働党 / アイルランド自治法 / シン=フェイン党 / ドレフュス事件 / 反ユダヤ主義 / ヴィルヘルム２世 / 「世界政策」 / ドイツ社会民主党 / ベルンシュタイン / ボリシェヴィキ / レーニン / メンシェヴィキ / 社会革命党 / ニコライ２世 / 血の日曜日事件 / 第１次ロシア革命 / ソヴィエト（評議会）/ シベリア鉄道 /フロンティアの消滅 / マッキンリー / アメリカ=スペイン（米西）戦争 / ジョン=ヘイ / 門戸開放宣言 / セオドア= ロ（ル）ーズヴェルト / リヴィングストン / スタンリー / ベルリン会議［1884-85］/ コンゴ / スーダン / マフディーの反乱 / ３Ｃ政策 / ケープタウン / セシル=ローズ / ブール（ボーア）人 / トランスヴァール共和国 / オレンジ自由国 / 南アフリカ（南ア・ブール）戦争 / 南アフリカ連邦 / アパルトヘイト / サモリ帝国 / サハラ砂漠 / アフリカ横断政策 / アフリカ縦断政策 / ファショダ事件 / 英仏協商 / モロッコ / モロッコ事件 / エチオピア帝国 / リベリア共和国 / アボリジニー / 白豪主義 / オーストラリア連邦 / ニュージーランド / マオリ人 / グアム島 / ハワイ / リリウオカラニ / カリブ海政策 / キューバの保護国化 / プエルトリコ / パナマ運河 / メキシコ革命 / マデロ / サパタ / 三国同盟 / 再保障（二重保障）条約 / 露仏同盟 / パン=ゲルマン主義 / ３Ｂ政策 / バグダード鉄道 / ３Ｃ政策 / 「光栄ある孤立」 / 日英同盟 / 英仏協商 / 英露協商 / 三国協商 / 「ヨーロッパの火薬庫」 / 青年トルコ革命 / 第１次バルカン戦争 / 勢力範囲（勢力圏）/ 借款 / 鉄道敷設権 / 東清鉄道 / 遼東半島南部（旅順・大連）/ 福建省 / 変法運動（変法自強）/ 康有為 / 梁啓超 / 光緒帝 / 戊戌の政変 / 西太后 / 「扶清滅洋」 /

義和団事件 / 北京議定書（辛丑和約）/ 北京駐兵権 / 日露戦争 / ポーツマス条約 / 韓国の保護権 / 遼東半島南部（関東州）/ 南満州鉄道 / 南樺太 / 大韓帝国 / 日韓協約 / 反日義兵闘争 / ハーグ密使事件 / 伊藤博文 / 安重根 / 韓国併合に関する条約（日韓併合条約）/ 朝鮮総督府 / 憲法大綱 / 孫文 / 中国同盟会 / 三民主義 / 民族資本 / 辛亥革命 / 中華民国建国 / 臨時大総統 / 袁世凱 / 宣統帝（溥儀）/ 軍閥 / サティー（寡婦殉死）/ 国民会議派 / ティラク / ベンガル分割令（カーゾン法）/ 全インド=ムスリム連盟 / ホセ=リサール / アギナルド / フィリピン革命 / フィリピン=アメリカ戦争 / ファン=ボイ=チャウ / ドンズー（東遊）運動 / サレカット=イスラーム（イスラーム同盟）/ パン=イスラーム主義 / アフガーニー / 「青年トルコ」 / 青年トルコ革命 / イラン立憲革命【近代】二つの世界大戦（235 語）

租借 / 第一次世界大戦 / サライェヴォ事件 / 二十一カ条要求 / 東部戦線 / 西部戦線 / 秘密外交（秘密条約）/ フセイン（フサイン）・マクマホン協定（書簡）/ サイクス・ピコ協定 / バルフォア宣言 / 総力戦 / 戦車 / 毒ガス /潜水艦 / 飛行機 / 機関銃 / 無制限潜水艦作戦 / ドイツ共和国の成立 / ドイツ革命 / 十四カ条（十四カ条の平和原則）/ 民族自決 / ロシア革命 / ペトログラード / 三月革命（ロシア暦二月革命）/ 十一月革命（ロシア暦十月革命）/ 「平和に関する布告」 / 「土地に関する布告」 / ボリシェヴィキ独裁（プロレタリア独裁）/ 無併合・無償金・民族自決 / ブレスト=リトフスク条約 / トロツキー / ロシア共産党 / 赤軍（赤衛軍）/ 対ソ干渉戦争 / シベリア出兵 / 戦時共産主義 / コミンテルン（第３インターナショナル）/ ネップ（新経済政策，NEP）/ ソヴィエト社会主義共和国連邦（ソ連邦，ソ連，U.S.S.R.）/ ウクライナ / ベラルーシ（白ロシア）/ ザカフカース / ヴェルサイユ体制 / パリ講和会議 / ウィルソン / ヴェルサイユ条約 / ラインラント非武装 / 賠償 / ハンガリー / チェコスロヴァキア / バルト３国 / ポーランド / ユーゴスラヴィア / 委任統治 / イラク / 国際連盟 / ワシントン会議 / ワシントン体制 / ワシントン海軍軍備制限条約 / 九カ国条約 / 四カ国条約 / ロカルノ条約 / 不戦条約（ケロッグ・ブリアン条約）/ ケロッグ / ブリアン / ロンドン軍縮会議 / 女性参政権〔イギリス〕/ アイルランド自由国 / イギリス連邦 / ウエストミンスター憲章 / マクドナルド / 労働党内閣 / ルール占領（出兵）/ スパルタクス団 / ローザ=ルクセンブルク / ドイツ共産党 / ヴァイマル（ワイマール）憲法 / ヴァイマル（ワイマール）共和国 / シュトレーゼマン / ドーズ案 / ファシズム / ムッソリーニ / ファシスト（タ）党 / ローマ進軍 / ヴァチカン市国 / スターリン / 第１次五カ年計画 / スターリン憲法 / 粛清 / 債権国アメリカ / 孤立主義 / ワスプ（WASP）/ 移民法 / 大衆消費社会 / 文学革命 / 北京大学 / 陳独秀 / 『新青年』 / 胡適 / 白話（白話文学）運動 / 魯迅 / 『狂人日記』 / 『阿Q正伝』 / モンゴル人民共和国 / 三・一運動（万歳事件）/ 大正デモクラシー / 関東大震災 / （男性）普通選挙法〔日本〕 / 治安維持法 / 張作霖爆殺事件 / 山東出兵 / 五・四運動 / 中国国民党 / 中国共産党 / 「連ソ・容共・扶助工農」 / 国共合作〔第１次〕 / 国民革命 / 五・三〇運動 / 蒋介石 / 北伐 / 浙

江財閥 / 張学良 / ローラット法 / ガンディー / 非暴力・不服従 / プールナ=スワラージ / 塩の行進 / ネルー（ネール）/ 新インド統治法（改正インド統治法）/ アウン=サン / インドネシア国民党 / スカルノ / インドシナ共産党 / ホー=チ=ミン / トルコ革命 / ムスタファ=ケマル（ケマル=パシャ）/ アタテュルク / スルタン制廃止 / トルコ共和国 / アンカラ / 文字改革（ローマ字採用）/ ワフド党 / スエズ運河地帯駐屯権 / パレスチナ問題 / シオニズム / イブン=サウード（アブド=アルアジーズ）/ サウジアラビア王国 / レザー=ハーン（レザー=シャー）/ パフレヴィー朝 / 世界恐慌 / ニューヨーク株式市場 / ウォール街 / フランクリン=ロ（ル）ーズヴェルト / ニューディール / 善隣外交 / マクドナルド挙国一致内閣 / 金本位制停止 / オタワ連邦会議（イギリス連邦経済会議）/ ブロック経済 / 満州事変 / 柳条湖事件 / リットン調査団 / 満州国 / 溥儀 / 毛沢東 / 長征（大西遷）/ 八・一宣言 / 延安 / 西安事件 / 国共合作〔第２次〕 / 抗日民族統一戦線 / 二・二六事件 / 盧溝橋事件 / 日中戦争 / 日独（日独伊）防共協定 / 南京虐殺事件 / 重慶政府 / 汪兆銘（汪精衛）/ ヒトラー/ 国民（国家）社会主義ドイツ労働者党 / ナチス（ナチ党）/ 突撃隊（SA）/ 親衛隊（SS）/ 中間層（中産階級）/ 国会議事堂放火事件 / 全権委任法 /総統（フューラー）/ 再軍備宣言〔ドイツ〕 / ロカルノ条約破棄 / ラインラント進駐 / ホロコースト / ベルリン=ローマ枢軸 / 人民戦線 / スペイン内戦 / フランコ / 国際義勇軍 / オーストリア併合 / ズデーテン地方 / ミュンヘン会談 / 宥和政策 / チェコスロヴァキア解体 / 第二次世界大戦 / 独ソ不可侵条約 / チャーチル / ヴィシー政府 / ド=ゴール / 日ソ中立条約（日ソ不可侵条約）/ 独ソ戦争 / 大西洋憲章 / ゲットー / 強制収容所 / アウシュヴィッツ / 太平洋戦争 / 日独伊三国（軍事）同盟 / フランス領インドシナ進駐 / 真珠湾奇襲 / 連合国 / 「大東亜共栄圏」 / 枢軸国 / 創氏改名 / レジスタンス / ミッドウェー海戦 / スターリングラードの戦い / ノルマンディー上陸 / パリ解放 / サイパン島陥落 / ヤルタ会談 / ヤルタ協定 / アメリカ軍，沖縄本島上陸 / ベルリン陥落 / ポツダム会談 / ポツダム宣言 / トルーマン / 広島に原爆投下〔アメリカ〕 / 長崎に原爆投下〔アメリカ〕

【現代】冷戦と第三世界の自立（131 語）

サンフランシスコ会議 / 国際連合憲章 / 国際連合（国連）/ 総会［国際連合］/ 安全保障理事会 / 常任理事国 / 拒否権 / 国際司法裁判所 / 国際通貨基金（IMF）/ ガット（GATT，関税および貿易に関する一般協定）/ ニュルンベルク裁判 / ドイツ４カ国分割占領（分割管理）/ 東京裁判（極東国際軍事裁判）/ マッカーサー / 日本国憲法 / アトリー内閣 / 社会福祉制度の充実 / 第四共和政 / ティトー/ 「冷たい戦争」（冷戦）/ 「鉄のカーテン」 / 封じ込め政策 / トルーマン=ドクトリン（トルーマン宣言）/ マーシャル=プラン（ヨーロッパ経済復興援助計画）/ コミンフォルム（共産党情報局）/ コメコン（東欧経済相互援助会議，COMECON）/ 西側管理地区通貨改革 / ベルリン封鎖 / ドイツ連邦共和国 / キリスト教民主同盟 / アデナウアー / 北大西洋条約機構（NATO）/ ドイツ民主共和国 / ワルシャワ条約機構（東欧８カ国友好相互援助条約）/ 中華人民共和国 / 周恩来 / 「大躍進」 / 人

民公社 / 北緯 38 度線 / 朝鮮民主主義人民共和国 / 金日成/ 大韓民国 / 李承晩 / ベトナム独立同盟（ベトミン）/ ベトナム民主共和国 / インドシナ戦争 / ジュネーヴ休戦協定 / 北緯 17 度線 / パキスタン共和国独立 / カシミール帰属問題 / パレスチナ分割案 / イスラエル / パレスチナ戦争（第１次中東戦争）/ 朝鮮戦争 / 国連軍出動 / 朝鮮休戦協定 / 警察予備隊 / 自衛隊 / 特需 / サンフランシスコ平和（講和）条約 / 日米安全保障条約 / 日ソ共同宣言 / スターリン批判 / 平和共存政策 / フルシチョフ / 「雪どけ」 / ハンガリー反ソ暴動（ハンガリー事件）/ アイゼンハウアー / ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体（ECSC）/ ヨーロッパ経済共同体（EEC）/ ヨーロッパ原子力共同体（EURATOM）/ ヨーロッパ共同体（EC）
/ 第五共和政 / 日米安全保障条約改定 / 高度経済成長 / 第三勢力 / 平和五原則 / アジア=アフリカ会議（バンドン会議）/ 平和十原則 / 非同盟諸国首脳会議 / エジプト革命 / ナセル / アスワン=ハイダム / スエズ運河国有化 / スエズ戦争（第２次中東戦争）/ アルジェリア戦争 / ガーナ独立 / エンクルマ / 「アフリカの年」 / コンゴ動乱 / アフリカ統一機構（OAU）/ キューバ
革命 / カストロ / キューバ危機 / 劉少奇 / チベット反乱 / 中印国境紛争 / 中ソ論争（中ソ対立）
/ プロレタリア文化大革命（文化大革命）/ 紅衛兵 / 鄧小平 / 南ベトナム解放民族戦線 / ベトナム戦争 / ベトナム（パリ）和平協定 / ベトナム社会主義共和国 / ポル=ポト政権 / 開発独裁 / 朴正熙/ 日韓基本条約 / マルコス / スハルト / 東南アジア諸国連合（ASEAN）/ イラン石油国有化 / モサデグ / ケネディ / 部分的核実験停止条約 / ジョンソン / 黒人解放運動（公民権運動）
/ 公民権法 / キング牧師 / ニクソン / ドル=ショック（ドル危機）/ ブレジネフ / ベルリンの壁
/ 「プラハの春」 / チェコ事件 / ブレジネフ=ドクトリン / 第４次中東戦争 / 石油輸出国機構（OPEC）/ 石油危機（オイル=ショック）〔第１次〕 / 資源ナショナリズム

【現代】現代の世界（94 語）
ビキニ原水爆実験 / 第五福竜丸事件 / 原水爆禁止運動 / 核拡散防止条約（核不拡散条約，NPT）/ 中距離核戦力（INF）全廃条約 / 包括的核実験禁止条約（CTBT）/ ブラント / 東方外交 / 沖縄復帰 / 北方領土問題 / 日中平和友好条約 / マーストリヒト条約 / ヨーロッパ連合（EU）/ ユーロ / サッチャー / ミッテラン / コール / ドイツ統一 / レーガン / 「双子の赤字」 / ブッシュ（父）/ マルタ会談/ 湾岸戦争 / ブッシュ（子）/ 同時多発テロ（九・一一事件）/ 米軍，アフガニスタン攻撃 / 米軍，イラク攻撃（イラク戦争）/ ソ連，アフガニスタンに軍事介入 / ゴルバチョフ / ペレストロイカ（改革）/ チェルノブイリ原子力発電所事故 / ロシア連邦 / チェチェン紛争 / プーチン / ポーランド自主管理労組「連帯」 / ワレサ / ベルリンの壁開放 / ドイツ統一 / 東欧革命（東欧社会主義圏の消滅）/ 「四つの現代化」 / 天安門事件〔第２次〕 / 香港返還 / 一国二制度 / ドイモイ（刷新）/ 中越（中国=ベトナム）戦争 / 金正日 / 北朝鮮の核開発 / 日朝首脳会談 / 南北問題 / 南南問

題 / 新興工業経済地域（NIES）/ アジア太平洋経済協力会議（APEC）/ 第３次中東戦争（６日間戦争）/ シナイ半島 / ゴラン高原 / ヨルダン川西岸 / ガザ地区 / サダト / 第４次中東戦争 / エジプト=イスラエル平和条約 / パレスチナ解放機構（PLO）/ アラファト / パレスチナ暫定自治協定（オスロ合意）/ イラン革命 / ホメイニ / イラン=イスラーム共和国 / サダム=フセイン（フセイン大統領）/ イラン=イラク戦争 / イラク，クウェート侵攻 / 多国籍軍 / イスラーム復興運動 / ターリバーン（政権）/ アル=カーイダ / 金大中 / アジア通貨危機 / アジェンデ / チリ軍部クーデタ / 南アフリカ共和国 / マンデラ / 地域紛争 / 民族紛争（民族問題）/ ユーゴスラヴィア内戦 / コソヴォ問題 / ソマリア内戦 / ルワンダ内戦 / 国連平和維持活動（PKO）/ 世界貿易機関（WTO）/ グローバル化 / IT 革命 / 非政府組織（NGO）/ アインシュタイン / 相対性理論 / 生命工学（遺伝子工学，バイオテクノロジー）
/ 人工衛星

資料２日本史重要用語案（1974 語）

【第一章日本文化の黎明】（95 語）
更新世 / 完新世 / ナウマン象 / マンモス / 大角鹿 / 新人 / 港川人骨 / 旧石器時代 / 岩宿遺跡 / 相沢忠洋 / 打製石器 / ナイフ形石器 / 尖頭器 / 細石器 / 磨製石器 / 石棒 / 丸木舟 / 黒曜石 / 和田峠 / 縄文土器 / 三内丸山遺跡 / 竪穴住居 / 貝塚（考古）/ 土偶 / 抜歯 / 屈葬 / 弥生文化 / 弥生時代 / 続縄文文化 / 貝塚文化 / 弥生土器 / 青銅器 / 銅剣/ 銅矛（鉾）/ 銅戈 / 銅鐸 / 銅鏡 / 鉄器 / 木製農具 / 石包（庖）丁 / 高床倉庫 / 環濠集落 / 吉野ケ里遺跡 / 甕棺墓 / 漢 / 後漢 / 楽浪郡 / 『漢書』地理志 / 小国 / 『後漢書』東夷伝 / 奴国 / 印綬 / 漢委奴国王印 / 光武帝 / 金印（後漢）/ 魏・呉・蜀 / 三国時代 / 『魏志』倭人伝 / 帯方郡 / 邪馬台国 / 卑弥呼 / 冊封 / 親魏倭王 / ヤマト政権 / 大王 / 高句麗 / 新羅 / 百済 / 加（伽）耶 / 宋 / 広開土王碑 / 『宋書』倭国伝 / 倭の五王 / 讃・珍（彌）・済・興・武 / 雄略天皇 / 獲加多支鹵大王 / 江田船山古墳出土鉄刀 / 稲荷山古墳出土鉄剣 / 氏 / 姓 / 豪族 / 国造 / 古墳時代 / 古墳 / 前方後円墳 / 大仙陵古墳 / 埴輪 / 群集墳 / 須恵器 / 土師器 / 渡来人 / 儒教の伝来 / 蝦夷 / 太占 / 盟神探湯

【第二章律令国家の成立】（225 語）
磐井の乱 / 筑紫国造磐井 / 蘇我氏 / 蘇我馬子 / 推古天皇 / 聖徳太子 / 厩戸皇子（王）/ 冠位十二階の制/ 憲法十七条 / 隋 / 煬帝 / 遣隋使 / 小野妹子 / 裴世清 / 高向玄理 / 旻 / 飛鳥文化 / 飛鳥 / 飛鳥寺 / 法隆寺 / 鞍作鳥（止利仏師）/ 『法隆寺金堂釈迦三尊像』 / 『広隆寺半跏思惟像』 / 『玉虫厨子』 / 唐 / 蘇我蝦夷 / 蘇我入鹿 / 大化改新 / 孝徳天皇 / 中臣（藤原）鎌足 / 難波〔長柄豊碕〕宮 / 改新の詔 / 公地公民 / 白村江の戦い / 水城 / 天智

天皇 / 中大兄皇子 / 近江大津宮 / 近江令 / 庚午年籍 / 大友皇子 / 壬申の乱 / 天武天皇 / 大海人皇子 / 飛鳥浄御原宮 / 八色の姓 / 飛鳥浄御原令 / 天皇 / 皇后 / 皇太子（東宮）/ 日本
〔国号〕/ 持統天皇 / 庚寅年籍 / 藤原京 / 白鳳文化 / 『興福寺仏頭』 / 『高松塚古墳壁画』 / 大宝律令 / 養老律令 / 律 / 令 / 律令制度（体制）/ 太政官（律令）/ 太政大臣（律令）/ 左大臣・右大臣 / 大納言（律令）/ 貴族 / 八省 / 大宰府 / 畿内 / 七道 / 国・郡・里 / 国司 / 国府 / 郡司（律令）/ 里長 / 位階 / 官位相当の制 /蔭位の制 / 戸籍 / 計帳 / 戸 / 班田収授法 / 段（反）/ 口分田 / 租（税）/ 束 / 把 / 調 / 庸 / 歳役 / 雑徭 / 公出挙 / 軍団 / 衛士 / 防人 / 奈良時代 / 元明天皇 / 平城京 / 内裏 / 条坊制 / 東市・西市 / 長安 / 木簡 / 和同開珎 / 富本銭 / 出羽国 / 多賀城 / 陸奥国 / 鎮守府 / 大隅国 / 隼人 / 遣唐使 / 渤海
/ 藤原氏 / 藤原不比等 / 長屋王 / 聖武天皇（太上天皇）/ 藤原四子 / 北家 / 光明子（光明皇后・光明皇太后）/ 橘諸兄 / 玄昉 / 吉備真備 / 藤原広嗣 / 恭仁京 / 紫香楽（信楽）宮（京）/ 国分寺建立の詔 / 国分寺 / 国分尼寺 / 大仏造立の詔 / 東大寺 / 孝謙天皇（太上天皇）/ 称徳天皇 / 橘奈良麻呂 / 藤原仲麻呂（恵美押勝）/ 道鏡 / 法王 / 和気清麻呂 / 宇佐八幡神託事件 / 光仁天皇 / 偽籍 / 百万町歩開墾計画 / 墾田 / 三世一身法 / 墾田永年私財法 / 初期荘園 / 天平文化 / 鎮護国家 / 興福寺 / 唐招提寺 / 南都六宗 / 律宗 / 戒律/ 行基 / 鑑真 / 大学 / 国学（律令）/ 『古事記』 / 太安万侶（安麻呂）/ 稗田阿礼 / 『日本書紀』 / 『続日本紀』 / 六国史 / 『風土記』 / 『万葉集』 / 防人歌 / 万葉仮名 / 正倉院宝庫 / 正倉院 / 『東大寺法華堂執金剛神像』 / 『興福寺阿修羅像』 / 塑像 / 乾漆像 / 『正倉院鳥毛立女屏風』 / 『螺鈿紫檀五絃琵琶』 / 平安時代 / 桓武天皇 / 長岡京 / 平安京 / 坂上田村麻呂 / 征夷大将軍〔古代〕/ 胆沢城 / 勘解由使 / 健児 / 平城天皇（太上天皇）/ 嵯峨天皇（太上天皇）/ 薬子の変 / 藤原薬子 / 令外官 / 蔵人頭 / 蔵人所 / 蔵人 / 検非違使 / 格 / 式 / 『弘仁格式』 / 三代格式 / 『貞観格式』 / 『延喜格式』 / 弘仁・貞観文化 / 三筆 / 大学別曹 / 最澄（伝教大師）/ 延暦寺 / 比叡山 / 天台宗 / 円仁（慈覚大師）/ 円珍（智証大師）/ 空海（弘法大師）/ 金剛峰寺 / 高野山 / 教王護国寺（東寺）/ 真言宗 / 密教 / 加持祈祷 / 現世利益 / 神仏習合 / 神宮寺 / 室生寺 / 『神護寺薬師如来像』 / 『観心寺如意輪観音像』 / 不動明王 / 一木造（一木彫）
/ 曼荼羅

【第三章貴族政治の展開】（123 語）
藤原冬嗣 / 藤原良房 / 外戚 / 外祖父 / 承和の変 / 橘逸勢 / 橘氏 / 応天門の変 / 応天門 / 伴善男 / 摂政（平安）/ 清和天皇 / 藤原基経 / 関白 / 光孝天皇 / 菅原道真 / 醍醐天皇 / 藤

原時平 / 村上天皇 / 延喜・天暦の治 / 安和の変 / 源高明 / 藤原詮子（東三条院） / 藤原道長 / 一条天皇 / 藤原頼通 / 摂関政治 / 摂関家 / 『御堂関白記』 / 『小右記』 / 田堵（田刀） / 名（名田） / 官物 / 臨時雑役 / 遙任（国司） / 留守所 / 目代 / 受領（国司） / 国守 / 尾張国郡司百姓等解（文） / 成功 / 在庁官人 / 武士 / 武士団 / 家子（いえのこ） / 郎党（郎等・郎従） / 家人（けにん） / 桓武平氏 / 承平・天慶の乱 / （平）将門の乱 / （藤原）純友の乱 / 平将門 / 新皇 / 平貞盛 / 藤原秀郷 / 藤原純友 / 清和源氏 / 滝口の武士 / 遣唐使停止（廃止） / 宋（北宋） / 遼（契丹） / 刀伊の入寇 / 女真族（刀伊） / 高麗 / 国風文化 / かな（仮名）文字 / 平がな（仮名） / 片かな（仮名） / 勅撰和歌集 / 『古今和歌集』 / 『源氏物語』 / 紫式部 / 彰子（上東門院） / 『枕草子』 / 清少納言 / 女房 / 本地垂迹説 / 浄土教 / 阿弥陀仏（阿弥陀如来） / 念仏 / 南無阿弥陀仏 / 末法思想 / 空也 / 源信（恵心僧都） / 『往生要集』 / 寝殿造 / 阿弥陀堂 / 平等院鳳凰堂 / 定朝 / 寄木造 / 『平等院鳳凰堂阿弥陀如来像』 / 大和絵 / 『高野山聖衆来迎図』 / 三跡（蹟） / 小野道風 / 藤原佐理 / 藤原行成 / 束帯 / 女房装束（十二単） / 荘園 / 寄進地系荘園 / 荘園領主 / 領家 / 本家（荘園） / 開発領主 / 荘官 / 名主（みょうしゅ） / 不輸（の権） / 官省符荘 / 不入（の権） / 公領 / 平忠常 / 源頼信 / 前九年の役（合戦） / 安倍氏（前九年合戦） / 源頼義 / 後三年の役（合戦） / 清原氏（後三年合戦） / 源義家 / 藤原清衡 / 平泉 / 奥州藤原氏 / 藤原秀衡

【第四章武家社会の形成】（186 語）

後三条天皇 / 延久の荘園整理令 / 記録荘園券契所（記録所） / 白河天皇（上皇） / 上皇 / 法皇 / 院政 / 院（院政） / 院庁 / 北面の武士 / 乳母 / 鳥羽法皇（上皇） / 知行国 / 八条（女）院領 / 長講堂領 / 熊野詣 / 僧兵 / 強訴（僧兵） / 南都・北嶺 / 神木・神輿 / 保元の乱 / 崇徳上皇（天皇） / 藤原忠通 / 藤原頼長 / 源義朝 / 平治の乱 / 藤原通憲（信西） / 藤原信頼 / 平氏政権 / 平清盛 / 後白河法皇（天皇） / 高倉天皇（上皇） / 平徳子（建礼門院） / 安徳天皇 / 日宋貿易 / 大輪田泊 / 鹿ヶ谷の陰謀（事件） / 歴史物語 / 『大鏡』 / 『今昔物語集』 / 『将門記』 / 『陸奥話記』 / 中尊寺金色堂 / 絵巻物 / 『源氏物語絵巻』 / 『伴大納言絵巻』 / 『平家納経』 / 厳島神社 / 今様 / 『梁塵秘抄』 / 治承・寿永の乱 / 以仁王 / 源頼政 / 福原遷都 / 源頼朝 / 源義仲 / 源範頼 / 源義経 / 壇の浦の戦い / 鎌倉 / 守護 / 大犯三カ条 / 謀叛人の逮捕 / 殺害人の逮捕 / 大番催促 / 地頭 / 奥州藤原氏滅亡 / 征夷大将軍 / 鎌倉時代 / 鎌倉幕府 / 侍所（鎌倉） / 和田義盛 / 公文所 / 政所（鎌倉） / 問注所（鎌倉） / 京都守護 / 封建制度 / 御家人（中世） / 御恩 / 本領安堵 / 新恩給与 / 奉公 / 京都大番役 / 鎌倉番役 / 源頼家 / 北条政子 / 尼将軍 / 北条時政 / 北条義時 / 執権 / 執権政治 / 源実朝 / 承久の乱 / 後鳥羽天皇（上皇） / 隠岐 / 西面の武士 / 北条義時追討の命令 / 六波羅探題 / 北条泰時 /

連署 / 評定衆 / 御成敗式目 / 北条時頼 / 引付衆 / 惣領制 / 惣領 / 庶子 / 分割相続 / 笠懸
/ 犬追物 / 流鏑馬 / 地頭請 / 下地中分 / モンゴル / チンギス=ハーン（成吉思汗）/ フビライ（忽必烈）/ 元 / 三別抄 / 北条時宗 / 元寇 / 文永の役 / てつはう / 異国警固番役 / 弘安の役 / 得宗 / 得宗専制政治 / 永仁の徳政令 / 悪党 / 年貢 / 公事 / 夫役 / 阿氐河荘百姓等言上状（訴状）/ 二毛作 / 刈敷 / 草木灰 / 定期市 / 三斎市 / 宋銭 / 借上/ 為替 / 問丸 / 浄土宗 / 法然（源空）/ 浄土真宗 / 一向宗 / 親鸞 / 悪人正機説 / 時宗 / 一遍 / 踊念仏 / 日蓮宗（法華宗）/ 日蓮 / 題目 / 南無妙法蓮華経 / 坐禅 / 臨済宗 / 栄西 / 曹洞宗 / 道元 / 旧仏教 / 明恵（高弁）/ 叡尊（思円）/ 忍性（良観）/ 『新古今和歌集』 / 鴨長明 / 『方丈記』 / 吉田兼好 / 『徒然草』 / 軍記物 / 『平家物語』 / 琵琶法師 / 慈円（慈鎮）/ 『愚管抄』 / 重源（俊乗房）/ 大仏様 / 東大寺南大門 /禅宗様 / 円覚寺舎利殿 / 運慶 / 快慶 / 『東大寺南大門金剛力士像』 / 『一遍上人絵伝』 / 『蒙古襲来絵巻（詞）』 / 竹崎季長 / 似絵 / 頂相

【第五章武家社会の成長】（156 語）
後嵯峨天皇（上皇）/ 持明院統 / 大覚寺統 / 後醍醐天皇 / 北条高時 / 足利尊氏 / 新田義貞 / 六波羅探題の攻略 / 鎌倉幕府の滅亡 / 建武の新政 / 二条河原の落書 / 光明天皇 / 建武式目 / 北朝（日本）/ 南朝（日本）/ 吉野 / 北畠親房 / 南北朝の内乱（動乱）/ 観応の擾乱 / 足利直義 / 高師直 / 守護大名 / 刈田狼藉 / 半済令 / 守護請 / 国人 / 国人一揆 / 足利義満 / 花の御所 / 南北朝の合体（合一）/ 室町幕府 / 室町時代 / 管領 / 細川氏 / 畠山氏 / 侍所（室町）/ 所司 / 山名氏 / 赤松氏 / 鎌倉府 / 足利基氏 / 鎌倉公方 / 関東管領 / 上杉氏 / 御料所 / 段銭 / 明徳の乱 / 山名氏清 / 応永の乱 / 大内義弘 / 倭寇 / 明 / 勘合貿易 / 勘合 / 寧波 / 朝鮮 / 李成桂 / 宗氏 / 応永の外寇 / 三浦の乱 / 琉球王国 / 北山（山北）・中山・南山（山南）/ グスク（城）/ 尚巴志 / 蝦夷地 / アイヌ / 蠣崎氏 / コシャマインの戦い / 惣（惣村）/ 入会地 / 地下請 / 寄合（惣村）/ 惣掟 / おとな（乙名・長）/ 宮座 / 強訴（惣村）/ 逃散 / 土一揆 / 徳政一揆 / 徳政令 / 正長の土一揆（正長の徳政一揆）/ 足利義持 / 足利義教 / 永享の乱 / 足利持氏 / 上杉憲実 / 嘉吉の乱（変）/ 赤松満祐 / 応仁の乱（応仁・文明の乱）/ 足利義政 / 日野富子 / 細川勝元 / 山名持豊（宗全）/ 下剋上 / 山城の国一揆 / 一向一揆 / 加賀の一向一揆 / 三毛作 / 六斎市 / 座 / 永楽通宝 / 私（模）鋳銭 / 撰銭令 / 土倉 / 酒屋 / 馬借 / 車借 / 守護代 / 戦国大名 / 分国 / 武田信玄（晴信）/ 上杉謙信（長尾景虎）/ 寄親・寄子 / 足軽（中世）/ 分国法 / 喧嘩両成敗 / 指出検地 / 城下町（戦国）/ 兵庫 / 堺 / 会合衆 / 町衆 / 寺内町 / 五山 / 十刹 / 京都五山 / 鎌倉五山 / 蓮如 / 日親 /法華一揆 / 『神皇正統記』 / 『太平記』 / 五山文学 / 夢窓疎石 / 能（能楽）/ 観阿弥 / 世阿弥 / 『風姿花伝』 / 狂言 / 連歌 / 宗祇 / 侘（び）茶 / 北山文化 / 金閣 / 東山文化 /

銀閣 / 慈照寺 / 書院造 / 枯山水 / 竜安寺石庭 / 山水河原者 / 水墨画 / 雪舟 / 『四季山水図巻』 / 狩野正信 / 狩野元信

【第六章幕藩体制の確立】(177 語)
ポルトガル / マカオ（澳門）/ スペイン（イスパニア）/ マニラ / 南蛮人 / 種子島 / 鉄砲 / 南蛮貿易 / 平戸 / イエズス会（耶蘇会）/ フランシスコ=ザビエル / 宣教師 / ヴァリニャーニ（バリニャーノ）/ キリシタン大名 / 天正遣欧使節 / 織田信長 / 今川義元 / 桶狭間の戦い / 足利義昭 / 朝倉氏 / 浅井氏 / 延暦寺焼き打ち / 長篠合戦 / 安土城 / 石山本願寺攻め / 長島一向一揆 / 本能寺の変 / 明智光秀 / 楽市・楽座（楽市令）/ 関所撤廃 / 豊臣秀吉 / 柴田勝家 / 大坂城 / 小牧・長久手の戦い / 惣無事令 / 聚楽第 / 後陽成天皇 / 天正大判 / 検地 / 太閤検地 / 石高（制）/ 検地帳 / 一地一作人 / 刀狩 / 兵農分離 / バテレン追放令 / 文禄の役 / 李舜臣 / 義兵（義民軍）/ 慶長の役 / 豪商〔初期〕/ 桃山文化 / 天守閣 / 姫路城（白鷺城）/ 障壁画（障屏画）/ 濃絵 / 狩野派 / 狩野永徳 / 『唐獅子図屏風』 / 狩野山楽 / 南蛮屏風 / キリシタン版（天草版）/ 千利休（宗易）/ 妙喜庵待庵 / 出雲阿国 / 阿国歌舞伎 / 江戸時代 / 江戸幕府 / 徳川家康 / 大御所 / 江戸城 / 関ヶ原の戦い / 石田三成 / 小西行長 / 加藤清正 / 大坂冬の陣 / 大坂夏の陣 / 豊臣秀頼 / 徳川秀忠 / 徳川家光 / 幕藩体制 / 大老 / 老中 / 三奉行 / 寺社奉行 / 勘定奉行（幕府）/ 町奉行〔江戸〕/ 評定所 / 京都所司代 / 郡代 / 代官（幕領）/ 旗本 / 御家人（近世）/ 大名 / 親藩 / 御三家 / 尾張家・紀伊家・水戸家 / 御三卿 / 一橋家 / 譜代（大名）/ 外様（大名）/ 一国一城令 / 武家諸法度 / 参勤交代（参覲交替）/ 改易 / 減封 / 転封（国替）/ 藩 / 知行（知行地）/ 俸禄（制）/ 禁中並公家諸法度 / 紫衣事件 / 後水尾天皇（上皇）/ 禁教令（キリスト教禁止令）/ 島原の乱 / 原城跡 / 天草四郎時貞（益田時貞）/ 踏絵 / 寺請制度 / 檀徒（檀家・檀那）/ 宗門改帳（宗旨人別帳）/ 村方三役 / 名主（近世農村）/ 庄屋 / 組頭 / 百姓代 / 本百姓 / 水呑百姓 / 村請制 / 検見（取）法 / 定免法 / 本途物成 / 本年貢 / 小物成 / 五人組 / 田畑永代売買の禁令 / 分地制限令 / 町年寄 / 町人 / 冥加 / 運上 / 苗字・帯刀 / えた（穢多）/ ひにん（非人）/ 職人 / 奉公人 / 支倉常長（六右衛門長経）/ オランダ / リーフデ号 / ウィリアム=アダムズ（三浦按針）/ ヤン=ヨーステン（耶揚子）/ 平戸商館 / 朱印船貿易 / 朱印状 / ルソン（呂宋）/ 角倉了以 / 清 / 鎖国 / 奉書船 / 長崎 / 出島 / オランダ商館長（カピタン）/ 唐人屋敷 / オランダ風説書 / 朝鮮通信使 / 己酉約条（条約）/ 慶賀使 / シャクシャインの戦い / 儒学 / 朱子学 / 林羅山（道春）/ 林家 / 日光東照宮 / 狩野探幽 / 俵屋宗達 / 『風神雷神図屏風』 / 有田焼

【第七章幕藩体制の展開】(116 語)

文治政治 / 武断政治 / 由井（比）正雪の乱（慶安の変）/ 牢人（浪人）/ かぶき（傾奇）者 / 徳川家綱 / 殉死の禁 / 末期養子の禁緩和 / 明暦の大火 / 徳川綱吉 / 側用人 / 柳沢吉保 / 荻原重秀 / 元禄金銀 / 生類憐みの令 / 正徳の治（政治）/ 徳川家宣 / 徳川家継 / 新井白石 / 新田開発 / 備中鍬 / 千歯扱 / 千石篩 / 唐箕 / 踏車 / 金肥 / 油粕（糟）/ 干鰯 / 農書 / 宮崎安貞 / 『農業全書』 / 商品作物 / 茶 / 綿（木綿）/ 九十九里浜 / 佐渡（相川）金山 / 石見大森銀山 / 西陣織 / 五街道 / 東海道 / 中山道 / 甲州道中 / 日光道中 / 奥州道中 /脇街道（脇往還）/ 関所（近世）/ 宿駅（宿場）/ 問屋場 / 本陣 / 旅籠（屋）/ 継飛脚 / 東廻り航路（海運）/ 西廻り航路（海運）/ 河村瑞賢（瑞軒）/ 菱垣廻船 / 樽廻船 / 北前船 / 三都 / 江戸 / 大坂 / 「天下の台所」 / 城下町（近世）/ 蔵物 / 蔵元 / 掛屋 / 札差 / 納屋物 / 株仲間 / 問屋（近世）/ 十組問屋 / 二十四組問屋 / 三貨 / 寛永通宝 / 藩札 / 両替商 / 鴻池家 / 三井家 / 林信篤（林鳳岡）/ 湯島聖堂 / 陽明学 / 中江藤樹 /古学派 / 山鹿素行 / 古義学 / 伊藤仁斎 / 古文辞学派（蘐園学派）/ 荻生徂徠 / 『政談』 / 『読史余論』 / 『大日本史』 / 和算 / 関孝和 / 『発微算法』 / 渋川春海（安井算哲）/ 『貞享暦』 / 契沖 / 元禄文化 / 上方 / 俳諧 / 正風（蕉風）/ 松尾芭蕉 / 『奥の細道』 / 浮世草子 / 井原西鶴 / 『日本永代蔵』 / 人形浄瑠璃 / 近松門左衛門 / 世話物 / 『曽根崎心中』 / 歌舞伎 / 尾形光琳 / 『燕子花図屏風』

/ 浮世絵 / 菱川師宣 / 『見返り美人図』 / 友禅染

【第八章幕藩体制の動揺】(120 語)

享保の改革 / 徳川吉宗 / 倹約令 / 相対済し令 / 足高の制 / 上げ米 / 株仲間公認 / 大岡忠相 / 『公事方御定書』 / 目安箱 / 小石川養生所 / 漢訳洋書輸入緩和 / 甘藷 / 町火消 / 田沼意次 / 俵物 / いりこ・ほしあわび・ふかのひれ / 印旛沼干拓 / 手賀沼干拓 / 浅間山大噴火 / 豪農〔近世〕/ 天明の飢饉 / 百姓一揆 / 村方騒動 / 打ちこわし / 寛政の改革 / 徳川家斉 / 松平定信 / 囲米（囲籾）/ 七分積金（七分金積立）/ 人足寄場 / 石川島 / 旧里帰農令 / 棄捐令 / 寛政異学の禁 / 昌平坂学問所 / ラ（ッ）クスマン / 根室 / 大黒屋光（幸）太夫 / レザノフ / 千島 / 最上徳内 / 近藤重蔵 / 国後島 / 択捉島 / 間宮林蔵 / フェートン号事件 / 異国船打払令 / モリソン号事件 / 蛮社の獄 / 高野長英 / 徳川家慶 / 大御所時代 / 大塩平八郎 / 天保の改革 / 水野忠邦 / 株仲間解散（令）/ 人返しの法（人返し令）/ 上知（地）令 / 雄藩/ 薩長土肥 / 薩摩藩（鹿児島藩）/ 琉球（密）貿易 / 長州藩（萩藩）/ 佐賀藩（肥前藩）/ 土佐藩（高知藩）/ 水戸藩 / 問屋制家内工業 / 在郷商人 / マニュファクチュア（工場制手工業）/ 国学（近世）/ 本居宣長 / 蘭学 / 前野良沢 / 杉田玄白 / 『解体新書』 / 伊能忠敬 / シーボルト / 藩校（藩学）/ 郷学（郷校・郷学校）/ 寺子屋（手習所）/ 読み・書き・そろ

/

ばん / 心学 / 石田梅岩 / 尊王論 / 安藤昌益 / 『自然真営道』 / 工藤平助 / 『赤蝦夷風説考』 / 林子平 / 『海国兵談』 / 化政文化 / 小林一茶（一茶）/ 狂歌 / 大田南畝（蜀山人）/ 川柳 / 柄井川柳 / 洒落本 / 山東京伝 / 読本 / 滝沢（曲亭）馬琴 / 『南総里見八犬伝』 / 合巻 / 蔦屋（重三郎）/ 竹田出雲 / 『仮名手本忠臣蔵』 / 鶴屋南北（大南北）〔四世〕/ 『東海道四谷怪談』 / 錦絵 / 美人画 / 役者絵 / 喜多川歌麿 / 東洲斎写楽　　葛飾北斎 / 『富嶽三十六景』 / 歌川（安藤）広重 / 『東海道五十三次』 / 渡辺崋山 / 伊勢参宮（参り）/ 御蔭参り

【第九章開国と明治維新】（147 語）
アヘン戦争 / ペリー / 浦賀 / プ（ゥ）チャーチン / 日米和親条約 / 下田 / 箱館 / 領事（コンシュル，consul）/ 最恵国待遇（条項）/ 日露和親条約 / 得撫島 / 樺太 / 阿部正弘 / ハリス / 孝明天皇 / 井伊直弼 / 日米修好通商条約 / 神奈川 / 横浜（港）/ 居留地 / 領事裁判権 / 関税自主権 / 不平等条約 / 勝義邦（海舟・安房）/ 南紀派 / 一橋派 / 徳川慶福（徳川家茂）/ 徳川（一橋）慶喜 / 松平慶永（松平春嶽）/ 安政の大獄 / 桜田門外の変 / 水戸浪士 / 五品江戸廻送令（五品江戸廻し令）/ 生糸 / 生麦事件 / 尊王攘夷運動 / 尊攘派（尊王攘夷派）/ 公武合体 / 和宮 / 安藤信正 / 坂下門外の変 / 島津久光 / 将軍後見職 / 政事総裁職 / 京都守護職 / 松平容保 / 会津藩 / 薩英戦争 / 八月十八日の政変 / 禁門の変 / 長州征討（征伐）〔第一次〕/ 西郷隆盛 / 大久保利通 / 木戸孝允（桂小五郎）/ 高杉晋作 / 奇兵隊 / 長州征討（征伐）
〔第二次〕/ 坂本竜馬 /薩長連合（同盟）/ 山内豊信（容堂）/ 岩倉具視 / 大政奉還 / 討幕の密勅 / （武力）討（倒）幕派 / 王政復古の大号令（王政復古の詔）/ 世直し / ええじゃないか
/ 教派神道 / 戊辰戦争（戊辰の内乱）/ 鳥羽・伏見の戦い / 江戸（無血）開城 / 奥羽越列藩同盟 / 五稜郭 / 榎本武揚 / 相楽総三 / 赤報隊 / 明治維新 / 五箇条の（御）誓文 / 公議世論 / 開国和親 / 五榜の掲示 / 明治天皇 / 一世一元の制 / 明治 / 版籍奉還 / 知藩事 / 廃藩置県
/ 府知事・県令 / 太政官（明治）/ 参議（明治）/ 工部省 / 藩閥政府 / 血税一揆（騒動）（徴兵反対一揆）/ 徴兵令 / 国民皆兵 / 内務省 / 華族 / 士族 / 平民 / （身分）解放令 / 秩禄処分 / 廃刀令 / 岩倉使節団（遣外使節）/ 日清修好条規 / 明治六年の政変（征韓論政変）/ 江華島事件 / 日朝修好条規 / 台湾出兵 / 琉球処分 / 琉球藩 / 沖縄県 / 樺太・千島交換条約 / 小笠原諸島 / 士族反乱 / 佐賀の乱 / 江藤新平 / 西南戦争 / 田畑永代売買解禁 / 地価 / 地券

/

/ 地租改正 / 地租 / 地租改正反対一揆 / 殖産興業 / 富国強兵 / 富岡製糸場 / 北海道 / 開拓使 / 屯田兵（制度）/ 鉄道開通 / 新橋駅 / 岩崎弥太郎 / 三菱（会社）/ 日本郵船会社 / 新貨条例 / 円・銭・厘 / 国立銀行条例 / 渋沢栄一 / 政商 / 福沢諭吉 / 『学問のすゝめ』 / 学制 / 小学校 / 神仏分離（判然）令 / 廃仏毀釈 / 文明開化 / 太陽暦の採用

【第十章近代国家の成立】(230 語)
自由民権運動 / 民撰議院設立の建白書 / 板垣退助 / 後藤象二郎 / 立志社 / 愛国社 / 立憲政体樹立の詔 / 元老院 / 大審院 / 地方官会議 / 讒謗律 / 新聞紙条例 / 府県会 / 立志社建白 / 国会期成同盟 / 集会条例 / 開拓使官有物払下げ事件 / 国会開設の勅諭 / 明治十四年の政変 / 憲法草案 / 「五日市憲法草案」 / 中江兆民 / 自由党（自由民権）/ 立憲改進党 / 松方正義 / 松方財政 / 紙幣整理 / 日本銀行 / 福島事件 / 河野広中 / 三島通庸 / 秩父事件 / 大同団結運動 / 三大事件建白運動 / 保安条例 / 伊藤博文 / ロエスレル / 井上毅 / 華族令 / 内閣制度 / 内閣総理大臣 / 内大臣（明治）/ 市制・町村制 / 府県制・郡制 / 枢密院 / 大日本帝国憲法 / 臣民 / 欽定憲法 / 天皇大権 / 緊急勅令 / 戒厳令 / 統帥権 / 統帥権の独立 / 陸軍省・海軍省 / 参謀本部 / 海軍軍令部 / 貴族院　　衆議院 / 直接国税 / 民法 / 家族制度 / ボアソナード / 初期議会 / 黒田清隆 / 超然主義 / 山県有朋 / 第１回総選挙 / 第一議会 / 民党 / 政費節減/ 民力休養 / 立憲自由党 / 自由党〔改称〕/ 選挙干渉 / 元勲内閣 / 条約改正 / 井上馨 / 外国人判事任用（井上）/ 欧化政策 / 鹿鳴館 / ノルマントン号事件 / 青木周蔵 / 大津事件 / 児島惟謙 / 陸奥宗光 / 日英通商航海条約 / 小村寿太郎 / 大院君 / 閔妃（明成皇后）/ 高宗 / 壬午軍乱 / 漢城 / 甲申事変 / 天津条約（日清戦争）/ 金玉均 / 脱亜入欧 / 防穀令 / 甲午農民戦争 / 東学 / 全琫準/ 日清戦争 / 下関条約 / 賠償金２億両 / 遼東半島割譲 / 沙市・重慶・蘇州・杭州 / 遼東半島 / 台湾 / 澎湖諸島 / 李鴻章 / 台湾総督府 / 三国干渉 / 臥薪嘗胆 / 進歩党 / 憲政党 / 憲政本党 / 大隈重信 / 隈板内閣 / 軍部大臣現役武官制 / 立憲政友会 / 元老 / 桂太郎 / 西園寺公望 / 戊申詔書 / 地方改良運動 / 桂園時代 / 中国分割 / 租借地 / 旅順・大連 / 閔妃殺害事件 / 義和団の乱 / 「扶清滅洋」 / 義和団 / 北清事変 / 日英同盟 / 非戦論 / 「君死にたまふこと勿れ」 / 日露戦争 / 仁川港・旅順港奇襲攻撃 / 奉天会戦 / 日本海海戦 / 外国債 / 内債 / ポーツマス条約（日露講和条約）/ 旅順・大連租借権 / 長春以南の鉄道利権譲渡 / 北緯 50 度以南の樺太譲渡 / セオドア=ローズヴェルト / ヴィッテ / 日比谷焼打ち事件 / 大韓帝国 / 第一次日韓協約 / 保護国 / 統監府 / 統監 / 韓国軍隊解散 / ハーグ密使事件 / 義兵運動 / 安重根 / ハルビン / 韓国併合 / 朝鮮総督府 / 朝鮮総督 / 京城 / 土地調査事業（朝鮮）/ 関東州 / 関東都督府/ 南満州鉄道株式会社 / 満鉄 / 東清鉄道 / 日露協約 / 辛亥革命 / 孫文 / 中華民国 / 袁世凱 / 官営事業払下げ / 産業革命 / 製糸業 / 座繰製糸 / 器械製糸 / 紡績業 / 大阪紡績会社 / 八幡製鉄所 / 民営

/

鉄道 / 鉄道国有法 / 金本位制 / 財閥 / 持株会社 / 三井財閥 / 三菱財閥 / 寄生地主（制）/ 高野房太郎 / 片山潜 / 労働組合期成会 / 足尾鉱毒事件 / 渡良瀬川 / 田中正造 / 社会民主党（明治）/ 平民社 / 『平民新聞』 / 日本社会党（明治）/ 安部磯雄 / 木下尚江 / 幸徳秋水 / 堺利彦 / 大逆事件 / 「冬の時代」 / 治安警察法 / 工場法 / 三宅雪嶺 / 『国民之友』 / 徳富蘇峰 / 内村鑑三 / 教育勅語 / 津田梅子 / 『万朝報』 / 写実主義 / 言文一致体 / 二葉亭四迷 / 『浮雲』 / 森鴎外 / 『舞姫』 / 夏目漱石 / 『こころ』 / 与謝野晶子 / 正岡子規 / 東京音楽学校 / フェノロサ / 岡倉天心 / 狩野芳崖 / 『悲母観音』

【第十一章第一次世界大戦と日本】（91 語）

大正天皇/ ２個師団増設問題 / 第一次護憲運動 / 閥族打破・憲政擁護 / 大正政変 / 尾崎行雄 / 立憲国民党 / 立憲同志会 / 山本権兵衛 / ジーメンス（シーメンス）事件 / 三国同盟 / 三国協商 / 第一次世界大戦 / サライェヴォ事件 / 青島 / 山東省 / ドイツ領南洋諸島 / 二十一カ条の要求 / 寺内正毅 / 石井・ランシング協定 / ロシア革命 / シベリア出兵 / 大戦景気 / 成金 / 米騒動 / 原敬 / 積極政策 / 政党内閣 / 高橋是清 / 加藤友三郎 / ヴェルサイユ条約 / パリ講和（平和）会議 / ウィルソン / 国際連盟 / 常任理事国（国際連盟）/ 三・一独立運動（三・一事件）/ 五・四運動 / ワシントン会議 / 四カ国条約 / 九カ国条約 / ワシントン海軍軍縮条約 / ワシントン体制 / 協調外交 / 友愛会 / 日本労働総同盟 / 労働争議 / 日本農民組合（戦前）/ 小作争議 / 日本共産党（戦前）/ 青鞜社 / 平塚らいてう（雷鳥，明）/ 新婦人協会 / 市川房枝 / 全国水平社 / 関東大震災　　大杉栄 / 伊藤野枝 / 甘粕正彦 / 普通選挙 / 清

/

浦奎吾 / 第二次護憲運動 / 護憲三派 / 憲政会 / 革新倶楽部 / 加藤高明 / 護憲三派内閣 / 「憲政の常道」 / 普通選挙法 / 治安維持法 / 国体の変革 / 私有財産制度の否認 / 幣原外交 / 大正デモクラシー / 民本主義 / 吉野作造/ 美濃部達吉 / 天皇機関説（国家法人説）/ 石橋湛山 / マルクス主義 / 津田左右吉 / 柳田国男 / 民俗学 / 白樺派 / 芥川竜之介 / プロレタリア文学 / 小林多喜二 / 『蟹工船』 / 横山大観 / 柳宗悦 / 映画 / ラジオ放送

【第十二章第二次世界大戦と日本】（134 語）
戦後恐慌 / 昭和天皇 / 若槻礼次郎 / 金融恐慌 / 取付け騒ぎ / 鈴木商店 / 台湾銀行 / モラトリアム（支払猶予令）/ コンツェルン / 田中義一 / 特別高等警察（特高）/ 蒋介石 / 北伐 / 山東出兵 / 張作霖爆殺事件 / 満州某重大事件 / 張作霖 / 立憲民政党 / 浜口雄幸 / 井上準之助 / 金解禁（金輸出解禁）/ 世界恐慌（大恐慌）/ 昭和恐慌 / 不戦条約 / ロンドン海軍軍縮会議 / ロンドン海軍軍縮条約 / 統帥権干犯問題 / 張学良 / 関東軍 / 満州 / 満州事変 / 柳条湖事件 / 犬養毅 / リットン調査団 / 満州国 / 溥儀 / 執政 / 国際連盟脱退 / 松岡洋右 / 塘沽停戦協定 / 軍部 / 国家改造運動 / 血盟団 / 団琢磨 / 五・一五事件 / 斎藤実 / 管理通貨制度（体制）/ 新興財閥 / 日産コンツェルン / 日窒コンツェルン / 軍国主義 / 滝川幸辰 / 岡田啓介 / 天皇機関説問題（事件）/ 国体明徴声明 / 統制派 / 皇道派 / 二・二六事件 / 広田弘毅
/ ムッソリーニ / ヒトラー / ナチス / 日独防共協定 / 華北分離工作 / 中国共産党 / 西安事件 / 第二次国共合作 / 日中戦争 / 盧溝橋事件 / 南京大虐殺 / 重慶政府 / 近衛文麿 / 近衛声明 / 「国民政府を対手とせず」声明 / 東亜新秩序声明 / 汪兆銘（汪精衛）/ 日米通商航海条約廃棄通告 / 国家総動員法 / 国民徴用令 / 配給制 / 切符制 / 国民精神総動員運動 / 矢内原忠雄 / 独ソ不可侵条約

【第十三章現在世界と日本】（174 語）
連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）/ マッカーサー / 極東委員会 / 対日理事会 / 間接統治 / 幣原喜重郎 / 五大改革指令 / 戦争犯罪人（戦犯）/ A級戦犯 / B・C級戦犯 / 極東国際軍事裁判 / 神道指令（国家と神道との分離指令）/ 天皇の人間宣言 / 公職追放 / 農地改革 /財閥解体 / 過度経済力集中排除法 / 独占禁止法 / 労働組合法 / 労働関係調整法 / 労働基準法 / 教育基本法 / 六・三制 / 教育委員会 / 教育委員公選制 / 日本国憲法 / 主権在民（国民主権）/ 戦争放棄 / 象徴天皇制 / 民法改正（新民法）/ 日本共産党（戦後）/ 日本社会党（戦後）/ 日本自由党 / 日本進歩党 / 吉田茂 / 片山哲 / 芦田均 / 金融緊急措置令 / 傾斜生産方式 / 二・一ゼネスト計画 / 経済安定九原則 / ドッジ=ライン / 単一為替レート / シャウプ勧告 / 政令 201 号 / 日本労働組合総評議会（総評）/ 国際連合 / 「冷たい戦争」 / 中国内戦 / 毛沢東 / 中華人民共和国 / 台湾（国民政府）/ 大韓民国 / 朝鮮民主主義人民共和国 / 朝鮮戦争 / 北緯 38 度線 / 国連軍 / 朝鮮休戦協定 / 警察予備隊 / レッド=パージ / サンフランシスコ

講和会議 / 全面講和論 / サンフランシスコ平和条約 / 日米安全保障条約 / 日米行政協定 / 駐留軍 / 日米地位協定 / 保安隊 / MSA 協定（日米相互防衛援助協定）/ 自衛隊/ 破壊活動防止法 / 基地反対闘争 / 教育二法 / 教育委員任命制 / 日本民主党 / 鳩山一郎 / 社会党再統一 / 自由民主党 / 保守合同 / 55 年体制 / 日ソ共同宣言 / 歯舞群島・色丹島 / 北方領土問題 / 国際連合加盟 / 平和共存 / ビキニ水爆実験 / 第五福竜丸 / 原水爆禁止運動 / 原水爆禁止世界大会 / アジア=アフリカ会議 / ベトナム戦争 / ベトナム反戦運動 / 第四次中東戦争 / ニクソン / 金・ドル交換停止 / ドル=ショック / 先進国首脳会議 / 岸信介 /日米相互協力及び安全保障条約（日米新安全保障条約）/ 安保闘争 / 池田勇人 / 「所得倍増」 / 佐藤栄作 / 日韓基本条約 / 祖国復帰運動 / 沖縄返還協定 / 公明党 / 革新自治体 / 田中角栄 / 「列島改造」 / 日中共同声明 / 三木武夫 / ロッキード事件 / 福田赳夫 / 日中平和友好条約 / 特需 / 国際通貨基金（IMF）/ 神武景気 / 技術革新 / 高度経済成長 / 経済大国 / 貿易の自由化 / 資本の自由化 / 経済協力開発機構（OECD）/ OECD 加盟 / 農業基本法 / 変動為替相場制 / 石油危機
（石油ショック）/ 三種の神器（現代）/ ３Ｃ / 公害問題 / 四大公害訴訟 / イタイイタイ病 / 新潟水俣病 / 四日市ぜんそく / 水俣病 / 公害対策基本法 / 環境庁 / ゴルバチョフ / ペレストロイカ / 冷戦終結 / ドイツ統一 / ソ連邦解体 / 湾岸戦争 / 多国籍軍 / 国連平和維持活動（PKO）/ 中曽根康弘 / 電電・専売・国鉄民営化 / 消費税創設 / 宮沢内閣 / 国際平和協力法（PKO 法）/ 細川護熙 / 55 年体制終焉 / 村山富市/ 阪神・淡路大震災 / 小泉純一郎 / 構造改革 / 郵政民営化法 / 鳩山由紀夫 / 菅直人 / 円高不況 / プラザ合意 / 貿易摩擦 / バブル経済 / バブルの崩壊 / 地球環境問題 / 京都議定書 / 男女雇用機会均等法 / 文化財保護法 / 湯川秀樹 / 東海道新幹線 / 東京オリンピック / 日本万国博覧会 / テレビ放送

資料３高等学校の歴史教育改革アンケートへのご協力のお願い

2006 年秋に高校で必修である世界史を他の科目で代替していた問題が発覚して以来、各方面で高校における歴史教育改革の検討が進められてきました。この世界史未履修問題が発生した背景には様々な要因があるといわれていますが、世界史は高校で初めて本格的に習う上、覚えるべき用語が多く、生徒たちに苦手意識があること。また、高校では週休２日制が導入された上、「総合学習」や「情報」などの新科目が設置され、地歴科関係の授業時間が縮小していること。さらに、小中学校の社会科（歴史分野）では日本史中心の教育が行われているため、大学進学を考える生徒の中では日本史での受験を希望する生徒が多く、世界史の必修を負担に考える傾向があること、などが指摘されています。

このような世界史未履修問題の表面化をうけて、日本学術会議では歴史と地理の専門家による分科会が設置され、2011 年８月に『新しい高校地理・歴史教育の創造―グローバル化に対応した時空間認識の育成―』を提言しました。この中では、世界史Ａと日本史Ａを統合した「歴史基礎」と地理Ａを改編した「地理基礎」を必修とするとともに、受験の中心科目である世界史Ｂと日本史Ｂに関しては歴史的思考力の育成を強化するため、用語を 2000 語程度に限定するガイドラインを作成し、大学側もその範囲で入試問題を出題するように提案しました（www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-t130-2.pdf）。

この提言を受け、世界史Ｂと日本史Ｂの用語を限定する試案を作成するため、2012 年 10 月から日本学術会議の提言作成に関わったメンバーを中心として高等学校歴史教育研究会が三菱財団人文科学研究助成金を得て、高校教員と大学教員５名ずつの構成で発足しました。この間、小中学校社会科（歴史分野）の歴史用語、高校世界史Ａ・日本史Ａの用語、世界史Ｂ・日本史Ｂの用語（ゴシック用語も含む）の教科書ごとの収録頻度、大学入試センター試験の出題用語などの基礎データを作成し、歴史教育における小中高大の積み上げの中で高校の世界史Ｂや日本史Ｂにおける重要用語を限定するガイドラインの試案を作成してきました。この基礎データと検討結果は、高校歴史教育研究会と協力関係にある世界史研究所（南塚信吾代表）のホームページに次のアドレスで掲載してあります。

http://www.history.l.chiba-u.jp/~riwh/japanese/index.php?itemid=214

この調査結果によると、大学受験の中心科目である世界史Ｂと日本史Ｂに関しては、改訂の度に用語が膨らむ傾向が続いており、1950 年代初めには 1200～1500 語程度であったものが、最新の 2012 年度検定の教科書では 3500～3800 語程度に膨張しています。これは歴史学の発展により

新しい研究成果を盛り込む努力の現れという面もありますが、高校の歴史教育で確保される時間数が減少してきているため、高校現場では近現代史まで教えらずに終わるケースが増えているといわれます。

また、一部の大学入試では細かい用語の暗記力を問う出題が続いているため、高校現場ではひたすら用語の暗記を生徒に強いる教育に追われ、生徒に歴史の面白さを伝え、歴史的思考力の育成を図る授業が行えない状況が続いています。その結果、生徒たちの間では歴史学習は暗記科目で、自分の将来には関係ないとして「歴史離れ」する傾向があり、大学進学後の学習に高校の歴史教育が役立っていない傾向も出ているといわれます。

他方、文部科学省では、2008 年度の学習指導要領の改訂にあたり、新科目の検討も議論になったようですが、時間不足から当面、世界史必修が継続されました。その後、2018 年ごろに予定される次の学習指導要領の改訂に向けて、研究開発学校などで歴史基礎・地理基礎など新科目の実験も進行しています。しかし、最近では高校でも日本史を必修にする案が浮上しており、もし、世界史必修を止めて、日本史のみを必修にした場合には高校における世界史履修者の激減が予想され、グローバル化時代に逆行することになりかねません。

このように現在は、高校の歴史教育の在り方を検討する上で重要な岐路に差し掛かっていると考えられます。そこで、高等学校歴史教育研究会、日本学術会議高校歴史教育分科会、日本歴史学協会歴史教育特別委員会では、協議の末、高校の歴史教育や大学入試の在り方を検討するアンケートを多くの関係者にお願いし、改革の基本方向を検討する参考にさせていただきたいと考えました。

このアンケートへの回答は、2014 年８月末までに下記あてに郵送または電子データでお送りくださるようにお願いします。また、できるだけ多くの方にアンケートにお答えいただくためにアンケートに協力いただけそうな方を下記あてにご紹介ください。なお、アンケートに記入いただく際には、回答者の皆さんの高校歴史教育との具体的な関係と回答内容の相関を知りたいと考え、記名回答をお願いします。勿論、無記名を希望される場合は氏名欄の無記入でも構いません。また、アンケート結果は、９月末までに集計し公表する予定ですが、発表にあたっては回答者のお名前を公表することは致しませんので、ご自由に回答くださるようにお願いします。

2014 年 6 月 20 日

高等学校歴史教育研究会代表
油井大三郎
日本学術会議高校歴史教育分科会委員
長久保亨
日本歴史学協会歴史教育特別委員会委員長近藤一成

送付先：郵送の場合〒167-8585 杉並区善福寺 2-6-1
東京女子大学現代教養学部油井大三郎宛メールの場合 yui@lab.twcu.ac.jp

高等学校における世界史・日本史教育に関するアンケート

回答方法

1．カッコ内の該当するものを選んで○で囲んでください。

2．５段階（ 5　4　3　2　1 ）という回答欄には、（5）強くそう思う、（4）そう思う、（3）どちらとも言えない、（2）そう思わない、（1）全くそう思わない、のいずれかの該当する数字を○で囲んでください。

3．その他の自由回答欄にはスペースの範囲内であなたの考えを自由に書いてください。

1．回答のお立場 a）個人 b）学会・研究会・出版社などを代表

b）を選択された場合、その団体名（）

2．記名 ご氏名 3．ご所属無記名

4．高校歴史教育との関わり

ⅰ）高校で担当の場合科目名担当年数　ⅱ）高校歴史教科書執筆の場合科目名執筆年次　ⅲ）高校歴史教科書出版の場合科目名担当年数　ⅳ）大学で歴史教育に関係の場合科目名担当年数

ⅴ）その他（　　）

5．現在の高校歴史教育が抱える問題点をどうお考えですか。

５段階（ 5　4　3　2　1 ）

５段階（ 5　4　3　2　1 ）

ⅰ）歴史系科目に対する生徒の関心・興味が低いこと→　ⅱ）大学入試への対応に追われていること→　ⅲ）大学入試の影響で用語の暗記中心の授業形態になっていること

５段階（ 5　4　3　2　1 ）

→

ⅳ）生徒の思考力を育成する授業が十分実施できないこと→ ⅴ）その他（）

５段階（ 5　4　3　2　1 ）

6．上記の問題点を解決する方法は何だとお考えですか。

ⅰ）歴史系科目に対する生徒の関心・興味を引き出せる教授法に転換すべき

５段階（ 5　4　3　2　1 ）

→

ⅱ）大学に進学しない生徒のことも考えて市民的教養としての歴史教育を重視すべき

→５段階（５　４　３　２　１）

ⅲ）大学側が細かい用語の暗記力ではなく、歴史的思考力を試す出題に代えるべき

５段階（５　４　３　２　１）

→　ⅳ）歴史系科目を担当する高校教員の思考力育成型の教授力をもっと強化すべき

→５段階（５　４　３　２　１）

ⅴ）その他（）

７．2006 年秋に表面化した世界史未履修問題の解決策としてどれが適当とお考えですか。

５段階（５　４　３　２　１）

ⅰ）世界史必履修を徹底させて再発を防ぐべき→　ⅱ）世界史のみの必履修には無理があるので、世界史・日本史の統合科目を新設すべき

→　５段階（５　４　３　２　１）

ⅲ）世界史・日本史・地理を統合した新科目を設置すべき→　ⅳ）日本史のみの必履修に代えるべき→　ⅴ）その他（）

５段階（５　４　３　２　１）

５段階（５　４　３　２　１）

８．改訂の度に高校の歴史教科書の用語数が増加している傾向についてどうお考えですか。

５段階（５　４　３　２　１）

ⅰ）歴史研究の進展の結果として当然→　ⅱ）高校での授業時間の制約を考え用語の限定が必要→　ⅲ）その他（）

５段階（５　４　３　２　１）

９．８－ⅱで用語の限定が必要とされた（５段階評価で５、４を選択された）場合、高校の世界史Ｂと日本史Ｂにおける適当な用語数は次のどれとお考えですか。

ⅰ）3000 語程度　ⅱ）2500 語程度　ⅲ）2000 語程度　ⅳ）1500 語程度ⅴ）1000 語程度

ⅵ）その他（）

10．大学入試で出題する用語数を限定しないと、高校で全時代の教育を修了したり、思考力育成型の授業を増やしたりはできないとの意見をどうお考えですか。

→５段階（５　４　３　２　１）

11．10 で限定が必要とされた(５段階で５、４を選択された)場合、大学入試で限定すべき用語数は次のどれとお考えですか。

ⅰ）3000 語程度　ⅱ）2500 語程度　ⅲ）2000 語程度　ⅳ）1500 語程度　ⅴ）1000 語程度

ⅵ）その他（）

12. 歴史教育における高校と大学の接続に関しての問題点をどうお考えでしょうか。ⅰ）高校までの授業で受けた歴史知識が大学に入る時点までに定着していないこと　５段階（５　４　３　２　１）

→　ⅱ）高校までに受けた歴史系授業が思考力育成に結び付いていないため、大学教育との接続がうまくいかないこと→ ５段階（５　４　３　２　１）　ⅲ）高校時代に歴史系の科目を履修しないで大学に進学する学生が増えているため、歴史系の補修授業を大学でする必要に迫られていること→　ⅳ）その他（）５段階（５　４　３　２　１）

13. その他、高校の歴史教育改革に関連してご意見があれば、ご自由に記入してください。

資料１

表１－ｉ　主要な高校世界史教科書の用語拡大傾向

	1950年代	1960年代		1970年代	1980年代		1990年代	2000年代	
山川出版社	世界史 1308 (1952年)	詳説世界史 2518 (1960年)	詳説世界史 3009 (1967年)	詳説世界史 2901 (1977年)	詳説世界史 3061 (1987年)		詳説世界史 3543 (1997年)	詳説世界史 3379 (2003年)	詳説世界史 3834 (2012年)
帝国書院	世界史 1473 (1959年)	高等世界史 2150 (1963年)		世界史 1872 (1972年)	世界史 1791 (1982年)		世界史 1920 (1999年)	新詳世界史B 3429 (2007年)	新詳世界史B 3443 (2012年)
実教出版	世界史 1687 (1955年)	—		世界史 1278 (1973年)	高校世界史 2538 (1983年)		世界史B 3112 (1993年)	世界史B 3616 (2003年)	世界史B 3767 (2012年)
東京書籍	—	—		世界史 2188 (1972年)	新選世界史 1651 (1984年)		新選世界史B 1275 (1997年)	新選世界史B 1354 (2006年)	世界史B 3789 (2012年)
第一学習社	—	—		世界史 2188 (1972年)	世界史 2792 (1982年)	改訂版 世界史 2138 (1989年)	—	改訂版 世界史B 1566 (2006年)	

資料２

表２－ｉ　主要な日本史Ｂ教科書用語数の変遷（1950 年代―2010 年代）

	1950年代	1960年代	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	2010年代
山川出版社	日本史 1347(1951年)	詳説日本史 1985(1967年)	詳説日本史(新版) 2310(1977年)	詳説日本史(改訂版) 2533(1984年)	詳説日本史 3250(1993年)	詳説日本史 3100(2002年)	詳説日本史 3408(2012年)
清水書院		新編日本史 2248(1969年)	日本史新訂版 1886(1978年)	高等学校日本史 三訂版 2552(1989年)	詳解日本史B 改訂版 2680(1988年)	詳解日本史B 2251(2007年)	
東京書籍		日本史 1442(1964年)	日本史 1421(1973年)	新訂 日本史 2388(1989年)	新選日本史B 1839(1998年)	新選日本史B 1981(2003年)	
実教出版		高校日本史 1432(1968年)	高校日本史 1638(1979年)	日本史三訂版 2466(1988年)	高校日本史B 新訂版 2380(1988年)	高校日本史B 3724(2007年)	日本史B 3767(2012年)